

2015年度 日本学生オリエンテーリング選手権大会 スプリント、ロング・ディスタンス競技部門 報告書



開催日 2015年(平成27年) 10月3日(土)～4日(日)

- ・10月3日(土) スプリント競技部門、
モデルイベント(ロング・ディスタンス競技部門)、開会式
- ・10月4日(日) ロング・ディスタンス競技部門、閉会式

開催地 長野県諏訪郡富士見町

会場 富士見高原リゾート

主催 日本学生オリエンテーリング連盟

主管 2015年度日本学生オリエンテーリング選手権大会
スプリント競技部門実行委員会、
ロング・ディスタンス競技部門実行委員会

協力 NPO オリエンテーリングクラブ・トータス、
富士見高原リゾート、京都府オリエンテーリング協会
オリエンテーリングクラブ サン・スーシ

後援 富士見町、長野県オリエンテーリング協会、
山梨県オリエンテーリング協会



スプリント競技公式マスコット
ちよう
「ふじみ鳥」



ロング競技公式マスコット
「じみーくん」

目次
ご挨拶
イベント・アドバイザー報告 P.3-6
将来への提言 P.7-13
スプリント入賞者コメント P.14-17
スプリントコース解説 P.18-27
ロング入賞者コメント P.28-32
ロングコース解説 P.33-42
地図 P.43-46
スタートリスト P.47-48
スプリント公式成績 P.49-52
ロング公式成績 P.53-60
大会役員

もくじ

ご挨拶	Page 1 - 2
-----	------------

1	イベント・アドバイザー報告	Page 3 - 6
	イベント・アドバイザー 山上 大智	

2	将来への提言	Page 7 - 13
	スプリント実行委員長 齋藤 翔太	
	ロング実行委員長 石澤 俊崇	
	運営責任者 渡邊 彩子	

3	スプリント競技部門 入賞者コメント	Page 14 - 17
	男子選手権-----	14
	女子選手権-----	16

4	スプリント競技部門 コース解説	Page 18 - 27
	コース設定者 結城 克哉	
	女子選手権-----	19
	男子選手権-----	23

5	ロング・ディスタンス競技部門 入賞者コメント	Page 28 - 32
	男子選手権-----	28
	女子選手権-----	31

6	スプリント競技部門 コース解説	Page 33 - 42
	コース設定者 尾崎 弘和	
	女子選手権-----	33
	男子選手権-----	38

7	地図	Page 43 - 46
	スプリント競技部門-----	43
	ロング・ディスタンス競技部門-----	45

8	選手権の部 スタートリスト	Page 47 - 48
	スプリント競技部門-----	47
	ロング・ディスタンス競技部門-----	48

9	公式成績	Page 49 - 60
	スプリント競技部門-----	49
	ロング・ディスタンス競技部門-----	53

10	大会役員	Page 60 - 61
----	------	--------------

ご挨拶

日本学生オリエンテーリング連盟会長
河合 利幸

今回からスプリント競技が正式種目として初めて実施され、春のインカレとともに秋も2日間の競技となりました。ともすればトラブルにつながる恐れもある中、まずは無事に日程を終了できたことを喜びたいと思います。これも多忙な日々の合間を縫って準備と運営を担っていただいた実行委員とその関係者の皆様のご尽力のたまものといえます。本当にご苦労様でした。

それにしても、閉会式終了までの2日間にわたり晴天に恵まれ、暑くもなく寒くもなく、風も穏やか、しかも八ヶ岳だけでなく富士山や南北アルプスの山々まできれいに見えるという絶好のコンディションは、そうそうあるものではありません。長い間インカレを見てきていますが、今回のような例はまれです。会場に来る途中、思わず車を駐めて写真を撮ってしまいました。同じ会場で開催された翌週のロゲイニング大会では、午前中は雨に降られたので、なおさらインカレの印象が強く残っています。まるで八ヶ岳山麓での初めてのインカレを祝福するかのようで、参加した選手の皆さんは非常に幸運だったといえるし、最高のテレインと地図でレースを心ゆくまで楽しめたのではないのでしょうか。

さて、インカレのレース結果にはいつも驚かされます。今回も例外ではありませんでした。スプリントとロングという性格の違う種目で、しかも男女とも同じ顔ぶれが1位、2位を占めるなど誰が予想したのでしょうか。さらに1年生男子が優勝するのは史上初。男子はロング(クラシック)・ミドルともこれまで2年生での優勝がそれぞれ1回ずつあるだけなので、いかにすごい記録かわかるというもの。初めてのインカレでこのような記録に接した1年生の皆さんはどのように感じたのでしょうか。次は負けないぞ、自分もいつか表彰台に、と思ってもらえれば幸いです。

始まったばかりのスプリント競技ですが、今後も継続して開催していくことは簡単なことではありません。開催のきっかけは学連側からでしたが、選手の皆さんのスプリントにかけける思いがあれば、これまでのインカレがそうであったように、困難を乗り越えて続けていくことができるでしょう。

最後になりましたが、整備されたとてもよい会場や設備、宿泊施設をご提供いただいた富士見高原リゾート、テレインとなった富士見町、小淵沢や原村のペンションをはじめとする地元関係者の皆様には、様々な面でご支援ご協力をいただき、本当にありがとうございました。主催者の日本学連を代表して、厚く御礼申し上げます。

日本学生オリエンテーリング連盟幹事長
五味 あずさ

インカレスプリントロングが無事に終わりました。記念すべき第一回インカレスプリントも初の八ヶ岳テレインで行われたインカレロングも晴天に恵まれ、最高の環境で幕を閉じたかと思います。

第一回インカレスプリントは、皆さんの目にどう映ったでしょうか。テクニカルかつスリリングなコースが提供されたスプリントでした。競技者にとっても観戦者にとっても他の競技種目とは異なる魅力を感じるものであったのではないかと思います。これから、インカレスプリントを代々続くものとするよう日本学連全体で盛り上げ努力できたら何よりです。

インカレロングは、一年生にとっては初めてのインカレでした。自分の走り、そして先輩達の走りを見て何を感じたでしょうか。インカレロングを終えて、よりオリエンテーリングをしたいと考えていると思います。上級生は、悔しさや嬉しさ色々な感想を持ったインカレロングであったと思います。皆が全ての力をだしきれぬわけでは無いですが、インカレロングに出走して良かったという気持ちは皆が持っているのではないのでしょうか。まだ、今年のインカレは終わりではありません。このインカレロングで感じたことを存分に生かし、インカレミドルリレーでまた全力の戦いが出来るよう努力してほしいと思います。

最後になりますが、こうしてインカレスプリントロングが大会当日の大きな問題なく開催されたことは、地元の方の協力、そして何より実行委員会の皆様の地道な準備があったからこそです。素晴らしい舞台でオリエンテーリングが出来ることの裏側には多くの方の努力があることを忘れないでいたいと思います。このインカレスプリントロングに関係された皆様に感謝し、日本学連幹事長の言葉とさせていただきます。本当にありがとうございました。最高のインカレとなりました。

2015 年度日本学生オリエンテーリング選手権大会
スプリント競技部門実行委員長
齋藤 翔太



第1回のインカレスプリントが無事成立し、まずは何より安心しています。天気にもこの上なく恵まれ、「花の里」には花もまだ多く残っており、最高のシチュエーションだったのではないのでしょうか。今回の大会が参加者の皆さまの心に残るものであったならば、運営者の一人としてそれ以上嬉しいことはありません。

しかし、大会として反省が残る部分もいくつかありました。一つは、40 番コントロールの不通過が頻発したことです。もちろん試走は何度も繰り返し行いましたが、この事態は運営者側では想定していなかったものでした。スプリント競技はハイスピードでかつ地図が細かいが故に、運営者側と競技者側で見え方が大きく異なるということを痛感いたしました。また、通行不能部分を通過したことによる失格者が多く出たことも残念でした。これについてはまだ「スプリント競技」が学生の皆さまに浸透し切っていない側面なのではないかと思っています。今後、今回の選手権参加者自身がスプリント競技の面白さだけでなく、是非フォレスト競技とのルールの違いも併せて啓蒙していきましょう。さらには、いくつか用意していた演出アイテムを当日アピールし切れなかったことも運営者としては悔いが残る部分です。これは実は大会当日の朝に、事前に全く把握していなかったアウトドアイベントが競技エリア内で開催されることが発覚し、急遽それへの対応に労力を割かれてしまったことが大きな原因でした。交渉は何とか競技に支障のない形へ進められ、大会は無事開催することができましたが、場合によっては開催中止すらあり得る事態でした。競技者以外の人の多いところで行うスプリント競技の開催の難しさを一番感じたところでした。

以上、色々と言いましたが、大会後の挨拶でも申し上げたとおり、インカレスプリントは今回の大会が始まりです。これから学生側と実行委員会側双方から建設的な意見を出し合い、他のインカレ同様これからさらに良い大会にしていただければと思います。

末筆になり誠に恐縮ですが、今回のインカレスプリント開催に当たりましてご尽力・ご協力いただきました富士見高原リゾートを初めとした地元の皆さまに、運営者を代表して御礼申し上げ、実行委員長の挨拶とさせていただきます。

2015 年度日本学生オリエンテーリング選手権大会
ロング・ディスタンス競技部門実行委員長
石澤 俊崇



これまでも数多くの大会運営に関わってきましたが、今回のインカレほど自分にとってやり遂げた、と感じられる大会は初めてだと思っています。やり遂げた、と胸を張っては言えないほど、自分が実際に働いた部分は小さく、大部分は若くて優秀な実行委員会の皆さんの活躍によって成り立ったインカレだったのですが。

自分にとってもっとも大きな意義は、大好きな八ヶ岳でインカレを開催できたこと。それも、半ば封印されていた素晴らしいトレインを使えるようにできたことにあります。インカレは、そのほとんどが素晴らしいトレインで開催されるわけですが、今回の富士見の森は、試走や設置の際にも改めて感動してしまうほどでした。インカレで学生の皆さんが味わったのは、この素晴らしいトレインのほんの一部に過ぎません。ぜひ、次の春以降、合宿などでも存分に味わってみたいと思います。日本のトレインではなかなか練習できないような、フラットで特徴物の少ないエリアでの直進など、多くの選手にとって技術的な上達の助けになると確信しています。

今回のインカレを通してもう一つ感動したのは、若い OB・OG たちの献身的な頑張りでした。自分も所属するトータスのメンバーに限らず、多くの実行委員から、少しでもいいインカレにしようという熱意が伝わってきました。インカレの準備はそれなりに大変なのですが、おかげで辛いという気分になることはありませんでした。きっとこの先のインカレも、多くの若者たちによって紡がれていくのでしょう。素晴らしい仲間たちと一緒にインカレを開催することができて、本当に幸せでした。

八ヶ岳インカレの開催にあたっては、富士見高原リゾート様はもちろんのこと、ペンションのオーナーのみなさんや、トレイン内にお住まいの方々など、多くの方の好意に支えていただきました。今後このトレインを利用されるみなさんにおかれましても、地元の方々への感謝の気持ちを忘れないようにしていただき、いつまでもオリエンテーリングの合宿や大会が行えるトレインとして大切にしていきたいと思います。今回のインカレだけでなく、来春以降の「富士見の森」でのオリエンテーリングを通して、多くの人へ八ヶ岳トレインやそこでのオリエンテーリングの素晴らしさを知ってもらえることを願っています。

1

イベント・アドバイザー報告

イベント・アドバイザー 山上 大智

1

就任の経緯

今回私がイベント・アドバイザーに就任することになったのは、「日本学生オリエンテーリング選手権大会スプリント競技部門実施に関するガイドライン」の10項の『アドバイザーは、当面の間、前の大会で重要職を勤めたものが就くことを強く求める』という記述によります。福井でのICL2014で行われた第2回スプリント試行大会で運営・競技の責任者を務めた経験を生かせればと思い、引き受けました。

当初はスプリント競技部門のみの就任のつもりでしたが、実行委員会よりロングのアドバイザーの兼任を打診いただきました。上記のガイドラインにも『インカレロングとの兼任をしないことが望ましい』とあり、私自身もロングとスプリントの両方が可能か不安もありましたが、トータス関係者をはじめ経験豊富な人材が揃っていることから、引き受けることとしました。

実際にやってみてスプリントとロングの両方のチェックを行うことは、単純に2種目になるというだけでなく、①トレインが異なる ②地図が異なる ③競技責任者が異なる といった理由から、なかなかハードな部分がありました。十分にチェックできなかった部分もあり、申し訳なく思っています。こういった点から、アドバイザーを2人設けて、スプリントとロングを分ける、あるいは競技と運営とを分けて担当することがより望ましいと思われます。

2

イベント・アドバイザーの人選と役割について

インカレの運営にあたり、イベント・アドバイザーが考慮すべき特に重要な項目として以下があると思います。

- ① 渉外
- ② 競技の公平性、コースの質
- ③ 演出

この中で②と③を達成するためには、

- 近年のインカレの様子など今の学生の状況をある程度知っていること
- 世界のオリエンテーリングのスタンダードや潮流を知っていること

が望ましいと思われます。特に後者に関してインカレは全日本と並ぶ大会でもあり、そこで提供されるコースは多くの競技者・運営者が参考にするため、各種目の規格に則った、日本オリエンテーリング界の規範となるべきコースが提供されるべきだと思います。

一方で、上記全てに明るいことをイベント・アドバイザーに求めるのは、理想ではあるものの難しいものがあります。そのため、責任者3役+イベント・アドバイザーでカバーできれば良い、とも思います。責任者3役は実行委員会内で決めますが、イベント・アドバイザーを技術委員会・理事会を経て学連から派遣する（+費用は学連が持つ）という形を取ることは、インカレにふさわしい大会の開催に主催者である学連も責任を持つということで、必要なことと思われます。

3 インカレ実施規則 第34条に基づく確認事項

「日本学生オリエンテーリング選手権実施規則」の第34条には、イベント・アドバイザーの行う確認事項が記載されています。その詳細な報告は幹事会・技術委員会・理事会に対して行いますが、ここではいくつかの留意点があった箇所のみ報告いたします。

◆会場、トレインの適格性を確認すること

2015年2月に、実行委員会の主要メンバーと共に会場とトレインの下見を行いました。その際、会場は申し分のないものの、スプリント競技を行うトレインとしては、多少不安の残るものでした。ただ、

- コースを組めないほどではないこと
- 既に渉外が進み、大会の形もできていた頃だったこと
- ロングも含めて同一会場にすることで、運営が円滑になること

といった理由から、トレイン変更までは行わないことにしました。

このように、アドバイザーはトレインの是非について判断する権限を持っているものの、アドバイザーの就任後にトレインや会場の変更を行うことは、現実的に難しいことも多いと思われます。そのため、理事会によりインカレトレインが承認される段階で、一定のチェックが入ることが望ましいでしょう。

◆計時システムの信頼性と正確性を判断すること

今回の計時は、非常に能力の高い運営者が2名担当していただいたおかげで、トラブルはほぼありませんでした。ただし、今回は1秒単位での計時となりましたが、今年度の全日本スプリントでは0.1秒差でME優勝が決まったように、スプリントでは0.1秒単位での計時を行うべきです。私自身もこの分野に関しては力をお貸しできず、大変申し訳なく思っております。ぜひ次回の大会では0.1秒での計時にチャレンジしていただきたいと思っております。

◆式典が適切かどうか判断すること

これまでの式典では、各クラスの表彰ごとに花束贈呈・写真撮影の時間を設けていましたが、

- 表彰の時間が長引き、その後のスケジュールに支障をきたすこと
- 写真撮影に多くの学生が殺到することで、怪我の恐れがあること

から、写真撮影等の時間は取らないこととなりました。多少寂しい思いもあるかもしれませんが、上記2点の理由により、この形式で今回は成功だったと思われます。今後の参考にさせていただければ幸いです。

4 第1回インカレスプリントについて

今回の第1回目の開催を無事終えたインカレスプリントについて、いくつか感じたことを述べたいと思います。

◆トレインと渉外リスクについて

今回のコースの肝の一つに、下部通行可能な建物や階段が多いトレイン北部エリアがありました。コース設定者の結城君は、このエリアを最大限に生かそうと苦心してコースを組んでくれましたし、今回のコースの難所となったのではないのでしょうか？

一方で、このエリアは多くの観光客が訪れるエリアであり、最も渉外問題が起きやすいエリアでもあったので、アドバイザーとしてこのエリアの使用を許可して良いか非常に悩みました。

最終的には、看板を多数設置した上で11人という多くの運営者を配置し、選手の動線を工夫す

ることで用いることとしました。当日はトラブルが無く競技を終えることができました。しかし、これはあくまで結果論であり、選手権の競技の後には団体客がルート上にいた時間帯もあったということで、非常に綱渡りの競技成立だったと思われます。

一般にスプリントは見通しの効く広い公園よりも、狭い道や建物など障害物の多いトレインの方が競技の質は高まります。しかしそれは同時に、人が多いエリアであったり、また人にぶつかるリスクも高まるエリアであり、涉外問題や競技不成立の起きるリスクが高くなりがちです。

トップスピードで走っている際に人にぶつかると、相手に大きな怪我を負わせ、相手の人生を狂わせるリスクがあり、絶対に避けなければならないことです。またインカレは大学4年間しか出られず、更にトップコンディションで選手権クラスに臨める回数は限られています。そのような大会が不成立となるのは、非常に辛いことだと思います。

以上より、私自身は『涉外問題無く』『成立すること』を第一に考えたトレイン選び・コース設定を行うべきかと思います。それは競技の質を多少落とすことに繋がる可能性はあるかと思いますが、運営者・競技者共に、最も大事なことを踏まえた上で大会に臨み、今後のインカレスプリントの成功を目指してほしいと思います。

◆失格の多さについて

今回の大会では多くの失格者が出ました。ME では全体の 1/4、WE では全体の 1/2 が失格となっています。その要因としては、多かったものは

- ① 通過禁止で表記されているエリアの通過
- ② 誘導区間の不通過
- ③ コントロール飛ばし

といったものでした。特に②に関しては、ロング競技でも見受けられました。

スプリントは多種目よりも失格者が多くなりがちで、世界選手権ですらこういった状況が起きることはありますが、大会として失格が多いことは良いことではありません。

基本的には

- ① 通過禁止の箇所・表記を見抜き、避けた上でルート選択を行う
- ② 誘導区間は現地・地図の両方を見て、誘導に従う
- ③ コントロールをすべて回る

というのは競技者の責任であり、競技力の向上が求められます。

同時に、大会運営側も失格を誘発しない競技の提供が求められます。『失格を誘う』コースは、オリエンテーリング競技として正しいものではありません。今回の大会で競技不成立とするほどの不備はなかったと捉えていますが、より失格を防ぐベターな手段はあったらと思う、提供できなかったのは私の力不足でもありました。

今回の反省を基に、次回の大会ではより失格者が少なく、より多くの人が満足できる競技が実施されることを願っています。

◆遅刻スタートの是非について

今回のインカレスプリントでは、「スプリントは 1 分間隔なので、遅刻者を正規のスタート時刻の間に出すと競技場の公平性が損なわれる」という実行委員会からの要望により、遅刻スタートを認めないこととしましたが、これには「そこまでする必要があるのか」と技術委員会・理事会から反対意見も出されました。

最終的には

- ① 競技中に前を走っている選手のルートチョイスが見えうる部分がある
 - ② スタート前に、一度選手を隔離し、更に3分前のコールも行うので、遅刻は起きにくい
- といった事情から、遅刻スタートを認めないという方針で実施することとしました。

私自身は必ずしもスプリント競技全般で遅刻スタートを認めないとする必要はないと思いますが、その際に

- 遅刻そのものを減らす工夫（待機所に現在時刻を示す時計を置く、わかりやすい誘導、トイレの数など）
- コントロール位置や脱出方向、ルートの分かれ目が、後ろから来る競技者の死角となるようにし、競技の公平性を高める工夫

等がされていると、より好ましいと思います。

5 おわりに

本大会が無事に成立したのも、実行委員会の頑張りとおータスのお力添え、何より会場や資材の使用をはじめ様々な便宜を図っていただいた富士見高原リゾートの方々のご協力によるものです。私自身力不足の面も多く、以上の方々に大変感謝を申し上げたいと思います。

今大会で良いテレインがハヶ岳に復活したこともあり、今後地元の方との渉外トラブルなく末永くハヶ岳でオリエンテーリングが楽しめることを祈っております。



2

将来への提言

スプリント競技部門 実行委員長 齋藤 翔太
 ロング・ディスタンス競技部門 実行委員長 石澤 俊崇
 運営責任者 渡邊 彩子

1 はじめに

本稿では、今回初のインカレスプリントとインカレロングの2日間大会を運営していくに当たって、これを機に日本学生オリエンテーリング連盟に今後考えていって欲しいと感じたことを記載いたします。

2 スプリント及びロングに共通する事項

(1) 一部役職の役割分担の明確化

インカレスプリントの開催に当たっての幹事会の議論で話に出ていたことですが、今回運営を通じて、スプリントとロングで競技の質が大きく異なることから、スプリント・ロングの2日間大会を開催する際は、以下の役職は可能な限り分離し、それぞれの競技を専門的に担当する体制とすることを推奨いたします。

- ① 実行委員長
- ② 競技責任者 及び コースプランナー
- ③ 演出責任者 (演出パート内部での明確な役割分担でも可)
- ④ イベント・アドバイザー

今回はイベント・アドバイザー、演出責任者ともに兼務の体制としていましたが、山上氏・小林氏の個の力に頼る部分が大きく、次回以降はそれぞれ設置した方が望ましいと思います。

ただし一方でスプリント・ロング両競技に関連する部分はもちろんあり、完全に住み分けできるものではありません。これまで以上に入念な打ち合わせ・意思疎通が必要です。

(2) 富士見ペンションにおける渉外問題の発生

今回のインカレロングでは、前日にインカレスプリントが実施されることを配慮して、モデルイベントエリアを事前に公開し、8月から利用可能な状態としていました。利用にあたっては各大学団体から日時などを事前に実行委員会へ連絡してもらい、実行委員会から富士見高原リゾート様へ連絡を差し上げる体制としていました。また、インカレ本番の競技に影響しないよう、駐車場の位置やトレインへの移動ルートについても決めていました。ところが、これらのことを一切守らないばかりか、地元ペンションの駐車場を勝手に利用してトラブルを起こした団体がありました。

このため、モデルイベントは9月3～6日の期間モデルイベントエリアの利用を禁止して、実行委員会が9月5日にご迷惑をおかけしたペンションへ謝罪と事情の説明に伺いました。幸い、ペンションを経営されているご夫婦の理解を得ることができましたので、9月7日より移動ルートや利用のルールなどを変更した上でモデルイベントを再開することができました。が、もし仮にモデルイベントエリアが利用できなくなっていた場合、競技の公平性という観点から、インカレロングは中止となっていたかもしれません。

今回の事案を通して考えたのは、学生による軽はずみな行為が引き起こす重大な渉外問題についてです。もしもインカレが中止になっていれば、実行委員会や地元で協力いただいた皆さんの苦勞が水の泡となるだけでなく、経済的な実害が発生していました。インカレですから、学生クラブが

賠償するのは難しいレベルの金額になります。しかし、実行委員がそれぞれ自分たち学生だった頃のことを考えても、地元に対する配慮などが欠けていた、そのような意識が希薄であったようにも思います。

大きな団体であれば、上級生から下級生に対して啓蒙が行われ、自分たちが他人の土地を利用してオリエンテーリングをさせてもらうにあたって注意すべきことなどが伝えられている可能性が高いように思います。しかし、今回問題を起こしたような中堅あるいは小規模な団体の場合、上級生であっても全く配慮がないことも考えられます。

実行委員会としては、今回の渉外問題を機に、インカレに限らず、練習や合宿を行うにあたってのルール作りなどを学連としてもう一度考えてもらいたいと思っています。特に、新たに加わった団体や、小規模で知識のある上級生がいない団体などに対してどのようにアプローチして、どのようにルールを守らせるのか、難しい課題ではありますが、考えていただきたいです。

かつてインカレが実施されたテレインの中にも、学生クラブが渉外問題を起こして使用を自粛、あるいは完全に使えなくなっているものも存在します。渉外問題は、例えば悪意のない下級生のちょっとしたミスによってでも簡単に引き起こされるものです。今回、あまり大げさにはしませんでした。インカレが中止となる可能性は十分にありました。ことの重大性を再認識いただき、多くの学生自身が自分のこととして考える機会をもってもらいたいと思います。

(3) 宿泊手配

本大会での宿泊については富士見高原リゾート様に一括で手配をしていただきました。しかしその際に、宿泊料金のことで食い違いがありました。実行委員会側は提示された宿泊料金が「内税」であるという前提で話を進めていました。しかし、宿泊数が決まり改めて料金の確認をしたところ、富士見高原リゾート様は「外税」という前提で、自社宿泊施設や外部のペンション等と話を進めていたことがわかりました。これについては当時学連のメーリングリストにて展開した通りですが、結果として一部の大学の方々へは要綱記載の宿泊料金よりも多い金額を請求することとなりました。これはひとえに実行委員会による不手際に他ありません。この場をお借りして改めて該当校の方にお詫び申し上げます。次回以降のインカレではこの宿泊料金の点について、入念に確認いただきたいと思います。

3 スプリントに関する事項

(1) コース上の役員の配置

今回インカレの運営面におけるスプリント競技とロング競技の大きな違いの一つとして、競技コース上に多くの役員を配置したことが挙げられます。インカレスプリント運営者50名のうち、実に22名の役員をコース上に配置しています。実はこれでも、競技責任者と人事責任者のせめぎあいにより最低限の人数まで削った結果となっています。これは、

- ① 競技者及び競技者以外の一般人の安全面確保
- ② 通行禁止エリアの監視

が大きな目的であり、当該役員の競技成立における役割は、他の競技形式よりも遥かに大きいものです。

幹事会の議論では、場合によっては学生にも協力を仰ぐことを否定はしていませんでしたが、今回は学生にぜひ会場にいて欲しいとの考えから、何とか学生以外の役員を調達しました。しかし、競技者以外の一般人が多い場所（≒魅力的なスプリント競技が開催できる場所）で本格的なスプリ

ント競技を開催しようとする、これほど多くの役員が必要となってくることを皆さま認識しておいていただければと思います。

一つの解決の案としては、早期からの渉外活動が考えられます。長期前からの渉外活動の実施が、少しでも良い条件が整える糸口になるかと思います。

（２）演出

スプリント競技の演出においては、他の競技形式と同様のいわゆる「アリーナ型」の他、テレイン内を自由に観戦できる「フリー観戦型」が想定されます。それぞれの特徴としては、以下のことが挙げられます。

◎ アリーナ型

- ・ 速報、実況、インタビューなどの演出資源を集中させることができる
- ・ 観戦者を１か所に集めることで、盛り上がりが増す

◎ フリー観戦型

- ・ コース内の観戦したいところで観戦できる
- ・ レーンをただ走っている選手でなく、ナビゲーションをしている選手を間近で見られる
- ・ トップ選手の走りを間近で見られるという、他の競技形式にはない特別感がある

その上で、今回は以下の理由から「アリーナ型」の演出を採用しました。

- ・ 第１回目の開催ということで、いつものインカレに近いアリーナ型の方が観戦者の戸惑いが少ないであろうこと
- ・ インカレらしさ、インカレらしい応援には、アリーナ型の方が向いていると判断したこと
- ・ フリー観戦だと、第２回試行大会で見られたように、観戦者が競技の公平性を妨げる可能性があること
- ・ 今回のテレインは高低差が比較的多く、フリー観戦には適したコース設定でないこと

今回は、従来のインカレの観戦方式にのっとりアリーナ型としましたが、次回以降フリー観戦型を採用する余地はあります。スプリント競技でフリー観戦型を採用するには、観戦者のマナーが重要で、日本のオリエンテーリング文化の中にはまだ根付いていません。ですので、観戦者となる学生の皆さんが、「観戦者のマナー」を身に付けてもらえば、フリー観戦というより臨場感のある観戦方式をとることにつながると考えます。

また、第１回の開催であることから確実に競技を成立させることに重点を置き、今回いくつかの新たな取り組みは行ったものの、特別に大きな労力を割いた演出は行っておりません。その上で、以下２点について考えていただければと思います。

① 速報ボードの必要数

今回インカレスプリントでは、以下の３か所で中間計時を行いました。

- Ⅰ. コース上約３０％地点
- Ⅱ. コース上約５０％地点（ビジュアルコントロール）
- Ⅲ. 接近情報（ラスト前コントロール）

上記のうちⅢ. についてはアナウンスのみとする一方で、Ⅰ.・Ⅱ. 及びフィニッシュ情報の３か

所について速報ボードによる掲示を行いました。結果として、選手ごとの通過間隔が短いというスプリント競技の特性から、速報ボードの掲示に想定以上の労力が割られました。その業務の目まぐるしさは他のフォレスト競技を大きく上回るものでありました。

ここまで労力を割いている一方で学生はどこまでこの速報ボードを重視しているのか、来年度以降の運営者に何らかの形で伝えていただけないでしょうか。この労力を他の演出に回した方がより様々な魅力的な取り組みができるのではないかと考えています。運営側としては、上記□. については巨大スクリーン等のデバイスがあればそちらに委ねたいところでしたが、現状そこまでの環境を整えるのは周辺設備の状況次第であると同時に、予算的にも容易な話ではありません。

これまで学生側がインカレの演出について考えることはあまりなかったかと思いますが、今回を機に学生の主に観戦する側がどこまでの観戦情報とその提供方法を求めているのかを実行委員会に提供し、実行委員会側とお互いの最適解を模索していければ今後のより良いインカレにつながるのではないかと思います。

② 各種観戦用アイテム

今回インカレスプリントでは、以下3点の観戦用アイテムを用意しました。

- イ. 無料の観戦ガイド（春インカレで配る観戦ガイドと同種のもの）
- . 有料の観戦用地図（裏面にルート解説 HP の QR コードを印字）
（URL：<http://www.orienteering.com/~icl2015/guidance/day1/>）
- ハ. オープンクラス出場者の地図事前配布

□. 及びハ. については今回インカレスプリントを開催するに当たって新たに取り組んだことで、実行委員長の挨拶に記載のとおり諸事情により存在のアピールやスタート前のルート解説の実施等、やりたかったことがやり切れなかった部分です。□. については本報告書記載のコース解説と大幅に異なり、競技責任者の試走によるベストルートの検討や各レグの攻略ポイント等、リアルタイムでの観戦に役立つ情報が記載されておりました（詳細は上記 URL 参照）。①同様、学生としてどこまでの観戦情報をどういった提供方法で求めているかを考えてもらえると良いと思います。

実行委員会としては、まずイ. については、他の競技部門同様あった方が良くと考えます。ただし今回は、早期に作成することで印刷は外注するという新たな取り組みを実施しており、紙質の高いものとなっています。また□. ついては、学生からのこれに対する必要性や価格感等の感想が最も気になる部分です。印刷物の作成には大きな労力はかけていませんが、コース解説には多くの時間をかけています。ただし、コース図を印刷していることから、販売用地図同様の扱いとして有料にせざるを得ないと考え、一方で最初の取り組みでその需要も不透明であったことから自前での印刷となり、紙質が高いものとはなっていません。最後にハ. については、3つの中ではオプション的意味合いが一番強く、運営的な労力もほとんどかけていません。併設クラスの開設状況によっては今後も検討してみたいかかと思っています。

（3）チャレンジクラスとロング競技モデルイベントとのスケジュールの兼ね合い

今回は当初チャレンジクラスについては1分間隔でのスタートを予定しており、確保できる時間の関係から100名の定員設定をしておりました。しかし蓋を開けてみると300人超と予想を大幅に上回る申込みがあり、開催方法を再検討することとなりました。実行委員会内で議論を重ね、最終的に以下の事項を優先することになりました。

- ・ 申込者全員が希望通りチャレンジクラスを出走できること
- ・ チャレンジクラスの出走者全員がそのスタート時刻によりロング競技のモデルイベントの参加に支障が生じないこと
- ・ 参加費収入を確保すること

その結果として、チャレンジクラスは10秒間隔のスタートとなり、競技性よりも実際に選手権クラスのコースを体験してもらうことが優先される形となりました。これには賛否があるかと思いますが、本問題は今後もインカレスプリントとインカレロングを2日間大会として開催する場合は避けて通れない問題です。どのような形式を採用するかは、その年ごとの実行委員会の優先順位によって大きく変わってくるかと思います。今回の方法が一つの参考になればと思います。

4 ロングに関する事項

(1) 埋もれていたトレインの復活

ロング種目を行った「富士見の森」は八ヶ岳南麓エリアの中でも屈指の良トレインであることはわかっていました。しかし、トレイン内に居住されている方とのトラブルや、地図が古いものの広大なトレインのためリメイク調査がなかなかされないことなどがあり、事実上封印されている状態でした。この、「富士見の森」を復活させることが、今回の八ヶ岳インカレ開催の最大の動機付けとなりました。

詳細をここに記すことは控えますが、著作権元の東京 OL クラブとインカレ実行委員会がどちらも得となるような条件で合意し、プロマッパーの西村氏が調査した、富士見の森の地図でインカレロングを開催できる運びとなりました。インカレを素晴らしいトレインで開催できたことはもちろんですが、今後もよく調査された素晴らしいトレインで合宿などを行うこともできるようになったことに大きな意義を感じています。

今回のようなことができたのは、インカレの会計規模があったからと言えます。参加人数を見込むことができるインカレという大会があることで、地図作成にも投資をすることができました。大会を通じて赤字にもならない見込みです。今回以降、インカレロングはスプリントとセット開催が望まれるようになることもあり、ますますトレイン選定も難しくなると思いますが、富士見の森のように埋もれているトレインに投資をして地図を作る方法も検討してはどうかと考えます。今回は、インカレで会計が完結する見込みですが、たとえ赤字であったとしても、八ヶ岳のトレインであれば、数年で回収できたはずです。

今後のインカレロング開催にあたっては、開催後に合宿などでの地図販売を見込んだトレイン選定ということであれば、選択肢を広げることができるのではないかと考えます。インカレ開催を契機に、日本中に素晴らしいトレインが増えて、その後の練習機会を提供できることになれば、より日本のオリエンテーリング界に貢献することになるのではないかと考えます。

(2) 優勝設定時間

今回のロングでは男女ともに、優勝時間が設定に対して大幅な短縮となってしまいました。要項に示された優勝設定時間を切っただけで、入賞すらできなかった選手がいたことは大きな反省点です。

このようなことが起こった原因は、実行委員会に現役学生よりも優れた選手がいなかったからではありません。試走をコントロール設置しないで行ったことや、大会が近づくに連れてトレインの見通しが良くなり、難易度が下がったことなどが原因と考えています。後者は仕方がない部分もありますが、前者については実行委員会の努力で対応可能なことでした。次回以降のインカレ運営者

には、参考にしていただきたいと思います。

特にロング種目において、優勝設定時間を下回ることにはあつてはならないと思います。もちろん、あまりにも長く外れては、それも問題なのですが、「少し長いかな」くらいの方が競技として正しい結果ではないでしょうか。何度も同じトレイン試走していると、初めて走る選手はこんなに速く走れないだろう、と思ってしまいがちですが、実行委員会の試走よりも選手は速いものだと考えましょう。

(3) 演出

本競技会の演出は主に下記の3点によって行われました。ロング競技会としては標準的な水準に留まったと考えられますが、準備段階では後述の新しい試みが検討されました。

1. オンラインコントロールによる中間計時速報

男子では2か所、女子では1か所のオンラインコントロールを設け、各競技者当該コントロールを通過すると同時に会場でアナウンスと計時によって速報を行いました。当日オンラインコントロールによる速報は円滑に進み、競技中の選手の様子を会場に伝える事ができました。また、会場となった陸上競技場に競技者が姿を現す数分前の地点において、役員が競技者の接近をシステムに入力、会場に伝える事で会場接近情報の速報を行いました。近年の競技会では複数のオンラインコントロールにより中間計時速報を行う事が一般化しており、本競技会でもそれに外れず同様の演出が行われました。

2. ビジュアル区間

また、会場では競技の公平性を損ねない範囲で競技者の姿が観客に捉えられるよう、会場の北側を大きく回る様なコース設定としました。またメディア等への配慮という観点から、競技者がコントロールを通過する姿を見せるため、ラストコントロールを会場内に設置しました。本競技会ではトレインの制約上、ビジュアル区間をコース途中に設ける事が困難であったため、フィニッシュ直前の誘導区間を比較的長く設定する事でビジュアル区間としました。

3. 大型のコース図

選手権競技者隔離後に会場に大型のコース図を掲示しました。当日は掲示場所の準備が不十分であった事などから速報ボードに遠い観客がコース図を確認する事は難しく、一部の観客が見るに留まったと考えられます。当初は大型スクリーン等によるコース図の掲示が検討されましたが予算の制約上、印刷物を掲示するに留まりました。

その他、実現はしなかったものの新しい事項として「スタート前もしくはスタート直後の競技者の会場付近通過」が検討されました。スタート枠もしくはスタートフラッグを会場内もしくは付近に設けるものです。しかし出走前の競技者に速報タイム等の競技情報が伝わり、競技の公平性を損ねかねない事から、その様な演出は実施しないという結論に至りました。

ロング競技の演出においては、その競技時間の長さ故に選手の様子が観客に伝わりにくい事と、冗長となり観客が飽きてしまうという課題が存在します。本競技会では上記の演出によって前者の課題に対しては解を出す事が出来たと考えています。後者に対しては実況のシナリオや多くの演出用素材、大型スクリーン等の対応が考えられます。しかしそれらには多くの事前準備工数や予算が必要であり、それらが今後学生選手権の演出面の水準を向上させる鍵となっていくと考えられます。

5 おわりに

今回が初めて正式にインカレとしてスプリント競技部門とロング競技部門が同時開催されることになり、上記のことを初めとした課題は残ったものの、大会を成功裏に終えることができました。これもひとえに本大会に関わった全ての皆さまのおかげです。改めて感謝申し上げます。今後、両競技部門が同時開催されることが多いかと思われますので、是非今後も学生と実行委員会で連携してより良い大会を作っていくください。

なお、東京農工大学・KOLC の方には会場片付けを手伝っていただきました。スケジュールがタイトな中でのお手伝い、大変助かりました。この場を借りて感謝申し上げます。



大型コース図を用いたルート説明



スプリント競技部門 男子選手権入賞者

3

スプリント競技部門 入賞者コメント

男子選手権

優勝 稲森 剛（横浜国立大学 1 年）

インカレスプリント 2015 で優勝しました横浜国立大学一年の稲森剛です。今回は初めてのインカレで、苦手なスプリントでの優勝でした。この秋インカレではスプリントではなく、ロングの方に重点を置いて準備してきました。スプリント対策としては、時々横浜国立大学のキャンパスマップを利用した練習をしていた程度です。そのせいで、スタートの時にはスプリントへの準備を満足にしてこれなかった事に不安を感じましたが、いつもの事だと思って出走しました。

そして初めてのインカレのレースが始まりました。会場には山のように人がいて、会場から離れていても自分の名を呼ぶ声が聞こえました。ついに高校生の頃から憧れていたインカレという舞台にあがったのだなと思うと同時に、応援してくれる方々のためにも、今までしてきたトレーニングのためにも、甘えの無いレースをしなければと身震いがしました。その中で、レースは普段通りか、普段よりも冷静に進められ、優勝を手にすることが出来ました。優勝が確定した後の胴上げは最高でした。

今回初めてのインカレで二冠出来たので、これからのインカレで目指すものは優勝しかないと思います。次のインカレへの戦いはもう始まっています。次のインカレでもゾクゾクするような勝負が出来ることを楽しみにしながら、トレーニングに励もうと思います。

最後になりましたが、このインカレを運営してくださった皆様、応援してくださった皆様、ありがとうございました。

準優勝 宮西 優太郎（東北大学 4 年）

以前の僕は、スプリントに対して否定的でした。なぜならスプリントは体力で押し過ぎてしまい、学生上位層の中で比較的走力のない自分には向いてないと考えていたからです。しかし、それは間違っていました。インカレのために国際大会のスプリントレースや競技のガイドラインなどを読み漁っていると、スプリントは走るスピードとルートチョイスが同じくらい重要な要素であるこ

とが分かりました。それならば自分にも勝機があるかもしれないと思い、インカレスプリントも頑張ってみようかな、と考えていました。

もう 4 年目なので、自分が勝ちに行くと言うよりは後輩に活躍してほしいという思いが強くなりました。その為、スプリントの練習会を開いたり後輩の指導をしたりしましたが、それによって自分の実力が上がっていたのだと思います。

今回は優勝こそ逃してしまいましたが、自分にとっては一度きりのインカレスプリントでこのような結果を残すことができ嬉しく思います。最後になりましたが、このような素晴らしいトレーニングとコースを提供していただき、そして応援していただいたみなさんありがとうございました。

第 3 位 小林 隆嗣（東北大学 2 年）

今回で僕にとっての二回目の秋インカレが終わってしまいました。去年の福井ロングの時、インカレの舞台で戦い、入賞しようと強く思ったことをよく覚えています。この一年間はほんとうにいろいろありました。ノルウェーでの JWOC スプリントにおいてはこの上ない経験をさせていただきました。この競技に出会えてよかったなと素直に思います。

はっきり言って、今回のインカレは悔しいという思いでいっぱいです。JWOC が終わってから、自分の目標は今回のインカレロングでした。選手権入賞に向けて、日々鍛錬を積んできました。

しかし、スプリント、ロング両競技において、自分の技術不足、体力不足を痛感しました。自分の持てる力を全て出しきって負けた、そう感じています。この結果を素直に受け止め、これからも努力していきたいと思います。

次なる目標は、春インカレです。強くなった姿でインカレミドルに振り返り、強くなった自分を、東北大を皆さんに見せたいと思います。そして、自分の目に最高の景色を焼き付けたいと思います。

最後になりましたが、いつも自分を支えてくれている部員、家族、OB の方々に感謝の意を述べたいと思います。ありがとうございました。

第4位 宮本 樹(東京大学1年)

自分にとって初めてのインカレであり、第1回大会であるインカレスプリントで入賞できてとてもうれしく思っています。スプリント競技は速さが求められることが多く、足が遅い私にとっては苦手の種目です。そのため本番では地図をよく読んで完走することを目標に走りました。特に気をつけたのは通行可能部分と禁止部分の見分けです。崖では可能崖と禁止崖が隣あっていて見落としそうになりました。今回のコースは一般的なパーク0とは違って、スプリントらしく適切なルートチョイスが問われるものでとても楽しかったです。これはよいテレインとよいプランナー、素晴らしい運営の方々が合わさった結果の賜物だと思っています。ありがとうございました。今回の入賞は他の選手がペナったおかげの部分が多いので、今後は自力で入賞できることを目指して頑張っていきたいと思っています。

第5位(同着) 築地 孝和(神戸大学3年)

2年に渡って行われたスプリント試行大会が、今年からインカレの競技部門の一つとして開催されることが決定したときから、フォレストよりスプリントのほうが得意な自分にとってはチャンスだと考えていました。パーク0等の大会にはできるだけ参加したり、毎週キャンパス0をしたり、直前にも奈良公園で練習をしました。そのため、この度入賞できたことは大変うれしく思います。

ただ、レース内容は本当に情けないもので、地図をちゃんと細かいところまで読めておらず、ルートチョイスが悪かったし、ただただ、走って、走って、なんとか帰ってきただけで、ゴールした時はダメなレースだったとため息をついていました。そしたら、突然のインタビューで、暫定3位と聞いてびっくりしました。レースで気を付けていたことがあり、その中の1つがペナルティには細心の注意を払うことでした。そのせいで、余計な回り道をしたところもありますが、結果的には功を奏していました。当然のことですが、緊張しているので、そういうミスがないように意識しておくのは大事だと思いました。

また来年度も出場できるはずですから、出るならちゃんというレースをして勝ちたいので、これからの1年間でさらに精進していきます。応援してくださった方々、ありがとうございました。

第5位(同着) 角田 貴大(横浜市立大学2年)

インカレスプリントは5位入賞という結果でした。入賞が決まったときは嬉しさよりも驚きの方が大きかったです。セレはぎりぎりでも通過し、また、正直なところ、私はスプリントへ向けての準備はあまりできていなかったもので、走る前は初めてのインカレスプリントをしっかりと楽しもうぐらいの気持ちでいました。このような結果になったのはコントロールを飛ばした選手が多くいたからと言われると否定はできません。でも、ここで秒差でなんとか入賞に食い込めたのは、私が走っている間に仲間たちが一生懸命応援してくれて最後まで全力で走りきれたからだと思います。インカレで仲間とのつながりを強く感じる事ができました。

今回私は初めてのインカレ入賞でした。これを最初で最後の入賞にしたいはありません。私はまだまだ力不足です。今回のようにレースは何があるかわかりませんが、何かあっても、何もなくても勝てるような実力をつけたいと思います。ありがとうございました。

目次

ご挨拶

イベント・ アドバイザー 報告 P.3-6

将来への 提言 P.7-13

スプリント 入賞者 コメント P.14-17

スプリント コース解説 P.18-27

ロング 入賞者 コメント P.28-32

ロング コース解説 P.33-42

地図 P.43-46

スタート リスト P.47-48

スプリント 公式成績 P.49-52

ロング 公式成績 P.53-60

大会役員

女子選手権

優勝 五味 あずさ (金沢大学 4 年)

まず始めに、第一回インカレスプリントで優勝出来たことを嬉しく思っています。スタート直後、多くの人の声に囲まれて、これがスプリントだ、と実感しました。皆に見られている中での第1コントロール、フォレストではあまりない他選手との接近、緊張と興奮と焦りと楽しさでただただ、「やべえ」と思いました。レース中は完全に落ち着くことは出来ませんでしたが、どうにかミスを抑え、走れる部分でスピードを出せた事が結果に繋がったと思います。考えていた以上にテクニカルで楽しいコースを提供してくれた実行委員会の皆さん、てんばる程の応援をしてくれた皆さん、ありがとうございました。

今後もこのインカレスプリントが盛り上がっていった、皆がスプリントで興奮してくれたら、楽しいと思います。

準優勝 守屋 舞香 (相山女学園大学 4 年)

私の実力通りと言えばそれまでですが五味さんとかかなりの差がついてしまった事に対して、見る人には女子選手権への物足りなさを感じさせてしまったのではないのでしょうか。今回のコースはWE だけかもしれませんが、一瞬のうちに地図を読み取る力と判断力が求められたように思います。その点で私はコース設定者の思惑通りといったところでしょうか。レース中は何度も立ち止まってしまい、テンポのいいレース展開とはいきませんでした。しかし結果から見ると最初で最後のインカレスプリントをこのような形で収められたことに安堵しています。第1回インカレスプリントが無事に開催・運営され、初代チャンピオンが決定したことにこれからの期待を膨らませています。学連に加盟する皆様がインカレを作っている事を自覚し、さらに張りや活気のある大会になることを大いに楽しみにし、応援しています。

最後に、応援してくれた方々、運営してくださった方々、ありがとうございました。

第3位 山岸 夏希 (筑波大学 1 年)

人生で初めて挑んだインカレ。スプリントとかロングとか関係なく、インカレとはどんなものなのか、今自分がどれくらいの位置にいるのか、応援されるってどういう気持ちになるのか、ワクワクしていました。それと同時に大きな不安感にも

襲われていました。最初に挑戦するインカレタイトルとなったスプリントは関東セレクションで一位通過していたこともあったのか、謎の自信がありました。今までスプリントを得意に思ったことは無く、レースの結果がいい時もたまたまだろう。くらいに考えていたのに、です。なので本戦も関東の他の選手に負けるつもりはなく、上手くいったセレクションと同じようにゆっくりとしたペースでミスを抑えて行けば勝てると思っていました。結果、たしかに関東勢には勝つことができましたが強い人には圧倒的な強さを見せつけられて終わってしまいました。トレーニングと覚悟が全く足りませんでした。

しかし、その日登った表彰台はとても楽しくて輝いていて、明日もこの舞台に立ちたい、と強く思いました。それと同時に応援の凄さ、力を直に感じました。スタート地区からずっと聞こえていた声援は力になり、普段なら歩いている傾斜も走ることができました。インカレってこれか、と感動しました。応援してくださった皆様、ありがとうございました。

第4位 松田 沙也加 (岩手大学 4 年)

スプリントはもともと苦手意識があったので、実は、北東の枠を取ろうという程度の目標しか持つことができていませんでした。枠を取るところか入賞までできたことには自分自身感激しています。今回のインカレスプリントでは、やはりインカレという舞台ではきっと今まで以上に難しいコースが用意されていると思い、その分地図をしっかり読み込もうという意識で本番に臨みました。スピードも遅く、ミスもありましたが、無難に無難に(悪く言えばチキン)な気持ちを前面に出し、ペナを徹底的に回避した結果として、今回このような成績を残せたと思います。スプリントにおいて技術的に未熟な部分はまだまだありますが、経験上最もテクニカルとも言える今回のスプリントの経験を活かし、今後精進していこうと思います。素晴らしいコースに運営、本当にありがとうございました。

第5位 帯金 未歩（大阪大学3年）

インカレスプリントまさか入賞するとは思っていませんでしたので、入賞することができてとても嬉しいです。今回は記念すべき第一回大会だったのでとても光栄なことに思います。

これまで二回の施行大会に参加してきましたが、今年からは正式にインカレが行われるということでどんな大会になるのだろうと楽しみでした。当日、待機所に入る前に各自の目標を書くボードがあり、みんなでわいわい書いていたらとても気分が盛り上がってきました（笑）スタート待機所から会場で応援している声がよく聞こえて緊張で胸がいっぱいになりましたが、五分前枠に立った時に会場の方に阪大奈良女の応援している人が見えて心強かったです。でも、スタートポストまでの誘導を辿って会場に出た時に思ったよりも観客との距離が近くて驚きました。レース後のインタビューで複数の選手が言っていたように今まで走ったことのないようなテクニカルなコースで走っていて楽しかったです。

レースは途中まで落ち着いてレースができました。しかし、一か所立ち止ってしまったのとビデオ後にやってしまったので、これはかなり下の順位かなと思っていましたがフィニッシュ後に自分の速報ボードが上の方であって驚きました。失格やdisqが多かったので、少し複雑な気持ちでしたが、表彰台に乗ることができて嬉しかったです。来年は自分の力でまた表彰台に乗ることができるように頑張りたいと思います。

最後になりますが、楽しくてわくわくするような素晴らしいインカレを運営してくださった運営者の方々、二日間たくさん応援してくれた阪大奈良女、全国の同期やその他のみなさまありがとうございました。これからも応援してくださったら嬉しいです。

第6位 香取 菜穂（千葉大学1年）

今回は初めてのインカレでしたが、入賞することができ、大変嬉しく思っています。

インカレスプリントに出場できることを知ったのは、本番2日前だったので、とても驚きました。その事を聞くまでは、正直出られないだろうと思っていました。心の準備もあまりできないままでしたが、かえって緊張や気負いがなくレースに臨むことができました。

スタート前に千葉大の方々の応援が聞こえて、恥ずかしいレースになったら申し訳ないので、頑張ろうと思いました。レース中は、技術の無さを実感しつつも、一生懸命走りました。

今回初めてインカレという大会の楽しさ、大切さ、先輩方のインカレに対する姿勢を知ることができ、大変良い経験になりました。これからは本当に実力をつけた上で選手権クラスに出られるようになりたいと思いました。

最後に、このような素晴らしい大会を開いてくださった運営者の方々、応援やサポートをしてくださった千葉大学オリエンテーリング部の方々、OB、OGの先輩方に心から感謝を申し上げます。



スプリント競技部門 女子選手権入賞者

4

スプリント競技部門 コース解説

スプリント競技部門 コース設定者 結城 克哉

1 はじめに

まずは、競技開催にあたり多大なご協力をいただいた富士見高原リゾートの皆様、インカレ実行委員会の皆様に感謝いたします。今回のコースは、施設管理者である富士見高原リゾートの競技へのご理解と、当日のパトロール役員の協力がなければ組むことができないコースでした。

インカレスプリントは、近年のスプリント競技人気の高まりから新たに開催が決定した競技です。5年以上前から日本学連で議論が繰り返され、2度の試行大会を経てようやく第1回の開催となりました。スプリントのコース設定の原則として「コントロール位置は比較的簡単」「ルートチョイス能力、素早い地図判読能力を問う」という2つの条件があり、過去2回の試行大会でもその原則にのっとったコースが提供されました。しかし、公園トレインで、構造上いかにも「スプリント」という要素が少なく、また観客のスプリントへの理解不足もあり、スプリント競技そのものの魅力が選手に伝わり切っていないと感じていました。スプリントがインカレの正式種目となった今回のコースを組むにあたり、最も重要視したことは「スプリントの魅力を選手本人に理解してもらう」ことです。そのために、スプリント特有の要素である通行可能部の判読の難しい下部通行可能部、柵の入り口、建物の複雑な立体構造など、盛り込める要素は可能な限り詰め込もうと考えました。その上で、ナビゲーションの負荷を高めるために様々なルートが考えられる、判断に迷うレグにすることを心掛けました（実際コースを組んでいるときは「どうやってツボらせるか、ミスルートを選ばせるか」という意地悪な心で組んでいましたが）。登りの多いコースで、肉体的な負荷が大きかったとは思いますが、男子、女子選手権共にスプリントの魅力を伝えられるコースに仕上がったかと思っています。

ウイニングタイムを切る選手は現れないかと思っていたのですが、選手たちは私の予想をいい意味で裏切ってくれました。優勝者、入賞者の方々、本当におめでとうございます。願わくば、今回のインカレスプリントで感じたことを同クラブの先輩後輩に伝えていってほしいと思います。実際に選手権を走った選手が、インカレスプリントの魅力のもっともよい語り手なので。本当は選手一人一人に感想を聞いてみたいと思っているのですが、それもかなわないので今回は入賞者の方々にレース中の状況を伺い、コース解説に役立ててみました。今後スプリントのコースを組むにあたって、競技中の選手自身の印象を考える際に参考にしてほしいと思います。

また、今回は実行委員長の強い意向で、一般の部の参加者を増員しました。これまで、自由にスタート可能なフリースタート形式はありましたが、ある程度出走者をばらけさせるために今回は10秒間隔のスタートを採用しました。実際はやってみないと分からない部分があったのですが、大きな事故もなく無事競技が終了した時は本当に安堵しました。競技的な公平性を欠いているので、十分に楽しめなかった方もいるかとは思いますが、スプリント競技の魅力が少しでも伝わっていると嬉しいです。

最後になりますが、競技開催にあたり多大なご協力をいただいた富士見高原リゾートの皆様、インカレ実行委員会の皆様、および大会コントローラである山上大智さんに心から感謝いたします。来年以降も、大学生の憧れの舞台としてインカレスプリントが継続することを切に願っています。

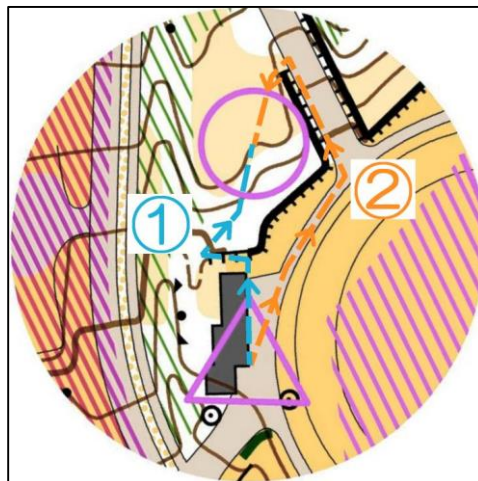
目次
ご挨拶
イベント・アドバイザー報告 P.3-6
将来への提言 P.7-13
スプリント入賞者コメント P.14-17
スプリントコース解説 P.18-27
ロング入賞者コメント P.28-32
ロングコース解説 P.33-42
地図 P.43-46
スタートリスト P.47-48
スプリント公式成績 P.49-52
ロング公式成績 P.53-60
大会役員

2 女子選手権コース解説

S→1

スタート直後、観衆の待つ会場に飛び込むという緊張する場面で、冷静にルートチョイスを行えるかを問うレグ。①のルートが最速。

②の道を使うルートは走行容易だが、距離が長く余計な登りが発生するため 10 秒ほどの大きなロスにつながる。入賞者の中では山岸選手のみ②のルートを選択し、トップから 18 秒の遅れをとっている。山岸選手はルート選択に際して「観衆の中で緊張して、安全策として②のルートを通った」と言っており、競技中のルート選択には精神面が大きくかわり、それが順位に大きく響いてくることがこのレグから読み取れる。



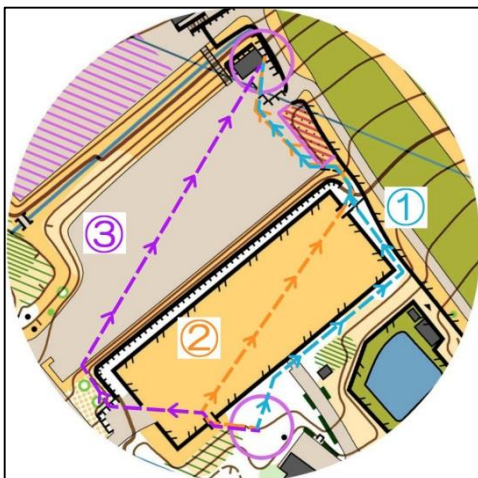
1→2

建物の左右どちらを通るかを選択する比較的簡単なレグ。不整地の走行が苦手な選手は②の選択肢が有力で、入賞者は全員②のルートを選択している。結城が試走したタイム比較では①、②のルートいずれでもほとんどタイム差がないため、いかに決断を早く下せるかがこのレグのカギとなる。実際のタイムを比較すると、入賞者中で最速の五味選手が 54 秒、最も時間のかかった山岸選手が 1 分 15 秒と 20 秒近く差が出ている。山岸選手は読図に集中するためスピードを押さえていたそうで、同じルートチョイスでもスピードの出し方により如実な差につながる事が分かる。



2→3

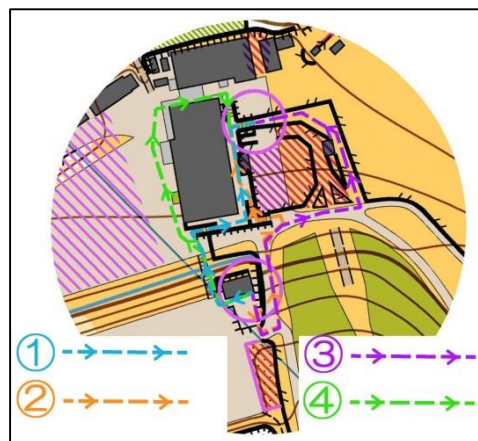
ルートチョイスによりタイム差の出るレグ。テニスコートの右、中、左の 3 つのルートが選択できる。入賞者は軒並み①のルートを選択していたが、松田選手のみ③のルートを選択し、遅れをとった。五味選手の 1 分 8 秒と比較して松田選手が 1 分 33 秒と、25 秒差がついているので、このレグでのチョイスのミスが順位変動に大きく寄与していることがうかがえる。なお、ここまでは早稲田大学の中村菜菜選手がトップを走っている。



3→4

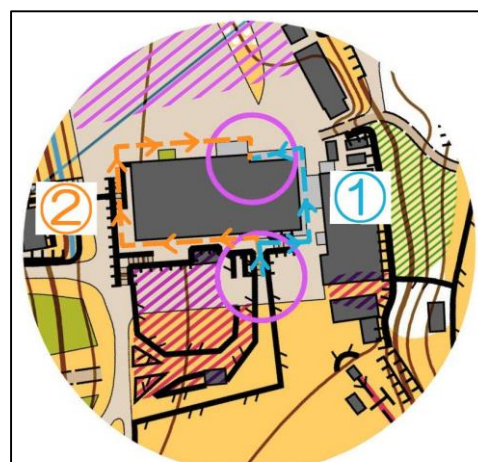
多様なルートチョイスが考えられるレッグ。また、建物回りの通行可能部分の判読も求められ、ナビゲーション負荷が高いレッグ。五味選手、守屋選手、松田選手、香取選手が①のルート、山岸選手と帯金選手が④のルートを通っている。プランナーの想定する最速ルートは①で、入賞者間のタイムを比較しても①と④では 30 秒ほどのタイム差がある。

また、4 番コントロールは地図上で通行不能柵で囲まれているが、現地では柵の上から手を伸ばすとコントロールにパンチすることが可能になっていた。そのため、北側から回り込んだ選手の中には柵越しにパンチし、失格となる選手が続出した。柵越しにパンチできる位置にコントロール位置を設定した運営側にも責任はあるが、選手側も通行すると失格となる特徴物を今回のインカレを通じて改めて認識してほしい。



4→5

つなぎのレッグ。建物の下部通行可能部の判読ができれば容易。①のルートが最速で、入賞者は全員①のルートを通っている。5 番コントロールの位置は観光客の人通りが多く、運営側としては最も人員を配置したコントロールである。このようなつなぎのレッグに人員を裂いたのは、大規模なスプリント大会でないと味わうことのできない、一般施設内を走り抜けるという特別感を味わって欲しかったのと、次の勝負レッグのために必要なレッグであったという 2 つの理由がある。



5→6

WE の最大の勝負レッグ。複数のルートチョイスが考えられ、かつ初見でルートを見抜きにくくするためにレッグ線が障害物を横切るようにレッグを配置した。また、観客の目の前でコントロールを探す競技者の動きを見せるため、アタック方向からのコントロール位置の見え方も考えた。入賞者の中では五味選手、守屋選手のタイムが圧倒的で、いずれも①のルートを通っている。プランナー想定のレストランは①または花畑のエリアに入る②であるが、入賞者の中に②を通った選手はいなかった。



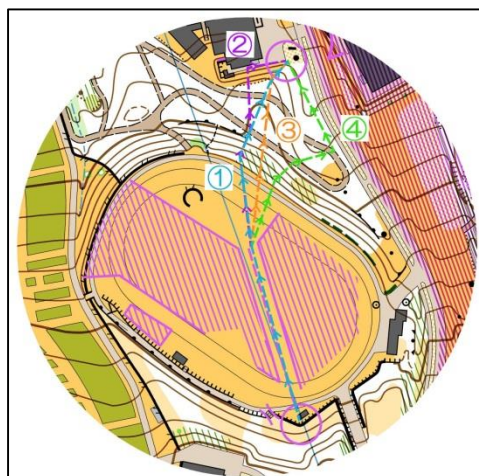
また、4 番コントロールに引き続き、6 番コントロール手前の通行不能崖を通過して失格となる選手が続出した。4 番コントロールの際にも触れたとおり、通行すると失格扱いになる特徴物についての認識を今一度行ってほしい。

6→7

会場を突っ切るビジュアルレグ。

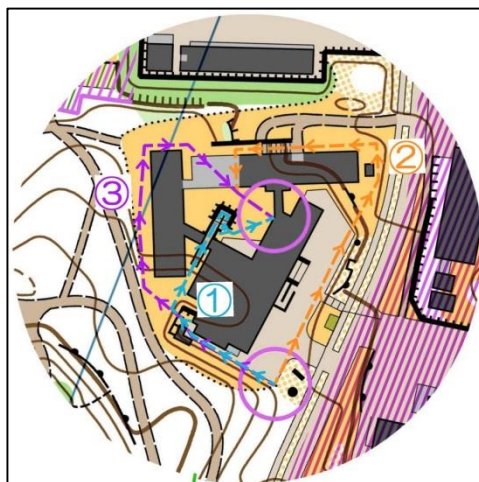
観戦が楽しい競技としてスプリントを認知してもらうためにも、会場から選手が見えやすいコースにすることを意識して、このレグを組み入れた。課題は、観客の目の前を通過してスピードが上がった状態での方向維持。五味選手、守屋選手、松田選手、香取選手は①または③のルートを取り難なくこなしたが、山岸選手は②、帯金選手は④のように最短ルートから外れるルートをとってしまい20秒ほど遅れている。

また、6番コントロールからの脱出の際に誘導の入り口が見えず、競技場の端を走って7番コントロールに向かう選手がいた。誘導を辿っていないため失格処理としたが、次回以降は誘導に関してより注意を払うべきであるという反省点が残った。

**7→8**

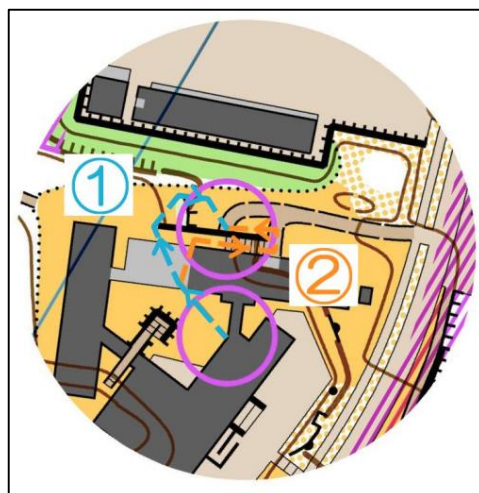
建物の立体交差を判読できるかが課題。個人的には、スプリント競技の楽しさを体現するレグだと思っている。レグ線の方角につられて②のルートを取ると、迷わなかったとしても5秒以上遅れる。入賞者の中では松田選手が唯一②のルートを選択しており、他の入賞者に対して遅れをとっている。

また、この7→8のレグ線と次の8→9のレグ線方向が同じで8番コントロールを認識できず、コントロールを飛ばして失格となる選手が続出した。運営側の反省としては、8番コントロールの数字の位置についてもっと議論すべきであった。

**8→9**

立体を読み切れるかが課題。コントロール位置が崖の下であることを読み切れればロスはない。

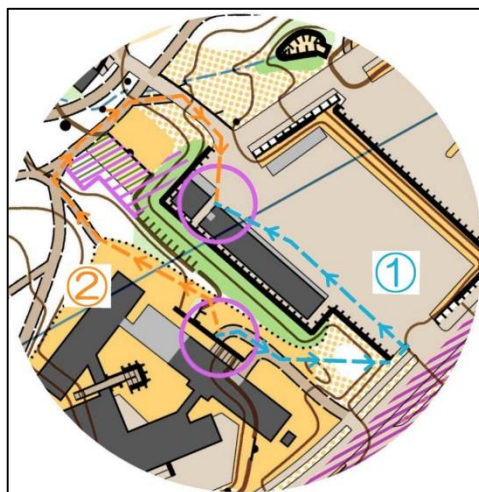
前のレグに記述したことにも関連するが、2つのコントロール位置が非常に近いため、コントロール飛ばしを誘発してしまった。コースの質を高めるためにこのようなコントロール位置を選択したが、次回以降は失格を誘発しないよう近接するコントロール位置を使う場合はレグ線方向を同じにしない、コントロール番号を見やすい位置に設定するなどの配慮が必要になる。



9→10

広い視野でルートを見つけることを課題とした。①の方が直線距離、登りともに少なく、有利なルートである。レッグ線方向に脱出すると崖に阻まれ、かつ登りと距離で損をする。

五味選手、香取選手は②のルート、他の入賞者は①のルートを通っている。香取選手は 8→9→10 のルートを読み切るのに時間を要し、他の入賞者と比較して大幅に遅れをとっている。



10→11→12

10→11 は次のレッグへのつなぎ。11→12 は、終盤に順位の変動を起こすため、スピードを出しにくいよう柵の通行可能部分の判読を課題とした。結果的に、11 番コントロールでミスする選手はいなかったが、松田選手は 12 番に向かう際にレッグ線方向に脱出してしまい、ロスタイムが出ている。

12 番コントロール時点では大類選手が香取選手を秒差でかわしており、スプリントの終盤で秒差の争いがあったことがうかがえる。

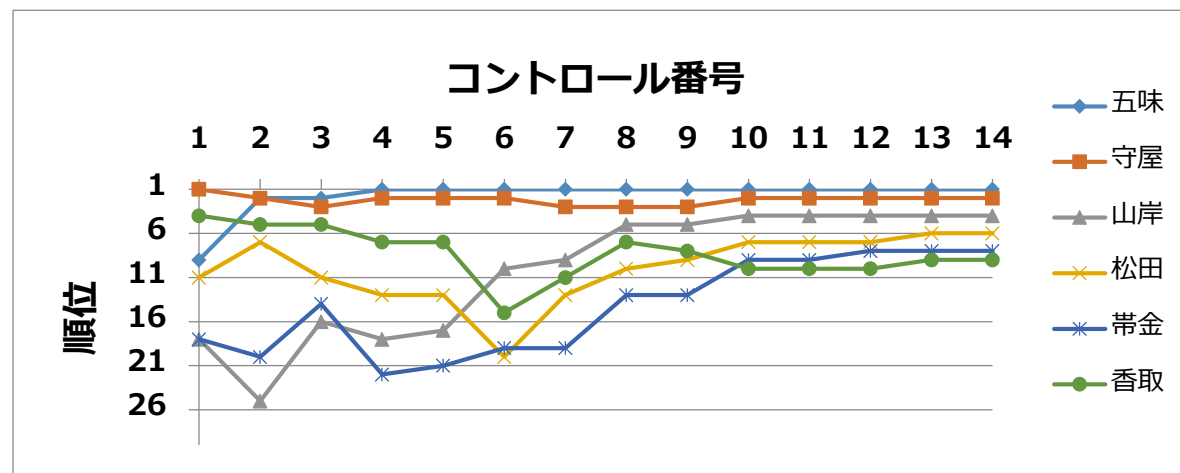


12→13→◎

レース終盤で選手たちに会場からの応援が届くようなコースにしたかったので、12→13 のようなレッグを置いた。このレッグで香取選手が大類選手を抜き返し、入賞争いを制している。

また、各コントロール時点での上位 6 選手の順位変動は以下のようになっている。

五味、守屋の 2 選手は序盤から順位をキープしているが、山岸選手は序盤の出遅れを終盤で取り返す形になっている。松田、帯金、香取の 3 選手も順位の変動が大きい。今回は失格者が多く出てしまったため順位変動が分かりにくい部分はあったが、競技中に順位が目まぐるしく変わるスプリントの面白さを感じ取ってもらえれば幸いである。



3 男子選手権コース解説**△→1**

△から 5 までは WE と共通の回し。

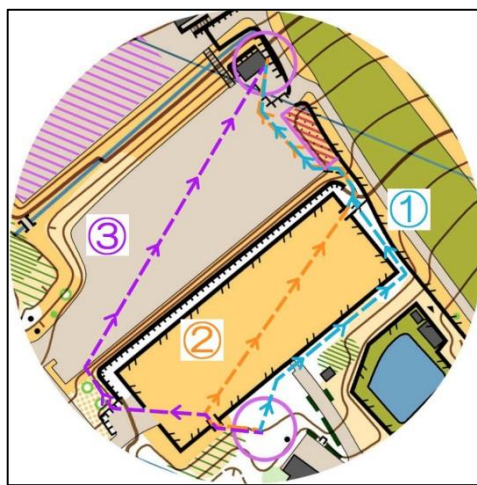
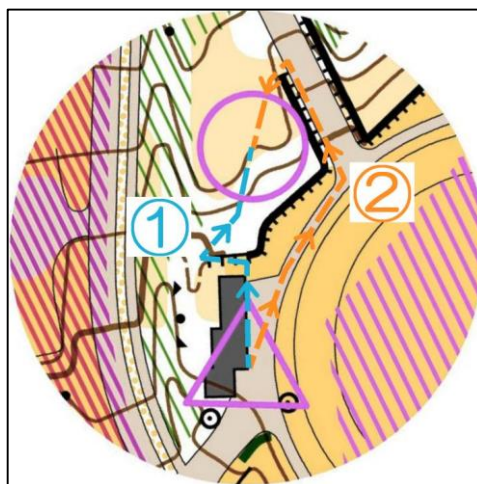
全員最速である①のルートを選択。通行可能崖、不能崖の判別が難しく、崖を回り込んでしまった選手が多かったようだ。

1→2

宮西、角田選手が①の不整地ルート、他の選手は②の道回りを選択している。大きなルート差はない。

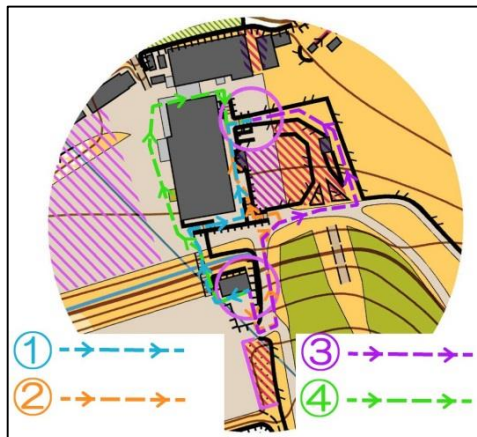
2→3

築地選手以外の入賞者は全員①のルートを通っており、ルート差により 10 秒程度の差が出ている。

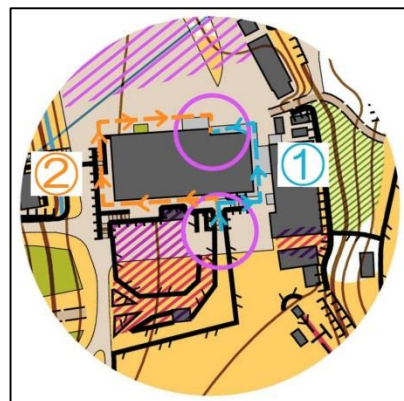
**3→4**

築地選手が①のルートで 41 秒、稲森、宮西、小林、宮本の 4 選手が②のルートでそれぞれ 53 秒、49 秒、47 秒、49 秒、角田選手が③のルートで 55 秒。①のルートが最速の想定だったが、実際そのような記録となっている。立体構造の通行可能部分を読み取るレッグでルートの判別が難しいが、方向転換回数の少ない①のルートがベストであることがうかがえる。

この時点で 2 位相当のタイムをたたき出していた照井選手は立ち入り禁止エリアへの侵入のため失格処理となった。

**4→5**

WE と同じレッグ。入賞者は全員最速である①のルートを選択している。入賞者間ではこのレッグ単体のタイム差が 3 秒程度しかなく、あくまでつなぎのレッグとして機能している。選手本人に感想を聞いても、このレッグで特にナビゲーションが難しかったと感じた選手はいなかったようだ。

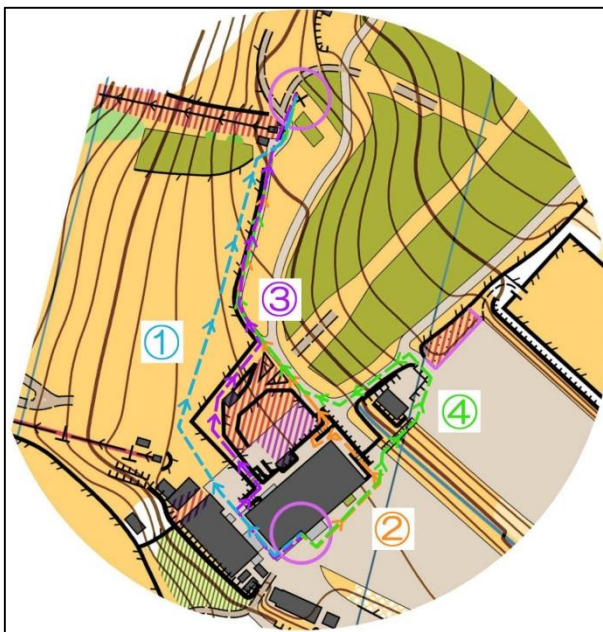


5→6

ME の勝負レッグの 1 つ。稲森選手が選択した①のルートが 52 秒で最速。このレッグで稲森選手は順位を 17 位から 3 位まで浮上させている。

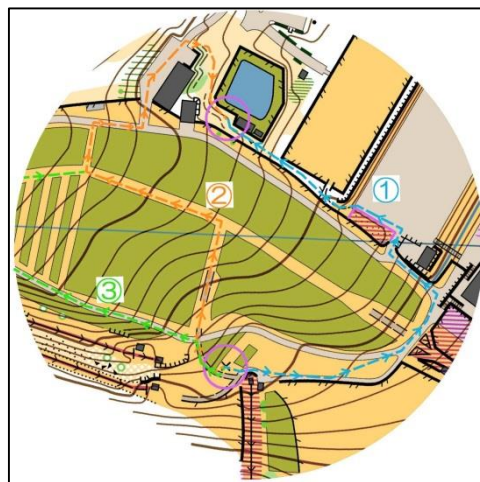
宮西、宮本、築地の 3 選手は②のルートを選択し、稲森選手から約 10 秒ほど遅れている。角田選手は④のルートを選択し、稲森選手から 20 秒ほどの遅れをとっている。小林選手も④のルートだが、走力で補って②のルートをとった 3 選手とタイム差があまりない。

また、稲森選手は①のベストルートがすんわりと見えていたが、他の選手の中には④のルートしか見えていなかったそうで、ルートを見抜く能力の差で明確にタイム差が出るレッグであることがうかがえる。



6→7

ME コースの最長レッグで、一番の勝負レッグ。流れのままに脱出するとタイムロスが出るようなレッグを組みたくて、なんとかひねり出したのがこのレッグ。②のルートは①よりも 5～10 秒程度遅い。入賞者の中では宮本、角田の 2 選手がベストルートである①のルートを選択しており、タイム的にも②のルートを選択した他の入賞者よりも 10 秒程度速かった。宮本選手はこのレッグで順位を 19 位から 4 位まで浮上させている。反対に築地選手はこのレッグで③のように下り過ぎてしまい、大きくミスタイムを計上した。

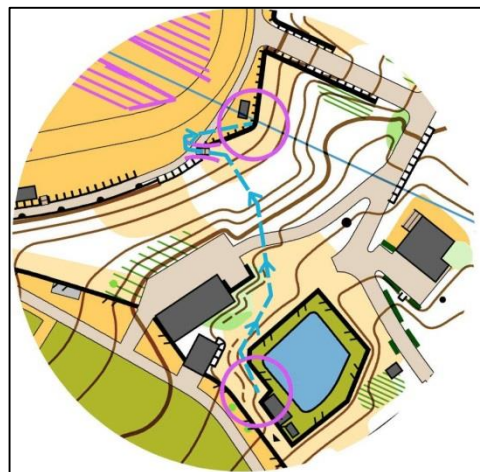


7→8

ビジュアル区間前のつながりのレッグ。通行不能崖の処理が課題。稲森、小林選手は渡河点西側の通行可能崖を通過してコントロールに向かっている。

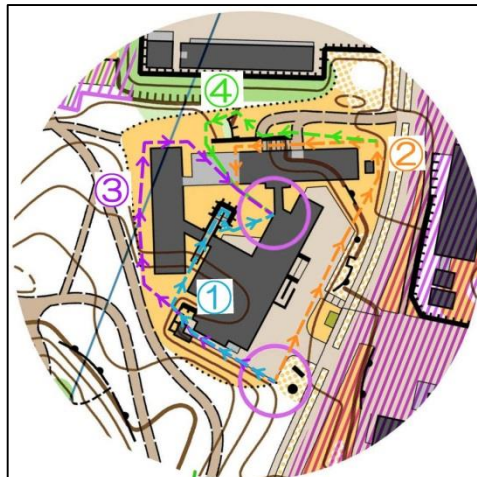
ルートチョイスはないが、如何に崖下まで下る方策を立てられるかの勝負で、シンプルにレッグを捉えることのできた角田選手が順位を 7 つ上げている。

6→7 のレッグの出来も相まって、このレッグでも苦戦してしまう選手も多く出たようだ。



8→9

ビジュアル区間のレッグ。ルート図は WE 参照。どの選手も①のルートを辿っている。大きなミスはなく、あまり差のつくレッグではなかったようだ。稲森選手は、ビジュアル区間を全力で駆け抜けるのではなく、あえて地図読みに当て、後半のレッグの情報を仕入れていたとのこと。スプリントのように速い判断を求められる中でのビジュアル区間というのは確かに読図に集中できる時間なのかもしれない。

**9→10**

WE との共通レッグ。ME でも、10 番コントロールを飛ばしてしまう選手が続出した。建物の立体交差を読み取るのが課題である。小林選手はこのレッグで先に 11 番コントロールに行ってしまう、稲森選手と比較して 20 秒ほどの遅れをとっている。

また、稲森選手は事前に航空写真でこの立体交差が使われることを想定しており、ベストルートをすんなり読むことができたようだ。WOC2014 イタリアのスプリントでも、優勝したデンマークの選手たちは事前にストリートビューなどを使って現地を走るイメージを作っていたそうで、オリエンテーリングにおいて事前の「準備」が有効であることがうかがえる。

10→11

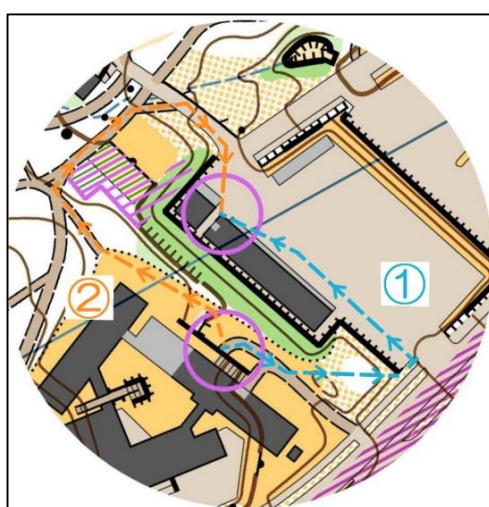
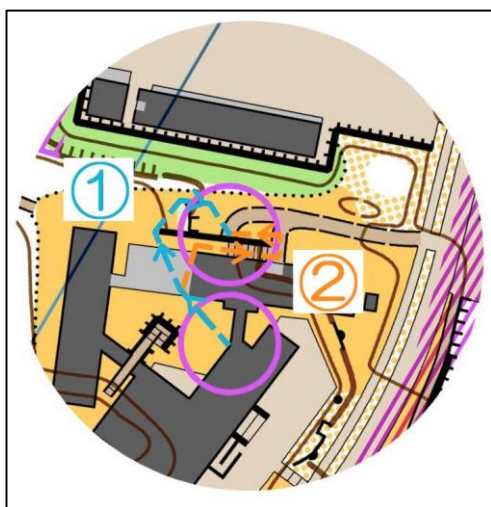
WE と共通。入賞者は全員①のルート。

特にこのレッグを難しいと感じた選手はいなかったようで、タイム差もあまり出ていない。

11→12

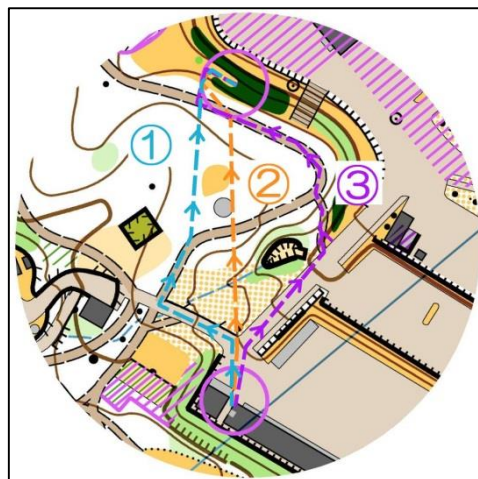
このレッグも WE と共通。

全員①のルートを取っており、単純なスピード差がタイム差に表れている。



12→13

①のルートを通った小林選手が最速。宮本選手も同様に①のルートを通っている。稲森、角田選手は②、宮西、築地選手が③のルートを選択しているが、ルート差というよりも判断とスピードの差が如実にでる結果となっている。終盤の疲れで判断力が鈍り、ただまっすぐ行くという選手も多くいたようだ。



13→14

柵の通行可能部分を読み取る課題。

小林選手のみ②のルートを選択し、他の選手は①のルートを選択している。タイム差はそこまで出ておらず、柵の通行可能部分を見切ったのちの素早い判断力が求められる。

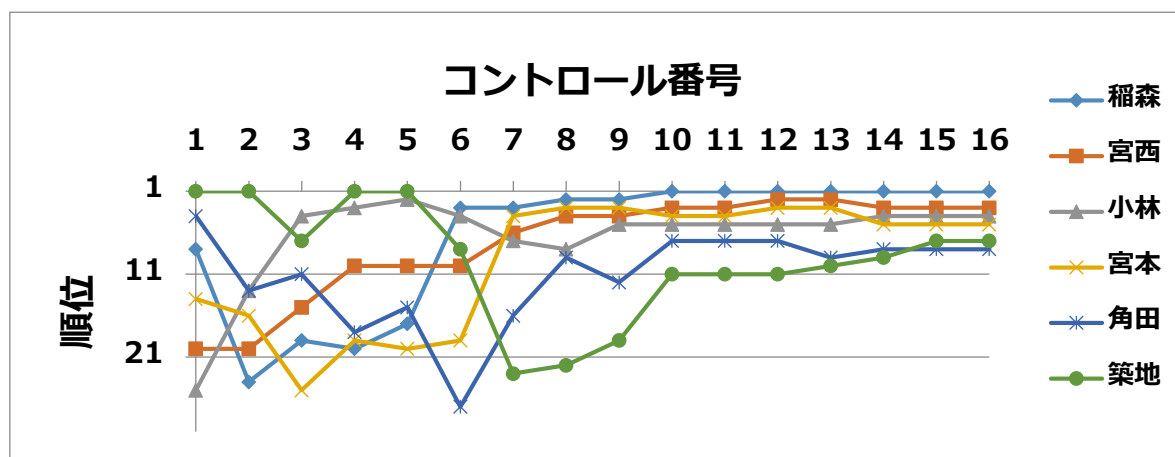
登り返しでかなり体力を奪われ、読図がおぼつかない選手が多くいたようだが、疲れた時こそ読図が重要になることを再度意識する必要がある。



14→15→◎

観客に応援されながら、最後の追い込みをするレッグ。選手たちの必死な表情を観客に魅せたくて、このようなコースを設定した。14→15 で猪俣選手と築地選手の順位が入れ替わっており、最後の最後まで秒差の争いで決着がつくあたりがスプリントの醍醐味と言えるだろう。

全コントロールにおいて、入賞者個人の準備をプロットすると、前半で順位変動が大きく、後半はあまり変動していない。ロングレッグでの順位変動が最も大きな要素で、稲森選手の 5→6 や築地選手の 5→6→7 で大きな順位変動がおきていることが分かる。



4 調査依頼

今回、スプリント競技部門で受けた3つの調査依頼の質問内容と実行委員会側からの回答を掲載します。なお、実行委員会の回答に対する提訴はありませんでした。

①ビジュアル区間の誘導について**質問内容(WEの選手より)**

6→7にかけての誘導についてです。まず、この誘導が分かりにくかったこと。6番コントロール付近の誘導沿いに係員が立っている場合と立っていない場合がある。また、係員が立っていれば、青いベストを着ているので、それに気づいて誘導を辿ることができた可能性があります。つまり、係員の人がいるかいないかで競技の公平性が保たれていなかったと思います。また、地図上に書いてある誘導の線と磁北線が被っていて見づらかったです。

実行委員会からの回答

地図と位置説明に表記されている誘導を辿るのは競技者の義務であり、役員の有無に寄らずに辿る必要があります。また、現地地図共に十分に認識できる範囲であると判断しているので、競技的な公平性は確保されていると考えます。

②競技記録について**質問内容**

記録が出ていないが、どこで失格になったのかが説明されていないため調査依頼いたします。

実行委員会からの回答

(口頭での説明)

立ち入り禁止エリアへの立ち入りによる失格です。

③スタート誘導について**質問内容**

スタート誘導において、渡河点の地点のみ赤白テープが地をはっており、誘導が少し分かりにくくなっていたため、渡河点で誘導を外れてしまい、失格となりました。

しかし、渡河点では、通行人の有無によって役員が渡河点を塞いでいるときとそうでないときがあり、競技者がいつ渡河点を通過するかにより競技者の置かれる状況が異なってしまうため、不公平が生じると考えます。

実行委員会からの回答

スタートフラッグまでの誘導を辿り、スタートフラッグを通過することは競技者の義務です。今回のスタート誘導及びスタートフラッグは役員の有無に関わらず、容易に視認できると考えます。よって、今回は失格処理としました。

5

ロング・ディスタンス競技部門 入賞者コメント

男子選手権

優勝 稲森 剛（横浜国立大学 1 年）

インカレロング 2015 で優勝しました横浜国立大学一年の稲森剛です。ロングではスプリントよりも優勝を狙っていましたが、この結果には驚いています。三月に受験勉強を終えてトレーニングを再開した時には、長い距離を歩くだけでも足が痛くなって、3/29 に全日本大会に出走した時は500m走るごとに息を整えなければいけない状態でした。でもそこから、いい先輩や同期に恵まれ一緒に練習をし、三月の最後の週から七月の半ばまでは、一週も空けず毎週末オリエンをしました。毎回、ここをこうしたいとか考えて練習したことで、受験勉強を始める前の力を取り戻し、さらにそれよりも速くなることが出来ました。その結果、優勝をつかめたのだと思います。

しかし、今回のインカレでスプリント、ロングとも優勝できたのは嬉しい反面納得のいかない所もあります。今まで中高生の頃から何回もインカレを見てきましたが、もっと圧倒的に速くなければ優勝できないのがインカレのイメージでした。今年はそうではなかったのか、自分がもうそれくらい速くなったのかはまだ分かりませんが、まだまだ何回ものインカレが残っているので、満足のいく走りができるように準備を続けていきたいと思っています。

最後になりましたが、このインカレを運営してくださった皆様、応援してくださった皆様、ありがとうございました。

準優勝 宮西 優太郎（東北大学 4 年）

ロング競技は自分が一番好きな種目であり、1年で入賞してからは上位に入っていなかったのですが、ずっと優勝を狙っていました。大会当日はほどよい緊張感をもってレースを開始しました。前半はダウンヒルで調子よくレッグをこなしましたが、スピードを上げずに落ち着いて走っていたのでいくらか遅れていると感じていました。後半に入り中間コントロール、登り基調のレッグが続き、八ヶ岳の標高が体に堪えます。後半で巻き返そうと踏ん張れども空気が薄くて進みません。焦りから小さなミスを広げてしまい、入賞もきついかたと

思いながら最後の舗装道を必死に走りました。朝会場へ行く時に歩いた歩道を走りながら、応援は聞こえてもなかなか辿り着けず、死にそうになりながら会場に入ると部活のみんなが一斉に僕の名前を呼んで応援してくれました。結果、2 位となってしまう優勝には届きませんでしたが、今までで一番楽しいインカレになりました。このような場を提供していただいた運営者の皆さまや、応援してくださった方々に心から感謝しています。ありがとうございました。

第3位 久保田 皓貴（慶應義塾大学 2 年）

僕は中学生の時からオリエンテーリングをしています。なかなか下手くそでセンスがありません。ですので、正しい努力をしなければという考えで昨年末あたりから目指す形を模索してきました。なかなかうまくいわずに困ってしまった時期もありましたが最近ようやく目指す形見えてきましたし、実際にレース中にできる場面もあります。その時はオリエンテーリングが本当に楽しいです。でもうまくいかないとめっちゃくちゃ落ち込みます。

インカレではミスしてテンポが悪くても崩れきって自滅しないようにすることを意識しました。序盤に2分半くらいのミスをしてしまっただけで萎えましたがテンポが悪いながらも我慢して続けました。その結果の三位だったので我慢して良かったです。

生意気なようですが今回のインカレはあくまで過程です。自分が通ってきた道はここから先も続いていると思っていますし、幸運なことにクラブ内には速い人がたくさんいます。これからも試行錯誤切磋琢磨し強くなります。

インカレは最高のモチベーションです。運営してくださる方々への感謝の気持ちを忘れず最高の準備と最高の走り、矢板ミドルリレーもメダルを取ります！

改めて、インカレスプリント・ロング運営ありがとうございました。

第4位 田中 基士（横浜市立大学4年）

走って、走って、走って負けました。悔しいですが、これが現実です。まだまだ努力が足りません。学生最後の春インカレに向けて鍛錬を積み重ねていくのみです。

インカレでの入賞はずっと憧れており大きな目標でした。それが達成出来たことは純粋に喜びたいと思います。今回のインカレロングに向けて海外遠征に参加するなど、勝つために準備をしてきました。インカレでも自分の走りが出来たと思います。競技前の自分に4位だったと伝えることができたならば、自分は安心して喜んでいると思います。しかし、実際は非常に悔しい思いをしています。これは一つにKOLCという同じチームの中で2人に負けてしまったことにあります。一緒に練習を積んできた仲間には負けるのはただ順位が下るというだけではなく、それ以上の悔しさがあります。裏を返せば、こんな悔しい思いができるのも、KOLCに切磋琢磨できるような仲間がいるおかげであるということもできます。

私が強く感じている事は、同じ時間を共にした仲間への存在は必ず、周りの人に勇気と力を与えているということです。一緒に車乗って、温泉入って、お酒飲んで、トレーニングして、ご飯食べて、そんな時間をとともにしてきた仲間に応援されて、そして真剣勝負する事は本当に楽しいことです。

が4位に入賞出来たのは自分の頑張りだけではありません、私が4位で悔しい思いができるのも自分だけの問題ではありません、KOLCというチームがあったからこそ手に入れることができたものです。KOLCも私もまだまだ成長します。

最後に、ここまでオリエンテーリングを続けてこられたのは周りの人間に恵まれたおかげです。特にKOLCのOBOG、先輩、後輩には感謝しております。ありがとうございました。今後もしようしくお願いします。

第5位 五百倉 大輔（京都大学4年）

私は所謂「経験者」として1年生からインカレ選手権を走ってきたのですが、良い結果を残すことができていませんでした。同期の深田や宮西が入賞しているのを横目に、自分も次こそは、と思い続けていました。

事件が起きたのは昨年のあわらロングです。レース中、動物用の罠に足を引っ掛けて怪我し大きく順位を落としてしまいました。それが引き金と

なり、それから1年間、ずっと膝の痛みで悩まされてきました。毎日のように数時間のリハビリに通っていた時期もありました。ようやく良くなってきたと思ったら春に膝を岩にぶつけ、また怪我をしてしまいました。正直、心折れそうになりました。それでも立ち直れたのは、トレを頑張る同期のみんなや、応援してくれる松下さんをはじめとする先輩方がいたからです。

再び怪我から復帰したのは夏の終わり頃でした。久々のオリエンテーリングでしたが驚くことになぜか絶好調で、しかも、それからインカレにかけてどんどん調子が上がっていったのです。そうして迎えた今年のインカレロング、トレ不足で速くは走れないのだから、とにかくミスを抑えて走って運が良ければ入賞と考えていました。レース中は集中力を切らすことがなく、実際はほぼノーミスで回ることができました。最後の上りは本当にきつかったですが、ここで手を抜いたら応援してくれている京大京女のみんなにあわす顔が無いと思い、死ぬ気で走りました。結果、運が良かったので、ついに入賞することができました。本当に嬉しかったです。

最近、怪我をしたというティアの話をよく聞きます。でも、どん底から這い上がった者は強いのだ。どうか諦めないで欲しいと思います。

そして、次は春です。京大は真剣に団体戦優勝を狙ってトレを積み重ねています。絶対に優勝するので、よろしくお願いします。

最後になりましたが、この素晴らしい舞台を作ってくださった運営者の皆様に心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

第6位 滝川 真弘（東北大学3年）

今までインカレの選手権クラスではいい結果を残せずにいたので、ぎりぎりの6位でしたが入賞できて嬉しく思います。けがやモチベーションの低下などが原因で前回の春インカレからこの秋インカレまでオリエンテーリングから少し遠ざかっていた期間がありました。それが影響したせいかスプリントではセレに落ちてとても悔しい思いをしました。しかしそれからは、ロングが本番だからロングで頑張ろうと自分に言い聞かせてトレーニングに励むことができ、本番では練習の成果を存分に発揮することができました。

時がたつのは早いもので私のインカレはもう3回しか残っていません。インカレロング競技中に

した捻挫により走れない日々が続いていますが、残りのインカレを笑顔でいられるように、馬鹿みたいにやる気に満ち溢れる同期や、頼れる先輩やアドバイザーの方々、馬鹿みたいに走る後輩たちと切磋琢磨していきたいと思います。応援してくださった皆さま、運営してくれた方々ありがとうございました。



ロング・ディスタンス競技部門 男子選手権入賞者



ロング・ディスタンス競技部門 女子選手権入賞者

女子選手権

優勝 五味 あずさ (金沢大学 4 年)

ロング競技は、自分が一番力を入れている種目です。今年度 WOC に参加し、「名目だけでもロングの日本代表なんだ、夏前もその為に沢山走ってきたんだ、ロングでは負けられない」と考えるようになりました。

レース中は、ミスるなミスるなミスるなミスるなと、心の中で自分に言い聞かせながら走りしました。4→5 の序盤、ヤブの中でロストしそうになりかけた時、落ち着いて方向を定めて走れたのは、この言い聞かせの結果だと思います。ただ、序盤に各レッグで一位と差があるようにミスらないことに重きをおきすぎた所もあります。スピードを出した自分の全てをぶつけるレースが出来なかったことは、反省点であり課題です。

2 年前は同じ舞台にも立てず、悔しさと実力の差を感じていた同期達と、最高の舞台で戦うことが出来て本当に嬉しかったです。がんばれと言ってくれた皆さんとこの舞台を作ってくれた実行委員会の方々、そして一緒に競ってくれた皆のおかげでこの勝利を手に出れたと思っています。ありがとうございました。

準優勝 守屋 舞香 (相山女学園大学 4 年)

「ミスをするのに勝ててしまって、私は何がしたいんだろう。」私はオリエンテーリングを始めた時からずっと違和感を覚えていました。確かに私はロング F クラスで優勝して、2 年のロング選手権で 6 位に滑り込み入賞して以来、「ロングで優勝したい (優勝できる)」という一種野望にも似た特別な気持ちがありました。しかしレースは不安定なまま、3 年のロングはトップに 30 分以上の差で 7 位でした。当時は特に悔しさはなく、自分の違和感を放ってレースまでおざなりになってしまう、そう強く思えた、言わば転機となりました。私がオリエンテーリングを通してしたいことは何か？なぜミスをするのか？そんなところから考え始めました。そんな風に私は思考、反省、実行を続けていたらある日を境にレースが比較的安定し、2014 年度インカレミドルリレーの結果にも繋がりました。そして年度が変わってからは怪我のため苦手の筋トレばかりでしたが、自分のすべきこととして継続することができ精神的な負担はほとんどありませんでした。

また肝心なレースはド根性坂みたいなのところがかっさらわれてしまいましたが、抜いていった五味さんは素直に格好いいと思うし、私は私でメンタルや技量、そして身体と向き合えた集大成としてあのレース内容、この結果があるように思います。

ライバルである同期や後輩の存在は脅威であり有難い存在であり、インカレミドルでも最高の勝負ができることを心から楽しみにしています。最後にこの場をお借りして私のオリエンテーリングに関わった全てに感謝いたします。本当にありがとうございました。

第 3 位 伊東 瑠実子 (東京大学 4 年)

今回の大会では 3 位に入賞することができました。

4 年目のインカレロングでしたが大会までの練習は満足できる量が積めず、また前日のスプリントで結果を残せなかったため不安を抱えたままのレースとなりました。今回のトレインは明瞭な尾根、沢の少ない片斜面であり、直進に頼ったルートチョイスを使うと今の自分の実力ではミスタイムが大きくなるだろうと予想し、道回りを中心とした堅実なルートを取ることを選択しました。その結果ミスを抑えることに成功したので、その点は良かったと思います。ただ、地形が読みきれず慎重に進みすぎたところや、体力が尽きて後半の登りでスピードを上げることができないところなどもありました。

次のインカレ、東大の後輩たちと一緒に走れる最後のリレーまでの残り期間は僅かしかありません。3 月のインカレまで後輩たちと共に一層精進して参ります。

最後になりましたが、会場とトレインを提供していただいた地元の皆様、温かいおもてなしをしてくださった宿の方々、素晴らしい大会を開催してくださった大会運営者の皆様に厚くお礼申し上げます。

目次

ご挨拶

イベント・ アドバイザー 報告 P.3-6

将来への 提言 P.7-13

スプリント 入賞者 コメント P.14-17

スプリント コース解説 P.18-27

ロング 入賞者 コメント P.28-32

ロング コース解説 P.33-42

地図 P.43-46

スタート リスト P.47-48

スプリント 公式成績 P.49-52

ロング 公式成績 P.53-60

大会役員

第4位 宮川 早穂（立教大学4年）

立教大学4年宮川早穂です。今年のインカレロングは、4位という結果に終わりました。優勝を望んで応援してくれた仲間たちに、支えてくれた方々に、申し訳ない気持ち強く、入賞していながら晴れやかな気持ちでコメントを書くことができません。レースは、終始攻めのレース展開でした。自分の今まで確立してきたルーチンから逸脱し、ロングレグでチェックポイントが曖昧なまま突っ込み大きくミス。そこから立て直せずこのような結果となりました。結果は結果です。自分の中に残った悔しさを糧に、最後の春インカレに臨みます。ついに、立教に2人の1年生が入りました。私は4年生にして、初めて選手権リレーを走ります。後輩たちと、最高の締めくくりができるよう鍛えあげて臨みます。

第5位 松田 沙也加（岩手大学4年）

今年の夏は体カトレーニングという面で今まで以上に自分を追い込みました。大会や合宿にも（私的には）精力的に参加したように思いますし、メニューも（私的には）甘えのないよう取り組みました。なので、今回のインカレロングはその分自信を持って臨むことができました。結果として、走った後納得できる気持ちの良いレースができたことは、素直に嬉しかったです。ただ、今自分が持つ力を出すことができてのなお、私より上の順位の選手にはまだまだ及ばなかったという点では、とても悔しい後味のある、最後のインカレロングとなりました。この悔しさを忘れずに、もっと同期と張り合えるように、もっともっと貪欲に頑張りたいと思います。運営者の皆様、ありがとうございました。

第6位 山岸 夏希（筑波大学1年）

自分が挑戦者で、周りに速い四年生の方々がたくさんいて、そんな状況で挑めるインカレは今年一年しかない。私はチャレンジャーだ。と言い聞かせインカレの前夜を過ごしました。

もともと私の普段のレースは巡行をあげてレースを運び大きなミスをしてドカンと飛ぶ、というものです。しかし、インカレの本番でそんなレースをしてしまっただけで勝てないどころか、前日に登ることのできた、輝いていた表彰台に登れなくなってしまう。それが怖かったです。

そのため、巡行を下げ、怖くなったらずぐ止まり極力ロスを減らすような守りのレースをしてしまいました。そんなレースをしてはインカレの舞台では勝てないのは分かっているのに。

そんな矛盾の想いを抱えながら走り、結果、レース通りといえばレース通りギリギリ表彰台に登ることができました。たしかに嬉しかったのですがこれは違う、と思いました。特に勝ちたいと思っていた四年生のシード選手の方々に一人も勝てていなかったから、というのもあり、あれだけシードになれなかったのが不満で悔しかったのに、山岸はまだシードにするには早いです、と自分では言っているようだったからです。

レース後、多くの方におめでとう、と言ってもらいました。嬉しかったのですが素直に受け入れられない自分がいました。

絶対に次のインカレは勝ちたい。もう表彰台に登るだけでは満足できなくなりました。高みを目指してトレーニングを積みます。強い山岸を、強い筑波大学を魅せます。

6

ロング・ディスタンス競技部門 コース解説

ロング・ディスタンス競技部門 コース設定者 尾崎 弘和

1 はじめに

今年のインカレロングは、大きなトラブルなく、またコースの公平性も十分に確保されたうえで開催できた。レースは、私たち運営者一同が期待した通りだった。インカレロングに向けてしっかり準備を重ねた選手が、しっかり満足できるレースをできていたのでは、と思っている。一方で、結果を出せずに悔しい思いをした選手も多いことだろう。ここでの失敗は、必ず次の舞台へ続く。今回の成功、失敗を生かすも殺すも選手次第だ。富士見のインカレロングが、各選手の成長の第一歩として、楽しかった、嬉しかった、悔しかった思い出として各選手に残っていくのを願っている。

2 コースコンセプト

インカレロングのコース解説で書いたように、男女ともにオリエンテーリングの総合力が試されるコース設定を行った。また、レースが運に左右されないよう、コントロール位置は極力公平さが確保された場所を選んだ。

前半は下り基調でスピードを上げやすい反面、ナビゲーション、ルートチョイスに細心の注意が求められた。前半は、いかにスピードを上げながらミスを抑えるかが勝負の分かれ目となった。

そして男女ともにロングレグが、レース中盤に差し掛かるところで登場する。下りでスピードが上がる中、多くの手続きが要求された。このレグは勝負を大きく左右しただろう。

後半は打って変わり厳しいのぼりになる。後半は、前半の下り基調からの切り替えと我慢が求められた。そして、少しでも気を抜けば大きなミスにつながりかねないコントロールも多く、疲れてきた中でも正確な手続きが要求された。

最後は会場までの長い上り坂だ。ここはオリエンテーリングではなく、最後の気力、日ごろのトレーニングの成果が試される区間と言えただろう。

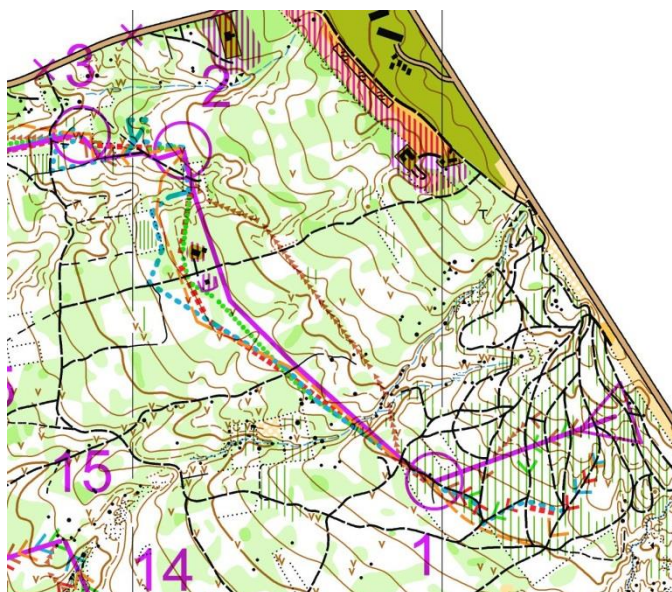
さまざまな課題がバランスよくちりばめられたコースになったと思う。

3 男子選手権コース解説

- 優勝 稲森剛 1:11:48
- 2位 宮西優太郎 1:12:04
- 3位 久保田皓貴 1:12:33
- 4位 田中基士 1:12:35
- 5位 五百倉大輔 1:13:11
- 6位 滝川真弘 1:13:26

S→1

選手権最初のコントロール。一見すると簡単だが、ミスなくたどり着くには、道をつなぐルートプランや正確な直進が要求される。入賞した選手たちはトップの田中選手から 30 秒以内に収め、順調な滑り出しを見せている。



1→2

選手権最初の勝負どころ。700m 近い直進を求められるレッグで、直進のずれや、直進中のスピードダウンは思わぬタイム差を生むと予想された。宮西選手が 4 分 48 秒の快走を見せた。入賞した選手の中では、滝川選手が宮西選手より 40 秒ほど遅いが、おおむね入賞選手はそつなくこなしている。東北大学の小林選手は 5 分のミスタイムで優勝争いから完全に脱落。その後の走りが十分優勝を狙えたものだっただけに、非常に残念なミスになってしまった。

2→3

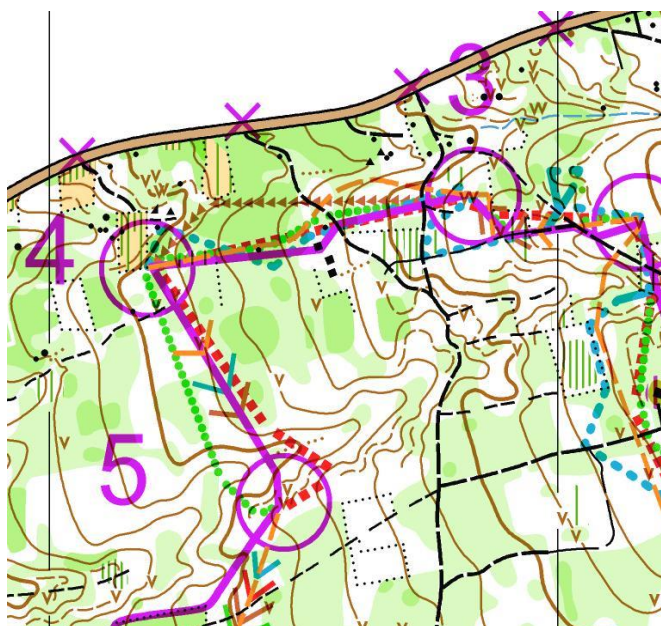
植生界をアタックポイントすれば、ミスなくこなせるレッグ。久保田選手は手前でアタックし、さらにオーバーランした結果、2 分近いミス。ショートレッグと言え、油断はできない。

3→4

直進がベスト。途中の建物からコンパスを頼りに進んでいけば難なくこなせるはずだ。

4→5

ここも直進だ。植生、地形のイメージを持ち、コンパスで直進できれば問題ない。五百倉選手は方向がずれ、40 秒ほどのロス。シードの福井選手はここで 3 分弱のミス。入賞争いから後退してしまった。木島選手は、5 番の地点でトップの宮西選手から 2 秒差の 2 位につける快走を見せた。

**5→6**

男子選手権の最長レッグだ。当然富士見インカレロングの大きなターニングポイントとなっただろう。

ルートの選択肢の詳細は、インカレロングコース解説を参照していただきたい。入賞選手はおおむね、コースセットの際に最速と考えられたルートを選択している。どのルートを選択した場合でも、選手は詳細なルートプラン、素早いルートチョイス、早く正確な実行、抜け目のない基本技術が求められる。それぞれの選手の特性に合ったルート選択するのがベストだろう。

このレッグは、東北大学の小林選手が 10 分 30 秒のトップラップを出した。小林選手は、プランナーの試走タイムとほぼ変わらず、特筆すべきタイムだ。シードの糸井川選手、入賞した滝川選手が 20 秒ほど遅れて続いている。滝川選手のルートはほとんどプランナーのベスト想定だ。

入賞選手はおおむね 11 分から 12 分程度ではしっている。入賞者はここで大きな差はつかなかった。木島選手はトップから 2 分の遅れで走ってしまい、優勝争いから脱落した。戸上選手は、このレッグを 11 分中盤で走り、3 位に浮上する。

→	優勝	稲森剛	1:11:48
→	2位	宮西優太郎	1:12:04
→	3位	久保田皓貴	1:12:33
→	4位	田中基士	1:12:35
→	5位	五百倉大輔	1:13:11
→	6位	滝川真弘	1:13:26

6→7

ロングレッグの後の切り替えレッグ。どの選手もそつなくこなしている。

7→8

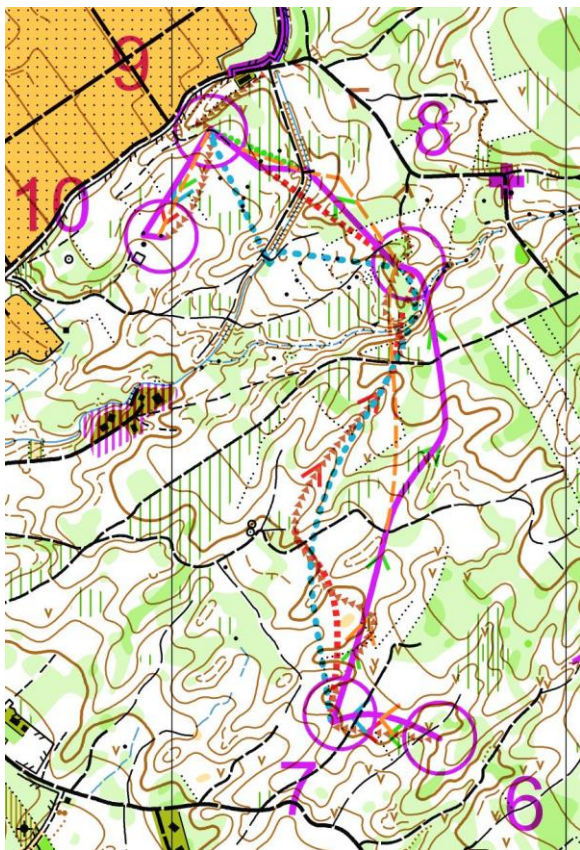
前半から課題が変わり、男子選手権初めてののぼりレッグだ。選手はスピードを落とさず登るルートチョイス、のぼりでスピードを落とさず走る体力が求められる。田中選手が持ち前の体力を生かし、トップラップを獲得、3位に浮上した。稲森、宮西選手がルートチョイスの影響か、約40秒の遅れをとっている。

8→9

このレッグは、途中の藪、ハッチ、川や土崖をいかに処理するかが重要となる。入賞者の大半はレッグ線上の渡河ポイントを利用している。

宮西選手が1分54秒でトップ。藪を無視してまっすぐ進む力強いルートだ。

田中選手は北を回って藪と川を回避している。しかしトップから1分10秒ほどの差がついてしまった。久保田選手は南寄りのアプローチだ。全体の5位であり、他の選手と大きな差はついていない。

**9→10**

ここは切りかえのレッグだ。見通しと植生が非常にいい森なので、選手は緩い下りを気持ちよく走ったことだろう。橋選手がトップラップを出している。

10→11

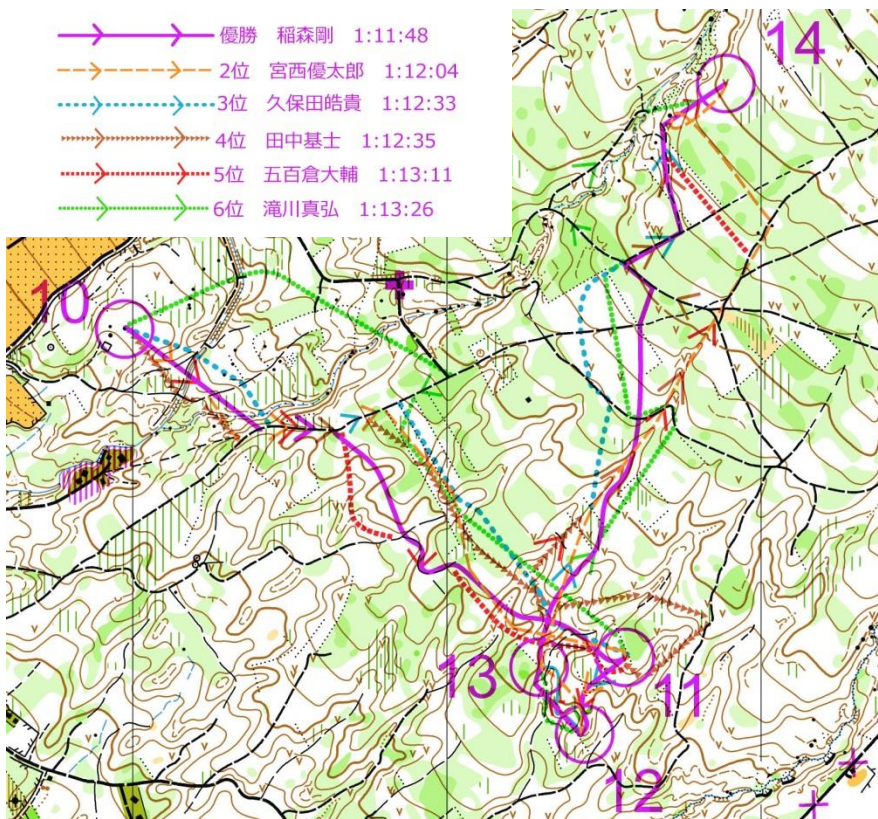
男子選手権の5-6に次ぐ勝負を分けるレッグだ。途中に立ちふさがる藪や、現在地、方向を見失うリスクが高い同じような尾根の処理が重要だ。また、ルートチョイスも多様にある。一気に順位を上げることができる一方、大きなミスにもつながりかねない。プランナーの予想通り、このレッグは、レースを大きく左右した。

トップは石山選手で7分37秒。石山選手はここで16位から8位に順位を大きく上げ、入賞争いに加

わった。入賞者はおおむね8分台で走っている。稲森選手が8分3秒で全体3位、続いて久保田選手が8分9秒で全体4位のタイムで走っている。平原選手はここを全体2位で走り、7位に浮上。入賞戦線に再び現れた。田中選手は直進ミスからのオーバーランで2分のミス

タイム。このミスにより田中選手は優勝を逃してしまった。滝川選手は北回りを選択。しかし道に乗れず2分のミス。滝川選手は、10番まで2位だったところが4位に転落。優勝争いから脱落した。戸上選手もここで3分のミスで入賞争いから脱落。明暗が大きく分かれたレッグだった。

→	優勝	稲森剛	1:11:48
→	2位	宮西優太郎	1:12:04
→	3位	久保田皓貴	1:12:33
→	4位	田中基士	1:12:35
→	5位	五百倉大輔	1:13:11
→	6位	滝川真弘	1:13:26



11→12→13

切りかえのレッグ。尾根を正確に走れて直進ができれば問題ない。

13→14

レース終盤にさしかかるところに訪れる長い登りレッグ。選手の体力と精神力が試される。同時に、いかに効率のいいルートチョイスを行うかが大切だ。このレッグは、福井選手が得意の登りを7分17秒で走り、トップラップを獲得した。ここで福井選手は入賞まであと1分まで迫った。

入賞者は7分30秒から9分ほどのタイムで走っている。しかし、レッグの難易度が高くない中、大きくタイム差が開いた。単純なのぼりレッグだが、ルートチョイスや選手の追い込みで大きな差がついた。

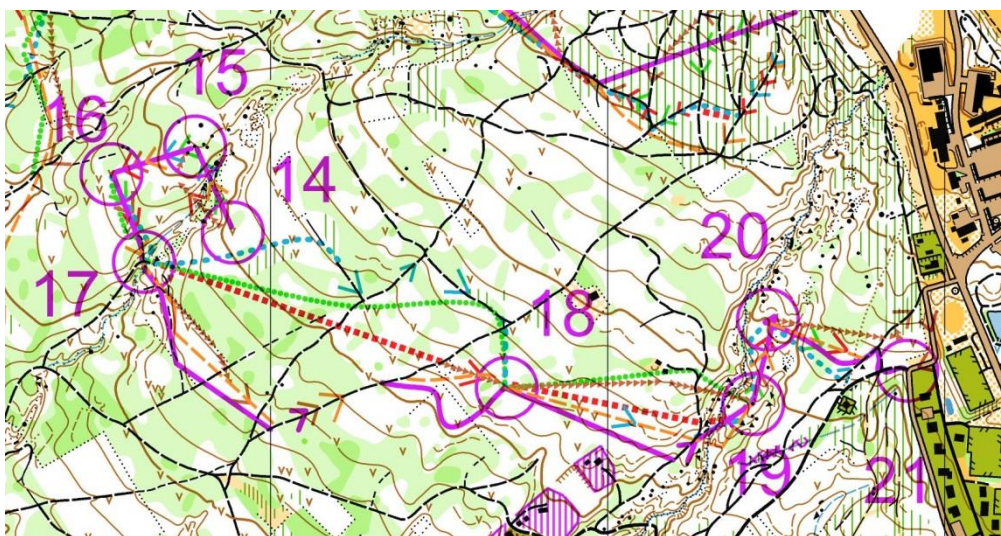
14→15→16→17

直進が正確にできれば問題なくこなせるレッグだ。ここでのスピード低下には注意したい。

17→18

平坦なところで直進するレッグ。直進だけでなく、選手は途中の数のルートチョイス、アタックポイントの設定など求められる。また、コントロール位置は難しく、男子選手権最難関のコントロールと言えるだろう。選手は、疲れた中でも基本に忠実になり、自分をコントロールしなければならなかった。

田中選手が4分43秒でトップタイムを出した。南ルートは宮西選手、稲森選手も選択しており、有力な候補だ。滝川選手はここで直進がずれ、1分ほどのミス。この時点でトップの宮西選手が稲森選手に1分のリード。2位の稲森選手から10秒差で田中選手、20秒差で久保田選手が続いた。残りのレッグの難易度と距離から考えると、優勝争いはこの4人に絞られた。



18→19

直進レッグ。直進するためには、緩やかなのぼりを我慢して登らなければいけない。疲れた中で、いかに我慢できるかが大切なレッグだ。

トップラップは2分20秒で田中選手。田中選手はここでトップの宮西選手まで16秒に迫った。稲森選手も2分30秒で走り、トップの宮西選手まで15秒に迫る。一方の宮西選手は、ミスはないものの、約50秒のミスタイム。久保田選手は田中選手から2分44秒で走り、トップから50秒差になる。

→	優勝	稲森剛	1:11:48
→	2位	宮西優太郎	1:12:04
→	3位	久保田皓貴	1:12:33
→	4位	田中基士	1:12:35
→	5位	五百倉大輔	1:13:11
→	6位	滝川真弘	1:13:26

19→20

直進レッグ。どの選手も問題なくこなした。

20→21

最後の誘導前の道に出るレッグ。道に出るまでにB藪を抜けなければならない、方向維持能力が大切になる。

多くの選手は問題なくこなす中、優勝争いはここで動いた。トップの宮西選手は、稲森選手とルートはほぼ変わらなかったが10秒の遅れをとり、ついに両者の差は1秒になる。一方、同じく優勝争いを繰り広げていた田中選手はここで道を大きく迂回し1分のミス。ここで優勝争いから完全に脱落した。優勝争いは稲森選手、宮西選手の二人になった。



2 1→2 2→2 3→2 4→◎

そして最後は気力と体力が試される区間だ。ひたすら登り続けるレッグ。そこでどこまで追い込めるかが勝負を分けるとロングコース解説に書いた。

そして今回のインカレは、この区間で勝負が決まった。2 1 番で1秒差となった稲森選手と宮西選手だったが、結果は稲森選手が1 6秒差をつけて勝利した。

最後に、この区間でトップを出したのは新潟大学の菅野選手だ。5分1 4秒の走りだった。続いて田中選手が5分1 6秒、福井選手が5分2 2秒と続いた。

4 女子選手権コース解説**S→1**

道が複雑に入り組んだ中で正確に道をつなぐか、まっすぐ進むかが求められる。難易度は高くないが気は抜けない。入賞者は半分が直進、半分が道周りを選択した。

トップラップは道を回った宮川選手。他の入賞者も4 0秒以内のタイム差で通過している。

1→2

川沿いを下って岩にアタックするレッグ。奥には植生界があり、アタックはそこまで難しくない。難易度は高くないので、いかに中間部のスピードを上げられるかが大切。

このレッグは守屋選手が2分3 7秒でトップタイムを出している。宮川選手が8秒差で続く。山岸選手はここで約1分のビハインド。道を大きく迂回したのが原因だと考えられる。

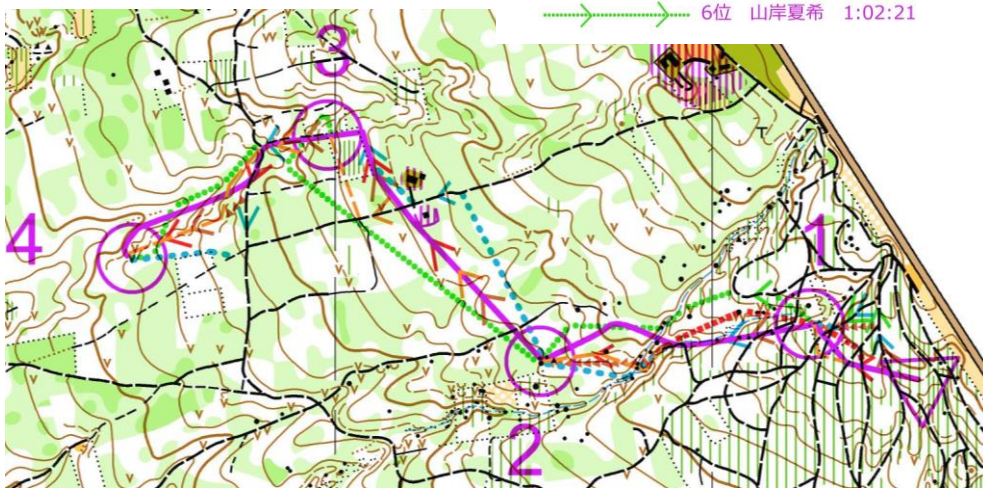
→	優勝	五味あずさ	55:57
→	2位	守屋舞香	57:17
→	3位	伊東瑠実子	1:00:06
→	4位	宮川早穂	1:00:11
→	5位	松田沙也加	1:00:18
→	6位	山岸夏希	1:02:21

2→3

直進が求められるレッグだ。うまく建造物と植生界をCP、APにつかえれば問題ない。

トップラップは宮川選手。

3分3 1秒で走り2位の守屋選手に1 2秒差をつけた。宮川選手はこのレッグで、ルートが同じ入賞選手と比べ1 0秒以上の差をつけている。他の入賞者は3 0秒以内のタイム差だ。山岸選手は直進のミスで、ここでも1分のロス。

**3→4**

下りのショートルッグ。アタックポイントを設定し、道や尾根、沢などの線上特徴物を正確につなげば難なくこなせるはずだ。

ここでも宮川選手が2分7秒で走りトップラップを出した。宮川選手は、序盤4レッグ中3レッグでトップラップをだし、この時点で2位の守屋選手と1分の差をつけている。

伊東選手はここでは道を確実につなぐルートを選択した。トップの宮川選手から40秒遅れたが、伊東選手からは、レース全体で道を積極的に使う戦略がうかがえる。

4→5

女子選手権最長のロングレグだ。レースが決定づけられる一つの大きなポイントだ。このレグは正解がない。選手は、無限に広がるルートから自分の最適解を見つけ出さなければならない。そして、選手にとってはレグに課された複雑な手続きを簡略化し、かつレースを壊しかねないミスをいかに防ぎスピードを上げられるかが重要となる。

ここは、五味選手が1分9秒で走り、トップラップを出した。2位の守屋選手が1分40秒で続いた。レグタイム3位には伊東選手が1分49秒で入った。五味選手はプランナー想定最適ルートの一つを走り、ここで1位に浮上した。

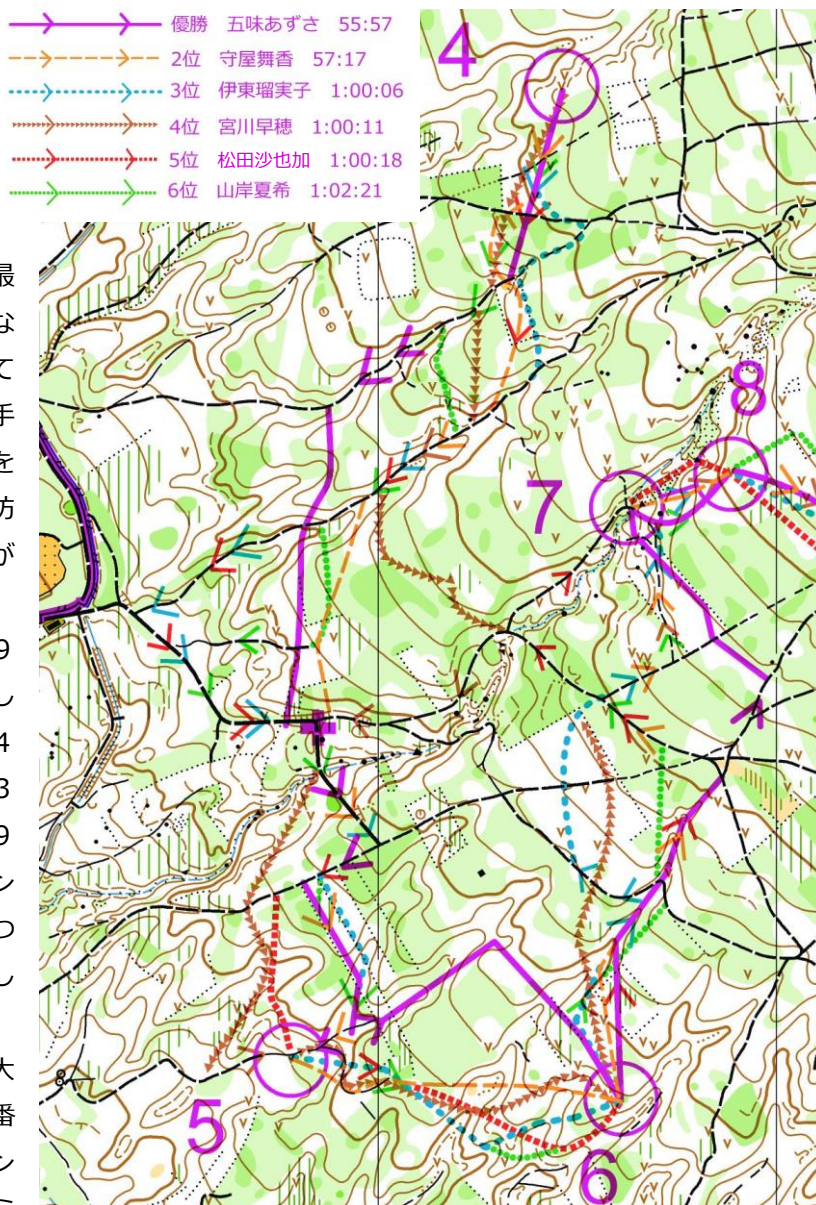
一方、多くの選手がここで大きくミスをしている。特に4番で1位だった宮川選手はロングレグ途中でルート選択ミス。

宮川選手はこのレグで五味選手から3分の遅れをとり4位に後退した。金沢の荒井選手はここで4位から7位へ後退。このレグは、伊東選手や松田選手のように多くの選手が道をつなぎ、セーフティーに走っている印象だ。

5→6

ロングレグ後のミドルレグ。ロングレグで疲れた選手はここで気を抜くわけにはいかない。選手は、レグの途中にある藪の処理を確実にやり、レグ線に垂直に伸びる尾根をうまく読みながらナビゲーションしなければならない。

このレグは、直進ルートを選択した守屋選手が4分15秒でトップラップ。1位に立った。五味選手は、北に大きく迂回するルートチョイスで約40秒のビハインド。2位に後退した。



6→7

前半とは打って変わった登りレッグだ。選手は、スピードを落とさず登るルートチョイス、不整地を走りきる体力、精神力が求められる。

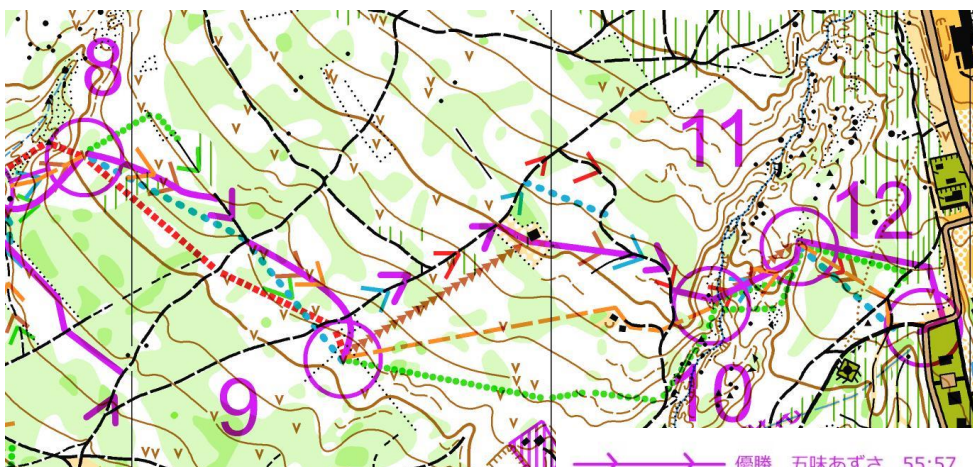
ここは、宮川選手が7分34秒でトップだ。5秒遅れて松島選手、7秒遅れて松田選手と続いた。入賞選手は山岸選手以外7分台で走っている。山岸選手はルート途中のB藪切りが響いたか、8分44秒と1分近く遅れている。しかし、どのルートでも大きな口スはなく、選手の特性に合ったルート選択が求められたようだ。

7→8

切りかえのレッグ。直進が求められる。上位選手はそつなくこなしている。

8→9

特徴物の少ない穴へのアタックが求められるレッグ。正確なナビゲーションとコンパスワーク、アタックポイントの設定が重要だ。植生界をアタックポ



イントにするのが有力だろう。

上位の選手は大きなミスなくこのレッグをこなしている。3分43秒で走った1位の五味選手から30秒ほどで入賞者は全員走っている。筆者はコースセットを行った際、もっと多くの人がここでミスをすると考えていた。そのため、私が選手たちのオリエンテーリング技術の高さに驚かされる結果となった。

9→10

特徴物の少ない緩やかな不整地の登りを直進するか、道を守るかのルートチョイスが求められるレッグ。選手にとっては、終盤の疲れた場面でよりスピードを上げて確実に走る選択が求められた。

トップラップは4分21秒で守屋選手だ。守屋選手は、終盤の疲れがたまった場面で斜面に流さず正確な直進をしている。五味選手が4分23秒の2秒差で守屋選手に続く。五味選手は守屋選手と対照的に道をつなぐ選択をした。両者のタイム差は結果的にほとんどない。宮川選手、伊東選手は1分の遅れをとった。宮川選手は直進方向のずれから北東の建物に到達してしまった。

10→11

短い直進レッグ。素早くこなしたい。

優勝	五味あずさ	55:57
2位	守屋舞香	57:17
3位	伊東瑠実子	1:00:06
4位	宮川早穂	1:00:11
5位	松田沙也加	1:00:18
6位	山岸夏希	1:02:21

11→12

誘導の起点にアタックするレッグ。選手は途中の藪に負けずに方向維持をしなければならない。

入賞選手は、ルートへの差は多少あるもののタイム差はあまり生まれていない。レッグ1位は楢山の神谷選手。

この時点で1位の守屋選手、2位の五味選手との差は14秒、3位の宮川選手と4位の伊東選手の差は8秒だった。女子選手権は最後の登りで勝負が決まった。

12→13→14→15→◎

会場までの最後の登りだ。選手たちは気力と体力を振り絞り、一つでも順位を上げるために走っただろう。

女子選手権はここで勝負が動いた。五味選手が、12番時点の守屋選手との14秒差を巻き返し優勝した。五味選手は女子全選手の中でもトップクラスのタイムでこの区間を走った。3位の宮川選手と4位の伊東選手は、伊東選手が5秒の差をつけて宮川選手に勝利した。

12からフィニッシュまで最速ラップを出した選手は、金沢大学熊野選手、6分14秒だ。続いて、金沢大学の五味選手が6分23秒、慶應義塾大学の上妻選手が6分33秒だった。

→	優勝	五味あずさ	55:57
→	2位	守屋舞香	57:17
→	3位	伊東瑠実子	1:00:06
→	4位	宮川早穂	1:00:11
→	5位	松田沙也加	1:00:18
→	6位	山岸夏希	1:02:21

**5 レース総括**

今回のレースは、男女とも手に汗を握るレース展開になった。

男子は、稲森選手、宮西選手、田中選手が最後の最後まで優勝争いを繰り広げた。最後は、会場までの登りで勝負が決することになったが、彼らの激闘は見ているものを感動させただろう。また、入賞者の順位争いも接戦で、応援にも力が入っているのが運営している私たちにも伝わってきた。

女子は、五味選手と守屋選手が熾烈なトップ争いをした。男子と同じく、最後の会場までの登りで勝負が決まったが、両者の実力は拮抗しており、見るものを興奮させた。入賞者を見てみると、

今年の女子はレベルの高い選手が多く、誰が勝つかわからないレースだった。決して自分のレースをするのは簡単ではないインカレの舞台で、これだけの戦いを繰り広げた選手たちの走りに運営している私も心を動かされた。

男子、女子共に入賞争いのみならず、選手権を走ったすべての選手の努力、レースにかかる思いが伝わってきた。運営者一同、今年のインカレは簡単なテレイン、コースではないと考えていた。その中で、男子、女子共にほぼすべての選手が競技時間内に完走した。これは私たちにとってうれしい誤算だった。

ウイニングタイムは、男女ともに10分ほど切られてしまった。選手が想像以上に富士見の森でレベルの高い走りをした結果だが、今回の結果は今後の運営の反省材料としていきたい。

優勝した稲森選手、五味選手はレース前から有力視されていた選手だった。しかし、有力選手が必ず勝つとは限らないのがインカレだ。ロングという“King of Orienteering”を決める舞台で、最高のパフォーマンスを見せた二人は、選手の記憶の中に残っていくことだろう。



ロング・ディスタンス競技部門 一般の部スタート地区

1 スプリント競技部門 コース図

An Orienteering Map Produced by NishiPRO, Released on 2015/10/3

富士見高原リゾート

長野県諏訪郡富士見町

報告書への掲載の
都合上、縮尺は
実物と異なります。

縮尺 1:4000
等高線間隔 2m
JSSOM2007準拠

2015年度
日本学生オリエンテーリング選手権大会
スプリント競技部門
2015年10月3日(土)



	ME		2.5 km		70m
	▷		↗	■	▽
1	31		↘		↑
2	32		↖		
3	33		■		▽
4	34		↗		↓
5	35	↗	Π		▽
6	36	×			○
7	37	↘			↑
8	38	≡			↓
○ — 110 m — →					
9	39	▨			↑
10	40	→	◇		←
11	41	↗			↖
12	42	←	■		↓
13	43	◇			○
14	44	◇			↓
15	47	↑	↗		↓
○ — 90 m — →					



マスコットキャラクター
ふじみ鳥

150m

特殊記号

- 石壁 (下部からのみ視認可)
× 台(上部通行不可)

調査・作図: 西村徳真 (NishiPRO)
Powered by OCAD9 (No.6944)
調査期間: 2015年5月, 9月

無断複製によるオリエンテーリング活動ならびにそれを補助する行為を禁止いたします。本地図を用いたオリエンテーリング活動を希望の場合は、NPO法人オリエンテーリングクラブトータスまでお問い合わせください。

Copyright 2015, NPO法人オリエンテーリングクラブトータス

- 通過禁止
▨ 立入禁止
≡ 通過可能箇所

Outdoor Sports Producer
NishiPRO

TEL: 090-8341-6925 E-mail: nishipro12@gmail.com
HP: http://nishipro.com

R1	R2	R3
----	----	----

富士見高原リゾート

長野県諏訪郡富士見町

報告書への掲載の
都合上、縮尺は
実物と異なります。

縮尺 1:4000
等高線間隔 2m
JSSOM2007準拠

2015年度
日本学生オリエンテーリング選手権大会
スプリント競技部門
2015年10月3日(土)



WE		2.0 km	65 m
▷		↗	▽
1	31	∩	↑
2	32	↘	
3	33	■	▽
4	34	↖	↓
5	35	↗	↘
6	38	↖	↓
○ — 110 m — ○			
7	39	▨	↑
8	40	→	←
9	41	↘	↖
10	42	←	↓
11	45	↖	↓
12	44	◇	↘
13	47	↑	↓
○ — 90 m — ○			



マスコットキャラクター
ふじみ鳥

150m

特殊記号
— 石壁 (下部からのみ視認可)
x 台 (上部通行不可)

調査・作図: 西村徳典 (NishiPRO)
Powered by OCAD9 (No.6944)
調査期間: 2015年5月, 9月

無断複製によるオリエンテーリング活動ならび
にそれを補助する行為を禁止いたします。本地図
図を用いたオリエンテーリング活動を希望の場
合は、NPO法人オリエンテーリングクラブト
ータスまでお問い合わせください。

Copyright 2015, NPO法人オリエンテーリングクラブトータス

立入禁止
通過指定箇所

Outdoor Sports Producer
NishiPRO

TEL: 090-8341-6925 E-mail: nishipro12@gmail.com
HP: http://nishipro.com

R1	R2	R3
----	----	----

ロング・ディスタンス競技部門 ディスクリプション、全コントロール図

開催日：2015年10月4日（日）

全コントロール 94Page 45

富士見の森 2015

長野県諏訪郡富士見町

縮尺 1:10,000
等高線間隔 5m
JSOM2007準拠

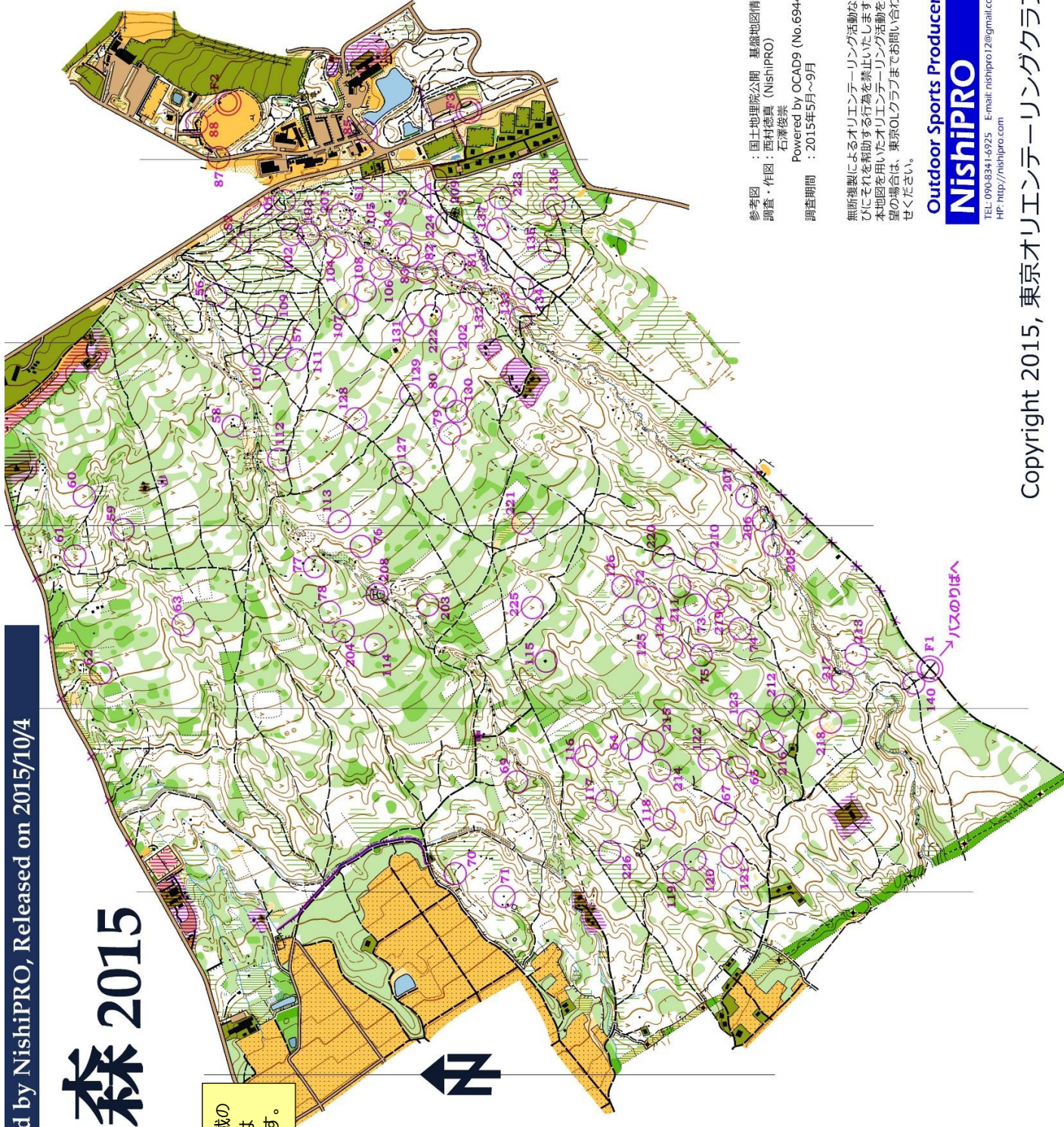
報告書への掲載の
都合上、縮尺は
実物と異なります。

2015年度
日本学生オリエンテーリング選手権大会
ロング・ディスタンス競技部門

開催日：2015年10月4日（日）

富士見高原ミドルオリエンテーリング大会
(JOA公認カテゴリーB)

開催日：2015年10月4日（日）



参考図：国土地理院公開 基礎地図情報
調査・作図：西村徳章 (NishiPRO)

石澤俊崇

Powered by OCAD9 (No.6944)

調査期間：2015年5月～9月

無断複製によるオリエンテーリング活動なら
びにそれを補助する行為を禁止いたします。
本地図を用いたオリエンテーリング活動を希
望の場合は、東京OLクラブまでお問い合わせ
ください。

Outdoor Sports Producer

NishiPRO

TEL: 090-8341-6925 E-mail: nishipro12@gmail.com
HP: <http://nishipro.com>

8

選手権の部 スタートリスト

1 スプリント競技部門

- ・★印はシード選手です。
- ・◇印はプログラム（要項 3）の記載から選手変更があったものです。

ME (1/2)		参加人数 58
スタート時刻	氏名	学校・学年
11:30	岡本洸彰	東京大学 1
11:31	堀尾健太郎	名古屋大学 2
11:32	高久匠	岩手大学 3
11:33	伊藤陵	京都大学 4
11:34	西村駿	東京工業大学 3
11:35	大竹達也	金沢大学 3
11:36	深田恒	東京大学 4
11:37	大村幸一郎	名古屋大学 4
11:38	伊藤悠葵	大阪大学 4
11:39	林千尋	名古屋大学 4
11:40	宮西優太郎	東北大学 4
11:41	晝間悠生	慶應義塾大学 1
11:42	桜井創	大阪大学 4
11:43	大川拓哉	東北大学 3
11:44	秋山周平	大阪大学 3
11:45	宮本樹	東京大学 1
11:46	澤田潤	名古屋大学 2
11:47	今正寛	金沢工業大学 3
11:48	郷尚之	新潟大学 2
11:49	◇和田康次郎	慶應義塾大学 2
11:50	三浦孝之	福島大学 4
11:51	福井悠太	東京大学 4
11:52	杉浦弘太郎	名古屋大学 2
11:53	小松栄輝	東北大学 3
11:54	松島真之	京都大学 4
11:55	照井雄大	東北大学 3
11:56	小泉知貴	慶應義塾大学 3
11:57	★橋孝祐	横浜国立大学 3
11:58	築地孝和	神戸大学 3
11:59	中村哲	京都大学 2
12:00	有賀裕亮	早稲田大学 2
12:01	中野高博	東京大学 2
12:02	★戸上直哉	東京工業大学 4
12:03	坂本譲	東北大学 2
12:04	田中基成	筑波大学 3
12:05	前中脩人	東京大学 3
12:06	立川大輝	関東学院大学 3
12:07	★藤原大樹	岩手大学 4
12:08	加藤岬	東京大学 2
12:09	田口茂樹	岩手大学 3
12:10	角田貴大	横浜市立大学 2
12:11	八木颯	東北大学 2
12:12	★五百倉大輔	京都大学 4
12:13	赤井章吾	東北大学 2
12:14	猪俣祐貴	東京大学 3
12:15	原田龍馬	東北大学 4
12:16	鹿島健人	新潟大学 2
12:17	★石山良太	名古屋大学 3
12:18	小林隆嗣	東北大学 2
12:19	小柏景司	新潟大学 2

ME スタートリストは右上に続く

ME (2/2) 左下の続き

12:20	是永大地	名古屋大学 2
12:21	高野兼也	新潟大学 2
12:22	★菅野悠斗	新潟大学 3
12:23	高水陽介	名古屋大学 4
12:24	柴沼健	早稲田大学 1
12:25	橋本正毅	東北大学 3
12:26	稲森剛	横浜国立大学 1
12:27	★糸井川壮大	京都大学 4

WE

参加人数 30

スタート時刻	氏名	学校・学年
10:50	本間実季	東北大学 3
10:51	千賀幸	岩手大学 2
10:52	大類茉美	フェリス学院大学 2
10:53	川島実紗	名古屋大学 3
10:54	金林優美	奈良女子大学 1
10:55	椎名麻美	茨城大学 3
10:56	西方美羽	北海道大学 3
10:57	伊東佑子	椋山女学院大学 4
10:58	佐野萌子	京都女子大学 1
10:59	★帯金未歩	大阪大学 3
11:00	山口仁実	奈良女子大学 2
11:01	木村史依	金沢大学 3
11:02	森田桜織	横浜市立大学 3
11:03	★中村茉菜	早稲田大学 3
11:04	成澤春菜	フェリス学院大学 2
11:05	神谷玲花	椋山女学院大学 4
11:06	宮田優花	筑波大学 4
11:07	★松田沙也加	岩手大学 4
11:08	石野陽子	京都大学 3
11:09	◇香取菜穂	千葉大学 1
11:10	青島千映里	京都女子大学 2
11:11	★五味あずさ	金沢大学 4
11:12	藤井菜実	椋山女学院大学 2
11:13	伊東瑠実子	東京大学 4
11:14	小野澤清楓	群馬大学 3
11:15	★守屋舞香	椋山女学院大学 4
11:16	上良智子	京都大学 2
11:17	長谷川真子	東北大学 2
11:18	齋藤里紗	岩手大学 3
11:19	★山岸夏希	筑波大学 1

2 ロング・ディスタンス競技部門

- ・★印はシード選手です。
- ・◇印はプログラム（要項 3）の記載から選手変更があったものです。

ME (1/2) 参加人数 61		
スタート時刻	氏名	学校・学年
11:30	照井雄大	東北大学 3
11:32	田中大貴	一橋大学 3
11:34	戸上直哉	東京工業大学 4
11:36	森泰二郎	東京大学 4
11:38	大箭歩	金沢大学 2
11:40	石山良太	名古屋大学 3
11:42	五百倉大輔	京都大学 4
11:44	樋口佳祐	名古屋大学 3
11:46	宮本樹	東京大学 1
11:48	高水陽介	名古屋大学 4
11:50	松浦知佑	大阪大学 3
11:52	東将央	横浜国立大学 4
11:54	平原誉士	京都大学 2
11:56	木島佑輔	東京大学 3
11:58	◇橋孝祐	横浜国立大学 3
12:00	竹内孝	京都大学 3
12:02	栗本開	東京大学 3
12:04	小林大悟	筑波大学 2
12:06	祐谷大輝	東京大学 4
12:08	葛野力	京都大学 3
12:10	橋本知明	東京大学 3
12:12	橋本正毅	東北大学 3
12:14	滝川真弘	東北大学 3
12:16	田中基成	筑波大学 3
12:18	西村駿	東京工業大学 3
12:20	伊藤陵	京都大学 4
12:22	清水敬太	東北大学 3
12:24	大村幸一郎	名古屋大学 4
12:26	伊藤悠葵	大阪大学 4
12:28	大竹達也	金沢大学 3
12:30	松尾怜治	東京大学 2
12:32	島倉侑志	金沢大学 4
12:34	角田貴大	横浜市立大学 2
12:36	菅野柊斗	新潟大学 3
12:38	澤口弘樹	早稲田大学 3
12:40	小林隆嗣	東北大学 2
12:42	立川大輝	関東学院大学 3
12:44	稲森剛	横浜国立大学 1
12:46	尾形季彦	岩手大学 3
12:48	桜井創	大阪大学 4
12:50	原田龍馬	東北大学 4
12:52	秋山周平	大阪大学 3
12:54	猪俣祐貴	東京大学 3
12:56	新粥文哉	千葉大学 4
12:58	富田涼介	東北大学 2
13:00	藤原大樹	岩手大学 4
13:02	佐藤俊太郎	東北大学 2
13:04	下江裕貴	広島大学 2
13:06	★宮西優太郎	東北大学 4
13:08	小川文彰	大阪大学 4
13:10	井倉幹大	東京大学 3
13:12	田中基士	横浜市立大学 4
13:14	★糸井川壮大	京都大学 4
13:16	久保田皓貴	慶應義塾大学 2
ME スタートリストは右上に続く		

ME (2/2) 左下の続き		
13:18	小松栄輝	東北大学 3
13:20	稲葉翔也	名古屋大学 4
13:22	★深田恒	東京大学 4
13:24	築地孝和	神戸大学 3
13:26	小野真嗣	京都大学 4
13:28	小泉知貴	慶應義塾大学 3
13:30	★福井悠太	東京大学 4

WE 参加人数 46		
スタート時刻	氏名	学校・学年
11:31	宮田優花	筑波大学 4
11:33	木村史依	金沢大学 3
11:35	帯金未歩	大阪大学 3
11:37	藤田麻矢	岩手大学 3
11:39	増山春菜	筑波大学 2
11:41	大類茉美	フェリス女学院大学 2
11:43	中村茉菜	早稲田大学 3
11:45	神谷玲花	椋山女学園大学 4
11:47	上妻紅音	慶應義塾大学 2
11:49	伊東佑子	椋山女学園大学 4
11:51	郷田侑希	奈良女子大学 4
11:53	増田七彩	東京大学 3
11:55	針生佳奈	宮城学院女子大学 3
11:57	川島実紗	名古屋大学 3
11:59	石神愛海	実践女子大学 3
12:01	新井梨子	東北大学 3
12:03	豊澤香澄	相模女子大学 4
12:05	直井萌香	筑波大学 3
12:07	齋藤里紗	岩手大学 3
12:09	高田奈緒	東京医科歯科大学 4
12:11	成澤春菜	フェリス女学院大学 2
12:13	武田紗知	東京農工大学 3
12:15	荒井清美	金沢大学 4
12:17	森田桜織	横浜市立大学 3
12:19	中村友香	名古屋大学 3
12:21	小川茉乃	茨城大学 3
12:23	新屋鈴	金沢大学 2
12:25	小野澤清楓	群馬大学 3
12:27	松田沙也加	岩手大学 4
12:29	熊野谿真帆	金沢大学 3
12:31	土田美和	横浜市立大学 3
12:33	三好花奈	宮城学院女子大学 2
12:35	渡辺菜央美	名古屋大学 4
12:37	★五味あずさ	金沢大学 4
12:39	山岸夏希	筑波大学 1
12:41	不破美沙	新潟大学 4
12:43	田中圭	武蔵野大学 3
12:45	★宮川早穂	立教大学 4
12:47	鈴木友紀乃	新潟大学 2
12:49	吉岡梨花子	北海道大学 3
12:51	燈田真佑子	奈良女子大学 2
12:53	★守屋舞香	椋山女学園大学 4
12:55	藤井菜実	椋山女学園大学 2
12:57	鈴木彩可	金沢大学 2
12:59	松島彩夏	立教大学 3
13:01	★伊東瑠実子	東京大学 4

9

公式成績

1 スプリント競技部門

・MEC/WEC クラスでは学生以外の方の成績も含んでいます。

ME 2.5 km ↑70 m			
順位	氏名	学校・学年	タイム
1	稲森剛	横浜国立大学 1	0:12:36
2	宮西優太郎	東北大学 4	0:13:04
3	小林隆嗣	東北大学 2	0:13:13
4	宮本樹	東京大学 1	0:13:20
5	築地孝和	神戸大学 3	0:13:46
5	角田貴大	横浜市立大学 2	0:13:46
7	猪俣祐貴	東京大学 3	0:13:47
8	柴沼健	早稲田大学 1	0:13:56
9	堀尾健太郎	名古屋大学 2	0:14:11
10	西村駿	東京工業大学 3	0:14:14
11	桜井創	大阪大学 4	0:14:18
11	立川大輝	関東学院大学 3	0:14:18
13	高野兼也	新潟大学 2	0:14:21
14	秋山周平	大阪大学 3	0:14:35
14	五百倉大輔	京都大学 4	0:14:35
16	中野喬博	東京大学 2	0:14:38
17	有賀裕亮	早稲田大学 2	0:14:41
18	菅野柊斗	新潟大学 3	0:14:44
19	田口茂樹	岩手大学 3	0:14:46
20	林千尋	名古屋大学 4	0:15:05
21	是永大地	名古屋大学 2	0:15:20
22	岡本洸彰	東京大学 1	0:15:22
23	石山良太	名古屋大学 3	0:15:23
24	松島真之	京都大学 4	0:15:28
25	大竹達也	金沢大学 3	0:15:32
26	小松栄輝	東北大学 3	0:15:36
27	大村幸一郎	名古屋大学 4	0:15:37
28	前中脩人	東京大学 3	0:15:41
29	坂本譲	東北大学 2	0:15:50
30	三浦孝之	福島大学 4	0:15:58
31	小柏景司	新潟大学 2	0:16:00
32	大川拓哉	東北大学 3	0:16:05
33	赤井章吾	東北大学 2	0:16:41
34	伊藤悠葵	大阪大学 4	0:16:42
35	高久匠	岩手大学 3	0:16:48
36	澤田潤	名古屋大学 2	0:16:58
37	和田康次郎	慶應義塾大学 2	0:17:04
38	八木颯	東北大学 2	0:17:12
39	杉浦弘太郎	名古屋大学 2	0:17:17
40	今正寛	金沢工業大学 3	0:17:23
41	郷尚之	新潟大学 2	0:17:53
42	鹿島健人	新潟大学 2	0:17:55
43	中村哲	京都大学 2	0:19:21
	糸井川壮大	京都大学 4	DISQ
	橋本正毅	東北大学 3	DISQ
	高水陽介	名古屋大学 4	DISQ
	原田龍馬	東北大学 4	DISQ
	藤原大樹	岩手大学 4	DISQ
	戸上直哉	東京工業大学 4	DISQ
	橋孝祐	横浜国立大学 3	DISQ
	小泉知貴	慶應義塾大学 3	DISQ
	福井悠太	東京大学 4	DISQ
	晝間悠生	慶應義塾大学 1	DISQ

ME 続き

深田恒	東京大学 4	DISQ
伊藤陵	京都大学 4	DISQ
加藤岬	東京大学 2	DISQ
田中基成	筑波大学 3	DISQ
照井雄大	東北大学 3	DISQ

WE 2.0 km ↑65 m

順位	氏名	学校・学年	タイム
1	五味あずさ	金沢大学 4	0:12:12
2	守屋舞香	椋山女学園大学 4	0:13:28
3	山岸夏希	筑波大学 1	0:14:43
4	松田沙也加	岩手大学 4	0:15:27
5	常金未歩	大阪大学 3	0:15:46
6	香取菜穂	千葉大学 1	0:16:11
7	大類美美	フェリス女学院大学 2	0:16:14
8	金林優美	奈良女子大学 1	0:17:20
9	伊東佑子	椋山女学園大学 4	0:17:51
10	齋藤里紗	岩手大学 3	0:18:02
11	神谷玲花	椋山女学園大学 4	0:18:16
12	青島千映里	京都女子大学 2	0:19:11
13	上良智子	京都大学 2	0:19:56
14	宮田優花	筑波大学 4	0:20:25
15	佐野萌子	京都女子大学 1	0:20:34
	中村茉菜	早稲田大学 3	DISQ
	千賀幸	岩手大学 2	DISQ
	伊東瑠実子	東京大学 4	DISQ
	木村史依	金沢大学 3	DISQ
	椎名麻美	茨城大学 3	DISQ
	長谷川真子	東北大学 2	DISQ
	小野澤清楓	群馬大学 3	DISQ
	藤井菜実	椋山女学園大学 2	DISQ
	石野陽子	京都大学 3	DISQ
	山口仁実	奈良女子大学 2	DISQ
	成澤春菜	フェリス女学院大学 2	DISQ
	森田桜織	横浜市立大学 3	DISQ
	西方美羽	北海道大学 3	DISQ
	川島実紗	名古屋大学 3	DISQ
	本間実季	東北大学 3	DISQ

MEC 2.5 km ↑70 m			
順位	氏名	学校・学年	タイム
1	糸賀翔大	東京大学オフィシャル	0:11:26
2	長縄知晃	静岡 O L C	0:12:07
3	小泉成行	O-Support	0:12:26
4	松下睦生	京都 OLC	0:12:32
4	上島浩平	慶應義塾大学 1	0:12:32
6	下沢廉	新潟大学 1	0:12:55
7	富田航	東北大学 4	0:13:04
8	森田棕也	京都大学 2	0:13:17
9	刀根大輔	東京大学 2	0:13:26
10	桑原大樹	東京大学 3	0:13:27
10	濱宇津佑亮	東京大学 1	0:13:27
12	杉村俊輔	青葉会	0:13:28
13	大久保雄真	東京工業大学 1	0:13:30
14	佐藤弘基	福島大学 3	0:13:38
15	半沢守	東北大学 3	0:13:39
16	坂梨敬哉	慶應義塾大学 2	0:13:47
17	堀江優貴	東北大学 2	0:13:49
17	滝川真弘	東北大学 3	0:13:49
17	吉原幸輝	大阪大学 1	0:13:49
20	松澤俊行	浜松学院大短大部	0:13:51
21	遠藤匠真	大阪大学 1	0:13:53
21	平山遼太	東京大学 2	0:13:53
23	瀬尾峻汰	京都大学 3	0:14:02
24	福井智也	大阪大学 2	0:14:05
25	佐藤誠也	東北大学 1	0:14:08
26	吉澤雄大	慶應義塾大学 2	0:14:09
26	河野大和	東京大学 2	0:14:09
28	大田将司	一橋大学 1	0:14:10
29	八神遥介	ときわ走林会	0:14:11
30	稲葉英雄	三河 OLC	0:14:14
31	友田雅大	早稲田大学 2	0:14:16
32	小松宗一郎	新潟大学 1	0:14:17
33	福永貴弘	東北大学 1	0:14:18
33	重石尚樹	岩手大学 2	0:14:18
35	岩瀬史明	名古屋大学 2	0:14:19
35	木村雄大	大阪大学 4	0:14:19
37	廣嶋和貴	東北大学 2	0:14:28
38	井倉幹大	東京大学 3	0:14:29
38	横山裕晃	東北大学 1	0:14:29
40	三上剛弘	東京工業大学 3	0:14:32
41	丸山真輝	東北大学 1	0:14:35
42	吉野拓海	新潟大学 3	0:14:39
43	岡遼汰郎	東京大学 1	0:14:42
44	水間隼人	東京工業大学 2	0:14:43
45	三國稔男	東北大学 1	0:14:51
46	高松涼	福島大学 1	0:14:52
47	松本萌希	京都大学 1	0:14:53
48	寺西翔	金沢大学 1	0:14:55
48	笠間悠輔	京都大学 4	0:14:55
50	米倉史博	東京工業大学 1	0:14:57
51	中野航友	千葉大学 2	0:14:58
52	小泉淳平	東北大学 1	0:15:01
53	深野広大	慶應義塾大学 1	0:15:02
54	宇都宮淳志	東北大学 2	0:15:04
55	伴広輝	京都大学 1	0:15:06
56	吉川輝	東京工業大学 4	0:15:07
57	久保田皓貴	慶應義塾大学 2	0:15:08
58	藤生考志	東京 OL クラブ	0:15:13
59	瀧澤修人	一橋大学 2	0:15:21
60	齋藤雅紀	東北大学 2	0:15:23

MEC 続き			
61	高本育弥	東北大学 1	0:15:26
62	稲田優幸	茨城大学 3	0:15:27
62	柴山享佑	東北大学 2	0:15:27
64	井上雄斗	東北大学 1	0:15:31
64	瀬川桃加	東京工業大学 1	0:15:31
66	太田裕士	京都大学 4	0:15:32
66	市川渉	東京工業大学 1	0:15:32
68	佐藤遼平	東京大学 1	0:15:35
69	石田洋	大阪大学 4	0:15:36
69	三村公人	神戸大学 2	0:15:36
71	新山雅人	東京大学 1	0:15:37
72	國方敬史	千葉大学 2	0:15:42
73	新田見優輝	東京大学 1	0:15:45
74	三浦大輝	福島大学 1	0:15:46
75	椎名渉	東京工業大学 1	0:15:48
76	大場紫音	東北大学 2	0:15:49
77	横堀聖人	東京大学 1	0:15:53
77	本村汰一郎	金沢大学 1	0:15:53
79	橋本航汰	東北大学 3	0:15:55
79	君成田智裕	岩手大学 3	0:15:55
79	浜野奎	慶應義塾大学 1	0:15:55
82	明石孝平	千葉大学 3	0:15:56
83	甘粕裕明	東北大学 2	0:15:57
83	木村優治	新潟大学 4	0:15:57
85	桑原恒平	東京工業大学 2	0:16:00
85	伊藤雅哉	東北大学 3	0:16:00
87	田代雅之	静岡 OLC	0:16:02
87	藤原秀人	大阪大学 2	0:16:02
89	金野隼希	岩手大学 4	0:16:03
90	砂原和允	東京工業大学 3	0:16:07
91	水尾泰仁	岩手県立大学 4	0:16:08
91	中谷広樹	千葉大学 3	0:16:08
93	上野渉	東北大学 1	0:16:11
94	稲岡雄介	大阪大学 1	0:16:13
94	祐谷大輝	東京大学 4	0:16:13
94	富山稜真	千葉大学 2	0:16:13
97	増田健也	東京大学 2	0:16:15
98	衣川浩輔	一橋大学 4	0:16:17
99	瀬川出	東京大学 2	0:16:18
100	田中創	大阪大学 1	0:16:19
100	村上遼太	東京工業大学 2	0:16:19
102	長江源輝	名古屋大学 2	0:16:23
103	村杉英昭	東北大学 3	0:16:24
104	木島佑輔	東京大学 3	0:16:27
105	菊池理	新潟大学 1	0:16:29
106	瀧本優貴	福島大学 2	0:16:30
107	小原和彦	東京工業大学 1	0:16:31
108	榎智弘	一橋大学 3	0:16:33
109	出原優一	東京大学 1	0:16:38
110	福岡憲彦	京都大学 1	0:16:39
110	高田和樹	新潟大学 2	0:16:39
112	坂井浩紀	北海道大学 3	0:16:41
113	南部達也	慶應義塾大学 1	0:16:44
114	日隈友也	東北大学 3	0:16:45
115	中谷鴻太	東京工業大学 2	0:16:46
115	近藤恭一郎	京都大学 2	0:16:46
115	清水直	東京大学 1	0:16:46
118	平井伸治	東北大学 4	0:16:49
119	上野康平	東京工業大学 1	0:16:50
119	赤坂太郎		0:16:50
119	関根直紀	東北大学 2	0:16:50
122	金子真悟	金沢大学 2	0:16:51

MEC 続き			
122	小栗淳之介	静岡大学 3	0:16:51
124	伊藤健太	岩手大学 3	0:16:52
125	谷口文弥	東京大学 1	0:16:56
126	三本杉武大	福島大学 3	0:17:02
127	大田拓穂	東京工業大学 3	0:17:03
127	山下部諒	東京工業大学 3	0:17:03
129	藤田宇	岩手大学 4	0:17:04
129	殿垣佳治	東京大学 1	0:17:04
131	松永佳大	京都大学 1	0:17:06
132	昆野郁		0:17:11
133	小林日向	東京大学 1	0:17:12
134	村井智也	東京大学 1	0:17:13
135	清川裕樹	大阪大学 2	0:17:14
136	土田聡史	新潟大学 2	0:17:21
137	犬嶋一貴	東北大学 2	0:17:22
138	伊藤夏生	ES 関東	0:17:25
139	島名亮太	大阪大学 1	0:17:37
139	佐々木克海	岩手大学 4	0:17:37
141	帷子大貴	岩手大学 2	0:17:38
142	武田悠作	東京工業大学 2	0:17:40
143	長谷部達也	京大 OB	0:17:54
144	吉川拓寿	東北大学 3	0:17:55
145	千葉悠斗	横浜市立大学 2	0:18:03
146	深田耕司	大阪大学 1	0:18:07
147	濱本徹	東京工業大学 2	0:18:14
148	渡邊壮	金沢大学 2	0:18:15
149	石上朗	東北大学 2	0:18:25
150	菅原涼太	岩手大学 3	0:18:31
150	毛利廣元	東京工業大学 1	0:18:31
152	大林俊彦	大阪 O L C	0:18:36
153	大川貴聖	東北大学 4	0:18:37
154	吉田真悟	つばめ会	0:18:38
155	須田真人	福島大学 1	0:18:41
156	杉田慎之助	大阪大学 4	0:18:42
157	藤本翔太	東京工業大学 1	0:18:45
158	石澤衛	岩手大学 4	0:18:46
159	塚澤謙士郎	岩手県立大学 3	0:18:52
159	細正隆	東北大学 3	0:18:52
161	谷垣宣孝	OLP 兵庫	0:18:54
162	唐崎準也	京都大学 2	0:19:01
163	齋藤新平	東北大学 2	0:19:05
164	金田隆聖	静岡大学 4	0:19:09
165	鈴木拳直	京葉 OL クラブ	0:19:10
166	朝野棕太	京都大学 4	0:19:19
167	大原和己	京都大学 2	0:19:20
168	竹内元哉	東京大学 2	0:19:30
169	庄司大輔	福島大学 3	0:19:32
170	岩城大行	大阪大学 2	0:19:40
171	石川仁弥	名古屋大学 3	0:19:42
172	平野光	東京大学 2	0:19:46
173	後藤陵紀	福島大学 2	0:19:50
174	細川公平	東京工業大学 3	0:19:51
175	青田正樹	新潟大学 1	0:19:56
176	太田明光	東北大学 4	0:20:01
177	青木飛翔	東北大学 4	0:20:12
178	川島哲士	京都大学 1	0:20:19
179	福島太陽	京都大学 2	0:20:22
180	周藤裕	岩手大学 1	0:20:29
181	斉藤凌	東京工業大学 2	0:20:31
182	井上悟史	東京工業大学 3	0:20:36
183	田中翔大	東京大学 2	0:20:37
184	石田悠人	大阪大学 1	0:20:42

MEC 続き			
185	小田切勝也	東京工業大学 3	0:20:51
186	鹿野勘次	岐阜 O L C	0:21:05
187	高橋秀明	金沢大学 4	0:21:17
188	鶴沼廉	千葉大学 1	0:21:20
189	斎藤真矢	新潟大学 2	0:21:30
190	島田雄史	東京工業大学 1	0:21:37
191	片田裕太	新潟大学 4	0:21:47
192	木下涼雅	金沢工業大学 2	0:22:06
193	鈴木裕登	福島大学 1	0:22:39
194	野頭賢太	横浜市立大学 1	0:23:08
195	西沢敦	東京 OL クラブ	0:23:25
196	西村肇倫	東北大学 1	0:23:29
197	佐藤建志	東北大学 3	0:23:41
198	谷田幸隆	筑波大学 3	0:23:42
199	神野直紀	東京工業大学 1	0:24:26
200	馬場雄大	福島大学 1	0:24:50
201	山田将輝	京都大学 1	0:24:51
202	山本明史	京都大学 1	0:25:22
203	番場葵	東北大学 4	0:26:40
204	西田成佑	東京大学 1	0:27:09
205	矢野峻平	大阪大学 2	0:27:39
206	加藤悠太	東北大学 1	0:28:38
207	檜脇悠輔	東京工業大学 2	0:29:48
208	平山洋輝	岩手大学 3	0:30:54
209	皆川竣祐	京都大学 1	0:31:20
210	武藤祐輝	福島大学 2	0:32:25
	大箭歩	金沢大学 2	DISQ
	鳥越祥吾	京都大学 2	DISQ
	斉田圭吾	東京大学 2	DISQ
	清水健司	新潟大学 4	DISQ
	二村真司	京都大学 1	DISQ
	糸間哉	東京大学 2	DISQ
	五十嵐則仁	横浜 OL クラブ	DISQ
	源後知行	みちの会	DISQ
	木村佳司	長野県協会	DISQ
	井上仁	O L C レオ	DISQ
	天明英之	東京 OL クラブ	DISQ
	井口良範	高崎 OLC	DISQ
	弓削田模一	入間市 OLC	DISQ
	山本博司	ES 関東 C	DISQ
	皆川美紀子	みちの会	DISQ
	谷川友太	OLC ルーパー	DISQ
	石坂翼樹	チーム R	DISQ
	真保陽一	東京大学オフィシャル	DISQ
	松井健哉	OLC ルーパー	DISQ
	黒澤祐貴	東北大学 1	DISQ
	齋藤真	東北大学 4	DISQ
	尾形季彦	岩手大学 3	DISQ
	佐藤陽太	横浜市立大学 2	DISQ
	小室慎也	東北大学 3	DISQ
	目黒楓也	福島大学 1	DISQ
	三上拓真	東京大学 1	DISQ
	伊藤樹	横浜国立大学 1	DISQ
	芳賀太史	東京工業大学 3	DISQ
	井島知哉	東京大学 1	DISQ
	今村洸輔	京都大学 1	DISQ
	小野駿介	東京工業大学 2	DISQ
	久野元嗣	千葉大学 2	DISQ
	小池一輝	一橋大学 1	DISQ
	実藤俊太	京都大学 3	DISQ
	山森聡	京都大学 2	DISQ
	富田涼介	東北大学 2	DISQ

MEC 続き		
小平修	東北大学 1	DISQ
山下部慧	新潟大学 1	DISQ
中村栄将	金沢工業大学 2	DISQ
松田伸拓	大阪大学 2	DISQ
北川賢也	横浜市立大学 1	DISQ
岩崎正嗣	東北大学 1	DISQ
新粥文哉	千葉大学 4	DISQ

WEC 2.0 km ↑65 m			
順位	氏名	学校・学年	タイム
1	宮川早穂	立教大学 4	0:12:55
2	松島彩夏	立教大学 3	0:13:48
3	伊佐野はる香	東北大学 1	0:14:34
4	渡辺円香	ES 関東 C	0:14:49
5	藤田麻矢	岩手大学 3	0:14:56
6	荒井清美	金沢大学 4	0:15:11
7	木戸口桃子	岩手県立大学 2	0:15:23
8	一宮菜津美	宮城学院女子大学 1	0:15:53
9	鈴木友紀乃	新潟大学 2	0:16:04
10	渡邊志保	静岡大学 3	0:16:10
11	森谷風香	千葉大学 1	0:16:55
12	佐藤あかり	岩手県立大学 2	0:18:02
13	土屋武	愛知 OLC	0:18:23
14	千葉香里	宮城学院女子大学 1	0:18:33
15	保坂拓香	宮城学院女子大学 3	0:18:49
15	三浦やよい	相模女子大学 2	0:18:49
17	坂田真帆	京都女子大学 2	0:18:51
18	尾形奈津季	宮城学院女子大学 3	0:19:12
19	畑中志乃	岩手大学 1	0:19:22
20	高橋友理奈	東北大学 1	0:19:34
21	松永莉弥	宮城学院女子大学 1	0:20:19
22	有尾実紗	相模女子大学 3	0:20:20
23	村越久子	静岡 O L C	0:20:25
24	若山映令彩	岩手大学 2	0:20:26
25	林奈々	相模女子大学 3	0:20:36
26	針生佳奈	宮城学院女子大学 3	0:20:53
27	櫻井彩菜	相模女子大学 2	0:20:54
28	金山柚佳	京都女子大学 2	0:20:58
29	三橋寛子	静岡大学 2	0:21:04
30	山田千真	宮城学院女子大学 1	0:21:15
31	稲葉宏子		0:21:18
32	藤原麻結	岩手県立大学 1	0:21:26
33	稲垣秀奈美	千葉大学 1	0:21:32
34	藤本朱子	宮城学院女子大学 1	0:21:40
35	葉家慧	新潟大学	0:21:47
36	ノーディング 怜奈	相模女子大学 1	0:22:14
37	佐久間文香	新潟大学 1	0:22:48
38	不破美沙	新潟大学 4	0:22:56
39	山本陽子	ES 関東 C	0:22:59
40	小林美早紀	岩手大学 1	0:23:13
41	澤口未来	岩手県立大学 1	0:23:17
42	津田春菜	京葉 OL クラブ	0:24:13
43	高橋厚	多摩 O L	0:24:38
44	中原信一	大阪 O L C	0:24:47
45	高橋ひなの	東北大学 1	0:26:13
46	松尾若奈	岩手県立大学 1	0:27:03
47	臼井沙耶香	東北大学 1	0:27:39
48	門倉美咲	千葉大学 1	0:27:45
49	村田茉奈美	フェリス女学院大学 1	0:29:43
50	吉澤佳帆	相模女子大学 1	0:30:10
51	亀山美沙紀	岩手大学 2	0:31:13
52	上妻紅音	慶應義塾大学 2	0:34:45
	小泉辰喜	東京 OL クラブ	DISQ
	福田雅秀	川越 OLC	DISQ
	和田あゆみ	慶應義塾大学 1	DISQ

2

ロング・ディスタンス競技部門

ME 9.6 km ↑310 m

順位	氏名	学校・学年	タイム
1	稲森剛	横浜国立大学 1	1:11:48
2	宮西優太郎	東北大学 4	1:12:04
3	久保田皓貴	慶應義塾大学 2	1:12:33
4	田中基士	横浜市立大学 4	1:12:35
5	五百倉大輔	京都大学 4	1:13:11
6	滝川真弘	東北大学 3	1:13:26
7	石山良太	名古屋大学 3	1:15:14
8	福井悠太	東京大学 4	1:15:15
9	立川大輝	関東学院大学 3	1:15:57
10	糸井川壮太	京都大学 4	1:16:19
11	猪俣祐貴	東京大学 3	1:16:47
12	平原蒼士	京都大学 2	1:17:07
13	小林隆嗣	東北大学 2	1:17:24
14	祐谷大輝	東京大学 4	1:17:31
15	木島佑輔	東京大学 3	1:17:40
16	菅野柊斗	新潟大学 3	1:18:20
17	深田恒	東京大学 4	1:19:18
18	戸上直哉	東京工業大学 4	1:19:23
19	小泉知貴	慶應義塾大学 3	1:19:25
20	大箭歩	金沢大学 2	1:19:39
21	稲葉翔也	名古屋大学 4	1:21:11
22	原田龍馬	東北大学 4	1:21:41
23	栗本開	東京大学 3	1:21:57
24	田中大貴	一橋大学 3	1:23:08
25	築地孝和	神戸大学 3	1:23:15
26	東将央	横浜国立大学 4	1:24:36
27	藤原大樹	岩手大学 4	1:24:50
28	角田貴大	横浜市立大学 2	1:25:15
29	橋本正毅	東北大学 3	1:25:21
30	橋孝祐	横浜国立大学 3	1:25:25
31	島倉侑志	金沢大学 4	1:26:02
32	田中基成	筑波大学 3	1:26:31
33	大竹達也	金沢大学 3	1:26:59
34	小野真嗣	京都大学 4	1:27:02
35	宮本樹	東京大学 1	1:27:30
36	橋本知明	東京大学 3	1:27:46
37	佐藤俊太郎	東北大学 2	1:28:29
38	井倉幹大	東京大学 3	1:30:02
39	西村駿	東京工業大学 3	1:30:53
40	樋口佳祐	名古屋大学 3	1:30:54
41	秋山周平	大阪大学 3	1:31:35
42	松尾怜治	東京大学 2	1:32:49
43	伊藤悠葵	大阪大学 4	1:33:08
44	葛野力	京都大学 3	1:33:41
45	新粥文哉	千葉大学 4	1:34:28
46	森泰二郎	東京大学 4	1:35:06
47	竹内孝	京都大学 3	1:37:18
48	松浦知佑	大阪大学 3	1:38:08
49	下江裕貴	広島大学 2	1:38:28
50	伊藤陵	京都大学 4	1:39:16
51	小林大悟	筑波大学 2	1:40:31
52	小川丈彰	大阪大学 4	1:42:14
53	富田涼介	東北大学 2	1:43:42
54	高水陽介	名古屋大学 4	1:49:38
	清水敬太	東北大学 3	DISQ
	小松栄輝	東北大学 3	DISQ
	尾形季彦	岩手大学 3	DISQ
	照井雄大	東北大学 3	DISQ

ME 続き

大村幸一郎	名古屋大学 4	DISQ
桜井創	大阪大学 4	DISQ

WE 6.2 km ↑190 m

順位	氏名	学校・学年	タイム
1	五味あずさ	金沢大学 4	0:55:57
2	守屋舞香	椋山女学園大学 4	0:57:17
3	伊東瑠実子	東京大学 4	1:00:06
4	宮川早穂	立教大学 4	1:00:11
5	松田沙也加	岩手大学 4	1:00:18
6	山岸夏希	筑波大学 1	1:02:21
7	小野澤清楓	群馬大学 3	1:08:22
8	荒井清美	金沢大学 4	1:10:44
9	増田七彩	東京大学 3	1:10:50
10	川島実紗	名古屋大学 3	1:11:00
11	松島彩夏	立教大学 3	1:11:58
12	大類茉美	フェリス学院大学 2	1:14:04
13	伊東佑子	椋山女学園大学 4	1:16:37
14	木村史依	金沢大学 3	1:16:40
15	田中圭	武蔵野大学 3	1:17:19
16	森田桜織	横浜市立大学 3	1:17:22
17	帯金未歩	大阪大学 3	1:19:05
18	郷田侑希	奈良女子大学 4	1:19:39
19	成澤春菜	フェリス学院大学 2	1:19:42
20	土田美和	横浜市立大学 3	1:19:45
21	燈田真佑子	奈良女子大学 2	1:20:45
22	齋藤里紗	岩手大学 3	1:21:23
23	吉岡梨花子	北海道大学 3	1:22:12
24	中村茉菜	早稲田大学 3	1:24:47
25	増山春菜	筑波大学 2	1:26:48
26	宮田優花	筑波大学 4	1:27:00
27	上妻紅音	慶應義塾大学 2	1:27:17
28	豊澤香澄	相模女子大学 4	1:28:36
29	藤井菜実	椋山女学園大学 2	1:28:41
30	神谷玲花	椋山女学園大学 4	1:29:29
31	藤田麻矢	岩手大学 3	1:30:31
32	渡辺菜央美	名古屋大学 4	1:31:38
33	石神愛海	実践女子大学 3	1:32:18
34	三好花奈	宮城学院女子大学 2	1:33:04
35	小川茉乃	茨城大学 3	1:33:35
36	中村友香	名古屋大学 3	1:36:03
37	鈴木友紀乃	新潟大学 2	1:38:24
38	新屋鈴	金沢大学 2	1:49:46
39	不破美沙	新潟大学 4	1:50:12
40	新井梨子	東北大学 3	1:58:03
41	直井萌香	筑波大学 3	2:00:01
42	武田紗知	東京農工大学 3	2:17:10
43	熊野谿真帆	金沢大学 3	2:23:20
	高田奈緒	東京医科歯科大学 4	DISQ
	針生佳奈	宮城学院女子大学 3	DISQ
	鈴木彩可	金沢大学 2	DISQ

MUL1 5.8 km ↑170 m			
順位	氏名	学校・学年	タイム
1	平山遼太	東京大学 2	0:44:40
2	松島真之	京都大学 4	0:49:05
3	林千尋	名古屋大学 4	0:49:54
4	堀尾健太郎	名古屋大学 2	0:50:30
5	春日直也	金沢大学 4	0:57:03
6	山森聡	京都大学 2	0:57:23
7	桑原大樹	東京大学 3	0:57:31
8	砂原和允	東京工業大学 3	0:57:58
9	堀江優貴	東北大学 2	0:59:10
10	大塩耕平	筑波大学 2	0:59:57
11	稻吉勇人	名古屋大学 3	1:00:11
12	富山稜真	千葉大学 2	1:00:45
13	大井真	東京大学 4	1:01:17
14	関根桂介	一橋大学 4	1:01:42
15	水尾泰仁	岩手県立大学 4	1:01:45
16	清水浩太	新潟大学 3	1:01:50
17	佐々木克海	岩手大学 4	1:02:03
18	神谷周作	名古屋大学 3	1:02:08
19	赤井章吾	東北大学 2	1:02:32
20	清水龍太	金沢大学 2	1:02:50
21	中西祐樹	京都大学 2	1:03:03
22	伊藤拓己	千葉大学 3	1:04:40
23	杉田慎之助	大阪大学 4	1:05:59
24	岩城大行	大阪大学 2	1:06:44
25	植田翔大	東京大学 2	1:07:24
26	田中翔大	東京大学 2	1:08:10
27	天野良樹	京都大学 3	1:08:29
28	石田祐介	金沢大学 2	1:10:30
29	河野大和	東京大学 2	1:11:11
30	斎藤健大朗	東北大学 4	1:11:28
31	長谷悠陽	金沢大学 2	1:11:30
32	土川翔伍	京都大学 3	1:11:39
33	島根崇志	筑波大学 2	1:13:19
34	吉崎薫登	静岡大学 3	1:13:26
35	前田悠佑	名古屋大学 3	1:13:31
36	乙部博章	東北大学 3	1:14:38
37	藤田宇	岩手大学 4	1:16:45
38	天野靖大	名古屋大学 2	1:18:18
39	加茂暢也	京都大学 2	1:18:28
40	水本駿介	横浜国立大学 4	1:20:53
41	谷田幸隆	筑波大学 3	1:21:24
42	山下大樹	早稲田大学 2	1:23:48
43	村山恒介	名古屋大学 2	1:24:12
44	矢野峻平	大阪大学 2	1:25:00
45	芦原和樹	大阪大学 2	1:26:01
46	清川裕樹	大阪大学 2	1:26:36
46	松本崇志	東京農工大学 3	1:26:36
48	草刈貴浩	千葉大学 2	1:27:58
49	杉山泰斗	名古屋大学 4	1:28:19
50	執行雄樹	大阪大学 2	1:29:42
51	寺本裕哉	千葉大学 3	1:32:32
52	吉竹洵人	静岡大学 4	1:32:52
53	濱本徹	東京工業大学 2	1:33:16
54	木村優治	新潟大学 4	1:33:27
55	吉澤雄大	慶應義塾大学 2	1:34:01
56	富田航	東北大学 4	1:34:42
57	町田直樹	東北大学 4	1:35:46
58	齋藤拓也	名古屋大学 4	1:35:52
59	犬塚真太郎	早稲田大学 3	1:37:25
60	山下部諒	東京工業大学 3	1:42:43

MUL1 続き			
61	岡田悠馬	茨城大学 3	1:43:45
62	北川太一	神戸市外国語大学 4	1:44:46
63	永田裕宣	名古屋大学 2	1:47:51
64	小野駿介	東京工業大学 2	1:48:35
65	吉井謙太	静岡大学 2	1:53:12
	三本杉武大	福島大学 3	2:06:10
	高田和樹	新潟大学 2	DISQ
	瀬尾峻汰	京都大学 3	DISQ
	杉原輝俊	茨城大学 2	DISQ
	小柴滉平	筑波大学 4	DISQ
	長柄啓悟	名古屋大学 3	DISQ
	今井健人	名古屋大学 4	DISQ
	戸田篤希	静岡大学 4	DISQ
	大宮雅智	横浜市立大学 3	DISQ
	天羽光介	千葉大学 4	DISQ
	岡本晟太郎	名古屋大学 2	DISQ
	齋藤雅紀	東北大学 2	DISQ
	山田康太	東北大学 4	DISQ
	甘粕裕明	東北大学 2	DISQ
	高野兼也	新潟大学 2	DISQ

MUL2 5.9 km ↑170 m			
順位	氏名	学校・学年	タイム
1	渡邊壮	金沢大学 2	0:47:53
2	前中脩人	東京大学 3	0:48:52
3	石田洋	大阪大学 4	0:53:02
4	吉川輝	東京工業大学 4	0:55:05
5	中港信之介	千葉大学 4	0:57:15
6	是永大地	名古屋大学 2	0:57:16
7	大久保宗典	東京大学 4	0:57:27
8	八木颯	東北大学 2	0:59:02
9	森一樹	金沢大学 4	0:59:12
10	大東祐汰	東京大学 2	0:59:14
11	南河駿	名古屋大学 2	0:59:15
12	近藤恭一郎	京都大学 2	0:59:49
13	大川拓哉	東北大学 3	1:00:23
14	和田康次郎	慶應義塾大学 2	1:00:38
15	中村栄将	金沢工業大学 2	1:03:11
16	橋本修志	京都大学 3	1:03:28
17	齋藤真	東北大学 4	1:04:02
18	池田雄矢	千葉大学 2	1:04:31
19	中浴広樹	千葉大学 3	1:04:58
20	上田聖也	筑波大学 3	1:05:42
21	藤原秀人	大阪大学 2	1:06:24
22	中野航友	千葉大学 2	1:06:28
23	熊見弘一	早稲田大学 4	1:06:33
24	小森太郎	筑波大学 2	1:07:33
25	鹿島健人	新潟大学 2	1:08:19
26	刀根大輔	東京大学 2	1:08:23
27	石井達也	名古屋大学 2	1:09:24
28	小栗淳之介	静岡大学 3	1:10:23
29	増田健也	東京大学 2	1:12:54
30	小澤翔	慶應義塾大学 2	1:13:08
31	長良颯太	名古屋大学 2	1:13:11
32	山口雅弘	名古屋大学 4	1:13:37
33	佐藤陽太	横浜市立大学 2	1:14:23
34	那須佳祐	筑波大学 4	1:14:25
35	高久匠	岩手大学 3	1:14:54
36	藤倉真太郎	筑波大学 2	1:16:01
37	朝野椋太	京都大学 4	1:16:31
38	榊原健太	名古屋大学 4	1:17:08

MUL2 続き			
39	大場紫音	東北大学 2	1:17:30
40	坂井浩紀	北海道大学 3	1:21:19
41	井口悠志	金沢大学 2	1:22:03
42	依田舜	東京農工大学 3	1:22:31
43	遠藤駿典	名古屋大学 3	1:23:05
44	木村晃世	名古屋大学 3	1:23:18
45	彦坂諭志	名古屋大学 3	1:23:23
46	石澤衛	岩手大学 4	1:23:52
47	榎本有作	千葉大学 3	1:24:32
48	塚澤謙士郎	岩手県立大学 3	1:29:25
49	柴山享佑	東北大学 2	1:30:03
50	森下浩行	大阪大学 3	1:31:07
51	土田聡史	新潟大学 2	1:31:15
52	大川貴聖	東北大学 4	1:31:36
53	唐崎準也	京都大学 2	1:33:10
54	馬場泰光	静岡大学 4	1:34:01
55	太田明光	東北大学 4	1:34:55
56	圓山大貴	茨城大学 2	1:35:04
57	瀧澤修人	一橋大学 2	1:36:18
58	今井祐太	名古屋大学 4	1:36:42
59	國方敬史	千葉大学 2	1:38:00
60	庄司大輔	福島大学 3	1:38:10
61	羽山恭平	京都大学 3	1:38:34
62	武田悠作	東京工業大学 2	1:39:31
63	田村朋宏	早稲田大学 3	1:51:19
64	斉田圭吾	東京大学 2	1:55:58
	小林功直	筑波大学 4	2:18:25
	小田切勝也	東京工業大学 3	DISQ
	久須美裕	新潟大学 4	DISQ
	中村哲	京都大学 2	DISQ
	有賀裕亮	早稲田大学 2	DISQ
	芳賀太史	東京工業大学 3	DISQ
	中谷鴻太	東京工業大学 2	DISQ
	橋場良太	東北大学 4	DISQ
	増田翔太	名古屋大学 4	DISQ
	松岡慧	名古屋大学 3	DISQ
	岩本凉介	静岡大学 2	DISQ
	今井洋輔	大阪大学 2	DISQ
	日隈友也	東北大学 3	DISQ
	足立将城	名古屋大学 3	DISQ
	松田伸拓	大阪大学 2	DISQ
	荒井直幸	大阪大学 3	DISQ
	高瀬弘貴	静岡大学 2	DISQ
	牧内佑介	京都大学 3	DISQ

MUL3 5.9 km ↑ 200 m			
順位	氏名	学校・学年	タイム
1	杉浦弘太郎	名古屋大学 2	0:54:43
2	山口雅裕	東京大学 3	0:55:24
3	岡部晋佑	大阪大学 4	0:56:23
4	太田裕士	京都大学 4	0:57:39
5	瀬川出	東京大学 2	0:58:09
6	村瀬貴紀	筑波大学 4	0:58:25
7	吉野拓海	新潟大学 3	0:58:52
8	上松遼	一橋大学 4	0:59:11
9	中野喬博	東京大学 2	0:59:28
10	本山翔太	横浜市立大学 4	1:00:22
11	土田稔泰	岩手県立大学 3	1:00:25
12	山本大輝	金沢大学 3	1:00:41
13	実藤俊太	京都大学 3	1:00:42
14	清水健司	新潟大学 4	1:01:04

MUL3 続き		
15	坂梨敬哉	慶應義塾大学 2 1:02:01
16	小柏景司	新潟大学 2 1:02:37
17	田口茂樹	岩手大学 3 1:03:40
18	熊谷光起	名古屋大学 3 1:05:13
19	木下涼雅	金沢工業大学 2 1:05:40
20	永山貴之	京都大学 2 1:06:11
21	三浦孝之	福島大学 4 1:06:26
22	千葉悠斗	横浜市立大学 2 1:08:11
23	斉藤凌	東京工業大学 2 1:09:55
24	橋本航汰	東北大学 3 1:10:15
25	柳沢稜	早稲田大学 4 1:11:15
26	三橋武史	筑波大学 2 1:11:48
27	伊藤雅哉	東北大学 3 1:12:33
28	林浩平	筑波大学 3 1:12:46
29	稲垣善太	早稲田大学 2 1:12:51
30	高橋秀明	金沢大学 4 1:12:55
31	武田惇	名古屋大学 4 1:13:18
32	木村雄大	大阪大学 4 1:15:04
33	石川智之	大阪大学 4 1:16:27
34	齋藤新平	東北大学 2 1:16:54
35	野田昌太郎	名古屋大学 2 1:17:10
36	小池裕介	大阪大学 2 1:18:58
37	横田智也	名古屋大学 2 1:19:01
38	水間隼人	東京工業大学 2 1:19:49
39	吉沼勇志	千葉大学 2 1:20:13
40	村吉諄之	東京大学 4 1:20:32
41	君成田智裕	岩手大学 3 1:21:57
42	福井智也	大阪大学 2 1:22:51
43	祖父江佑斗	京都大学 4 1:23:48
44	井上悟史	東京工業大学 3 1:24:30
45	高橋一平	静岡大学 2 1:25:44
46	石谷貴英	金沢大学 2 1:26:38
47	越智純毅	京都大学 2 1:27:35
48	久野元嗣	千葉大学 2 1:28:52
49	細川公平	東京工業大学 3 1:29:16
50	小室慎也	東北大学 3 1:30:48
51	福島太陽	京都大学 2 1:31:23
52	松本拓也	名古屋大学 3 1:31:43
53	村上遼太	東京工業大学 2 1:31:57
54	柏本雄士朗	大阪大学 3 1:33:16
55	福澤佑哉	名古屋大学 3 1:33:32
56	池田慧	名古屋大学 3 1:34:09
57	原田崇史	静岡大学 4 1:35:58
58	中原惇太	東京農工大学 2 1:40:19
59	加藤岬	東京大学 2 1:41:44
60	吉川拓寿	東北大学 3 1:41:59
61	藤富森	金沢大学 2 1:42:24
62	三科圭史	東京大学 2 1:45:23
63	宇都宮淳志	東北大学 2 1:46:59
64	寺田侑司	静岡大学 3 1:47:14
65	今泉将	名古屋大学 2 1:47:30
66	平井伸治	東北大学 4 1:48:20
67	畑佐豪記	名古屋大学 4 1:49:32
68	石坂勇人	静岡大学 4 1:55:29
69	岡山将也	名古屋大学 4 1:56:39
70	笠間悠輔	京都大学 4 1:56:45
71	犬嶋一貴	東北大学 2 1:59:27
72	南勇太	東京農工大学 4 1:59:34
	河井悠佑	名古屋大学 3 2:02:34
	大橋諭	静岡大学 2 2:14:38
	野口宇宙	筑波大学 4 DISQ
	細正隆	東北大学 3 DISQ

MUL3 続き			
	掛巢能仁	千葉大学 2	DISQ
	井坂太一	茨城大学 3	DISQ
	佐東一輝	千葉大学 3	DISQ
	渡邊健太郎	筑波大学 2	DISQ

MUL4 5.8 km ↑ 200 m			
順位	氏名	学校・学年	タイム
1	岩瀬史明	名古屋大学 2	0:46:40
2	半沢守	東北大学 3	0:49:18
3	桑潤哉	東京大学 2	0:50:03
4	竹内元哉	東京大学 2	0:50:30
5	坂野翔哉	東京理科大学 2	0:51:26
6	浅井迅馬	京都大学 3	0:52:02
7	山内崇弘	名古屋大学 3	0:52:53
8	三上剛弘	東京工業大学 3	0:53:39
9	金野隼希	岩手大学 4	0:54:24
10	森田棕也	京都大学 2	0:54:31
11	衣川浩輔	一橋大学 4	0:55:09
12	大西正倫	東京大学 3	0:56:37
13	石川仁弥	名古屋大学 3	0:56:52
14	緒方空人	大阪大学 2	0:56:57
15	近藤吉史	大阪大学 2	0:58:48
16	明石孝平	千葉大学 3	0:58:50
17	高野征人	東北大学 3	0:59:25
18	友田雅大	早稲田大学 2	0:59:51
19	濱田佑	京都大学 4	1:01:03
20	田島和明	筑波大学 3	1:01:28
21	中野優亮	名古屋大学 2	1:01:38
22	桑原恒平	東京工業大学 2	1:03:11
23	増田暁	金沢大学 4	1:04:15
24	郷尚之	新潟大学 2	1:04:21
25	佐藤真悟	大阪大学 3	1:05:15
26	佐藤弘基	福島大学 3	1:05:49
27	藤橋涼	東北大学 4	1:06:46
28	関根直紀	東北大学 2	1:07:40
29	澤田潤	名古屋大学 2	1:07:44
30	村杉英昭	東北大学 3	1:08:10
31	大田拓穂	東京工業大学 3	1:08:32
32	土屋和輝	慶應義塾大学 2	1:08:55
33	廣田幸起	大阪大学 2	1:10:57
34	今正寛	金沢工業大学 3	1:12:12
35	松井俊樹	京都大学 4	1:12:29
36	帷子大貴	岩手大学 2	1:12:38
37	磯山高志	東京農工大学 3	1:13:04
38	大隅翔吾	茨城大学 2	1:13:56
39	三村公人	神戸大学 2	1:14:03
40	山口雄太	東京大学 3	1:14:26
41	川岸敬生	名古屋大学 4	1:15:19
42	佐藤充晃	名古屋大学 3	1:16:03
43	長江源輝	名古屋大学 2	1:16:21
44	鳥越祥吾	京都大学 2	1:16:40
45	柴田龍一	大阪大学 2	1:17:39
46	金田隆聖	静岡大学 4	1:18:48
47	稲田優幸	茨城大学 3	1:19:08
48	見目晝明	早稲田大学 3	1:22:06
49	佐藤建志	東北大学 3	1:22:10
50	本多貴裕	名古屋大学 3	1:22:54
51	藤田眞汐	静岡大学 3	1:23:00
52	野崎信介	金沢大学 3	1:23:59
53	藤浦圭一	横浜国立大学 4	1:24:44
54	斎藤真矢	新潟大学 2	1:24:50

MUL4 続き			
55	青木飛翔	東北大学 4	1:26:09
56	村上拓哉	千葉大学 3	1:26:26
57	杉山涼	千葉大学 2	1:26:48
58	望月優希	静岡大学 4	1:31:15
59	小野寺航	東京農工大学 2	1:31:27
60	遠藤彰	名古屋大学 4	1:36:59
61	平野光	東京大学 2	1:37:36
62	長谷部量紀	名古屋大学 4	1:41:51
63	魚里文彦	京都大学 2	1:48:28
64	金子真悟	金沢大学 2	1:54:20
65	今堀仁誠	筑波大学 2	1:57:46
	坪田光平	静岡大学 2	2:10:33
	北村亮太	横浜国立大学 2	2:12:58
	宮川孝	筑波大学 4	DISQ
	廣嶋和貴	東北大学 2	DISQ
	近藤拓実	静岡大学 2	DISQ
	木村友紀	千葉大学 2	DISQ
	大原和己	京都大学 2	DISQ
	松下治正	岩手県立大学 2	DISQ
	松本直大	筑波大学 3	DISQ
	片田裕太	新潟大学 4	DISQ
	塩向雅斗	千葉大学 3	DISQ
	檜脇悠輔	東京工業大学 2	DISQ
	坂本讓	東北大学 2	DISQ
	馬場悠輔	名古屋大学 2	DISQ

MUS 3.7 km ↑ 130 m			
順位	氏名	学校・学年	タイム
1	伊藤健太	岩手大学 3	0:35:04
2	榎智弘	一橋大学 3	0:35:05
3	田中創士	横浜国立大学 2	0:35:27
4	前畑健人	筑波大学 2	0:36:41
5	座波朝輝	茨城大学 2	0:41:42
6	大野貴紀	横浜国立大学 3	0:44:08
7	重石尚樹	岩手大学 2	0:46:20
8	瀧本優貴	福島大学 2	0:46:36
9	菅原涼太	岩手大学 3	0:47:04
10	武藤祐輝	福島大学 2	0:48:44
11	山口叶	一橋大学 4	0:50:44
12	番場葵	東北大学 4	0:50:48
13	末統文正	横浜国立大学 4	0:52:21
14	村川拓也	東京大学 4	0:53:53
15	後藤陵紀	福島大学 2	0:58:53
16	小林雅史	茨城大学 2	1:00:37
17	平山洋輝	岩手大学 3	1:15:02
18	久保田詞也	新潟大学 3	1:25:56
19	白井和樹	横浜国立大学 2	1:28:20
20	石上朗	東北大学 2	1:44:18
	市川光明	関東学院大学 2	DISQ
	西山健登	金沢大学 4	DISQ

MUF1 3.3 km ↑ 90 m			
順位	氏名	学校・学年	タイム
1	濱宇津佑亮	東京大学 1	0:21:20
2	伊藤樹	横浜国立大学 1	0:24:55
3	大久保雄真	東京工業大学 1	0:26:19
4	長井健太	東京農工大学 1	0:26:27
5	上島浩平	慶應義塾大学 1	0:28:03
6	寺西翔	金沢大学 1	0:28:46
7	吉原幸輝	大阪大学 1	0:29:06

MUF1 続き			
8	田中創	大阪大学 1	0:29:25
9	岡遼汰郎	東京大学 1	0:29:26
10	森泉達貴	早稲田大学 1	0:29:39
11	加藤悠太	東北大学 1	0:29:48
12	三國稔男	東北大学 1	0:29:51
13	森元駿介	横浜国立大学 1	0:29:54
14	前野達也	名古屋大学 1	0:30:01
15	上野康平	東京工業大学 1	0:30:31
16	深田耕司	大阪大学 1	0:30:50
17	島田雄史	東京工業大学 1	0:30:57
18	竹内公一	名古屋大学 1	0:31:25
19	佐藤誠也	東北大学 1	0:32:18
20	瀬川桃加	東京工業大学 1	0:32:37
21	周藤裕	岩手大学 1	0:33:07
22	米倉史博	東京工業大学 1	0:33:27
23	山本達己	大阪大学 1	0:33:29
24	福永貴弘	東北大学 1	0:33:39
25	谷口文弥	東京大学 1	0:33:53
26	井島知哉	東京大学 1	0:34:09
27	徳谷祐輝	筑波大学 1	0:34:33
28	毛利廣元	東京工業大学 1	0:34:37
29	福岡憲彦	京都大学 1	0:34:42
30	齋藤駿	静岡大学 1	0:34:51
31	加藤宏明	名古屋大学 1	0:35:01
32	伊原智一	茨城大学 1	0:35:34
33	岩崎正嗣	東北大学 1	0:35:42
34	木村英嗣	千葉大学 1	0:35:52
35	青木健悟	名古屋大学 1	0:36:20
36	石田悠人	大阪大学 1	0:36:56
37	西嶋就平	名古屋大学 1	0:37:09
38	松永佳大	京都大学 1	0:37:34
39	村井智也	東京大学 1	0:37:42
40	鶴澤圭祐	千葉大学 1	0:38:09
41	青山知史	筑波大学 1	0:38:10
42	中島颯大	筑波大学 1	0:38:31
43	斉藤佑樹	早稲田大学 1	0:39:47
44	深野広大	慶應義塾大学 1	0:40:42
45	山浦大輝	名古屋大学 1	0:41:01
46	辻岡尚太郎	金沢大学 1	0:41:49
47	小山友綺	金沢大学 1	0:42:13
48	猪熊杜斗	名古屋大学 1	0:42:19
49	鈴木崇史	金沢大学 1	0:42:34
50	清水直	東京大学 1	0:42:57
51	神谷孫斗	金沢大学 1	0:43:31
52	目黒楓也	福島大学 1	0:43:57
53	北川賢也	横浜国立大学 1	0:43:58
54	小林雅季	東京大学 1	0:43:59
55	梶村由生	京都大学 1	0:45:01
56	須田真人	福島大学 1	0:45:20
57	堀越悠	金沢大学 1	0:45:54
58	伊藤理流	岩手県立大学 1	0:46:12
59	熊谷智洋	学習院大学 1	0:46:25
60	伊藤達瑠	金沢大学 1	0:46:54
61	大志万知己	筑波大学 1	0:48:22
62	張替昌吾	茨城大学 1	0:48:49
63	山田将輝	京都大学 1	0:49:12
64	野頭賢太	横浜国立大学 1	0:49:36
65	橋本翔太郎	名古屋大学 1	0:49:40
66	小池一輝	一橋大学 1	0:50:27
67	上野渉	東北大学 1	0:51:41
68	山下部慧	新潟大学 1	0:51:52
69	浜野奎	慶應義塾大学 1	0:52:50

MUF1 続き			
70	玉城寿希	静岡大学 1	0:54:18
71	谷洋志	横浜国立大学 1	0:58:30
72	西田成佑	東京大学 1	0:59:57
73	小谷淳史	名古屋大学 1	1:00:37
74	三宅皓一朗	京都大学 1	1:00:58
75	青木惇平	金沢工業大学 1	1:05:40
76	王丸仁志	東京理科大学 1	1:05:59
77	鈴木裕登	福島大学 1	1:06:12
78	山崎翔太	静岡大学 1	1:09:08
79	菊池理	新潟大学 1	1:16:09
80	桑原孝明	静岡大学 1	1:18:22
81	佐藤和真	神戸大学 1	1:18:29
82	今野駿作	金沢大学 1	1:34:06
	菱田大	早稲田大学 1	DISQ
	高本育弥	東北大学 1	DISQ

MUF2 3.1 km ↑80 m			
順位	氏名	学校・学年	タイム
1	大田将司	一橋大学 1	0:25:08
2	横堀聖人	東京大学 1	0:27:40
3	晝間悠生	慶應義塾大学 1	0:29:06
4	小泉惇平	東北大学 1	0:29:10
5	松本萌希	京都大学 1	0:29:14
6	柴沼健	早稲田大学 1	0:29:17
7	小原和彦	東京工業大学 1	0:29:21
8	本村汰一朗	金沢大学 1	0:30:03
9	安達郁哉	筑波大学 1	0:30:07
10	二村真司	京都大学 1	0:30:29
11	佐藤遼平	東京大学 1	0:30:52
12	稲岡雄介	大阪大学 1	0:31:04
13	小山信也	横浜国立大学 1	0:31:20
14	西澤興	名古屋大学 1	0:31:43
15	新山雅人	東京大学 1	0:31:48
16	丸山真輝	東北大学 1	0:32:12
17	井上雄斗	東北大学 1	0:32:23
18	殿垣佳治	東京大学 1	0:32:24
19	岡本洸彰	東京大学 1	0:32:27
20	青野綾介	筑波大学 1	0:32:43
21	出原優一	東京大学 1	0:33:46
22	新田見優輝	東京大学 1	0:33:53
23	遠藤匠真	大阪大学 1	0:33:55
24	横山裕晃	東北大学 1	0:35:25
25	高松涼	福島大学 1	0:35:26
26	今村洸輔	京都大学 1	0:36:15
27	市川渉	東京工業大学 1	0:36:28
28	小平修	東北大学 1	0:38:51
29	伊村公志	名古屋大学 1	0:39:15
30	渡辺慎平	横浜国立大学 1	0:39:29
31	古川智也	金沢大学 1	0:39:43
32	宮下旺	横浜国立大学 1	0:40:19
33	安達悠斗	金沢大学 1	0:41:09
34	山本明史	京都大学 1	0:41:43
35	石井悠太	横浜国立大学 1	0:42:43
36	小林日向	東京大学 1	0:43:00
37	指田真純	金沢大学 1	0:43:16
38	織田海斗	早稲田大学 1	0:43:20
39	植木崇司	金沢工業大学 1	0:44:19
40	良知駿樹	名古屋大学 1	0:45:07
41	藤本翔太	東京工業大学 1	0:45:22
42	三浦大輝	福島大学 1	0:46:06
43	山越広登	金沢大学 1	0:46:10

MUF2 続き			
44	黒澤祐貴	東北大学 1	0:46:38
45	西村肇倫	東北大学 1	0:47:01
46	島田侑	茨城大学 1	0:47:05
47	島名亮太	大阪大学 1	0:47:53
48	橋本直幸	筑波大学 1	0:48:06
49	三浦望	岩手県立大学 1	0:48:33
50	神野直紀	東京工業大学 1	0:48:37
51----	三上拓真	東京大学 1	0:48:58
52	坂上弘輝	横浜市立大学 1	0:49:42
53	青田正樹	新潟大学 1	0:49:55
54	浦原純	大阪大学 1	0:50:00
55	瀧下真一	静岡大学 1	0:52:42
56	山口広太郎	静岡大学 1	0:53:29
57	川島哲士	京都大学 1	0:54:10
58	盤野晶士	茨城大学 1	0:54:42
59	高橋宗平	金沢大学 1	0:56:50
60	米沢嘉彦	千葉大学 1	0:59:14
61	澤田隼弥	東京農工大学 1	1:00:09
62	山本徳高	岡山大学 1	1:01:12
63	穴戸伸弥	岩手県立大学 1	1:01:48
64	斎藤壮	金沢大学 1	1:03:36
65	小松宗一郎	新潟大学 1	1:04:13
66	宮本翔平	名古屋大学 1	1:04:29
67	齋藤和哉	静岡大学 1	1:04:37
68	大野亘毅	筑波大学 1	1:05:47
69	花川賢人	名古屋大学 1	1:06:05
70	馬場雄大	福島大学 1	1:07:35
71	中矢賢誠	大阪大学 1	1:07:57
72	澤村健司	東京理科大学 1	1:08:14
73	仁野平拓	筑波大学 1	1:09:10
74	梅村隼人	横浜市立大学 1	1:12:16
75	古田雄己	早稲田大学 1	1:14:55
76	鶴沼廉	千葉大学 1	1:19:04
77	芝山直希	茨城大学 1	1:22:45
78	日吉将大	金沢大学 1	1:23:49
79	宮川大輝	名古屋大学 1	1:36:29
80	皆川竣祐	京都大学 1	1:41:08
81	南部達也	慶應義塾大学 1	1:46:43
	林雅人	名古屋大学 1	DISQ
	伴広輝	京都大学 1	DISQ
	椎名渉	東京工業大学 1	DISQ

WUL 3.7 km ↑120 m			
順位	氏名	学校・学年	タイム
1	鈴木直美	筑波大学 2	0:39:00
2	石野陽子	京都大学 3	0:40:40
3	鈴木彩心	東京農工大学 4	0:42:43
4	椎名麻美	茨城大学 3	0:43:34
5	青島千映里	京都女子大学 2	0:44:17
6	平井はるな	千葉大学 4	0:44:21
7	下川千晴	奈良女子大学 4	0:44:38
8	有尾実紗	相模女子大学 3	0:45:10
9	田代あゆみ	東京農工大学 3	0:45:35
10	池田佳世	椋山女学園大学 4	0:45:50
11	保坂拓香	宮城学院女子大学 3	0:46:14
12	梶原裕希	東京大学 3	0:47:43
13	大山祐未	実践女子大学 3	0:47:54
14	本間実季	東北大学 3	0:48:08
15	砂田莉紗	横浜市立大学 4	0:48:15
16	西方美羽	北海道大学 3	0:48:21
17	長崎早也香	名古屋大学 2	0:48:33

WUL 続き		
18	石井萌子	実践女子大学 4 0:48:35
19	佐藤あかり	岩手県立大学 2 0:49:09
20	平入麻衣	横浜市立大学 3 0:49:18
21	横井里美	椋山女学園大学 4 0:49:42
22	平野伶奈	東北大学 2 0:50:19
23	長谷川真子	東北大学 2 0:50:22
24	野田桃子	大阪大学 3 0:50:50
25	佐藤未彩	宮城学院女子大学 2 0:50:57
26	中口典子	京都女子大学 3 0:51:18
27	渡邊志保	静岡大学 3 0:51:23
28	尾形奈津季	宮城学院女子大学 3 0:52:26
29	岩瀬万実	実践女子大学 4 0:52:31
30	井上佳南	奈良女子大学 3 0:52:47
31	海福朋子	津田塾大学 4 0:53:57
32	櫻井彩菜	相模女子大学 2 0:54:03
33	岩田真依	十文字学園女子大学 2 0:54:38
34	田口由紀	千葉大学 2 0:54:48
35	三浦やよい	相模女子大学 2 0:55:05
36	久保志穂子	椋山女学園大学 3 0:55:15
37	三橋寛子	静岡大学 2 0:55:19
38	橋爪佳菜子	椋山女学園大学 2 0:55:22
39	鈴木明日香	宮城学院女子大学 3 0:56:43
40	高橋理恵	奈良女子大学 4 0:57:35
41	片桐麻那	名古屋大学 2 0:58:20
42	新坂歩	東京農工大学 4 0:58:58
43	和田郁佳	実践女子大学 3 0:59:02
44	守屋知里	日本女子大学 2 0:59:10
45	竹川和佳子	京都大学 2 0:59:11
46	八重柏美緒	千葉大学 3 0:59:34
47	佐藤恵那	奈良女子大学 2 0:59:57
48	中村里奈	筑波大学 3 1:00:01
49	山口仁実	奈良女子大学 2 1:00:48
50	千葉史子	実践女子大学 4 1:00:59
51	杉原未奈	奈良女子大学 2 1:01:03
52	井上望	一橋大学 4 1:01:10
53	増田美穂子	奈良女子大学 4 1:01:42
54	若山映令彩	岩手大学 2 1:02:55
55	佐藤寛子	京都女子大学 2 1:03:23
56	岩井真恵美	宮城学院女子大学 3 1:03:28
57	安藤咲	横浜市立大学 2 1:03:41
58	山田祐理子	奈良女子大学 3 1:03:44
59	鎌田真苗	宮城学院女子大学 2 1:03:54
60	瀧澤明希	京都大学 2 1:04:23
61	吉澤佳奈	日本女子大学 2 1:05:42
62	坂本友里子	東北大学 2 1:05:55
63	星野詩歩	椋山女学園大学 2 1:05:58
64	稲垣亜希乃	東京農工大学 3 1:06:57
65	千賀幸	岩手大学 2 1:07:02
65	瀬戸みなみ	宮城学院女子大学 2 1:07:02
67	横山莉沙	椋山女学園大学 4 1:07:15
68	小山智子	千葉大学 2 1:07:43
69	金子奈央	十文字学園女子大学 2 1:07:46
70	七夕あかり	千葉大学 3 1:08:07
71	但木香澄	椋山女学園大学 3 1:08:44
72	木戸口桃子	岩手県立大学 2 1:09:07
73	都築筑帆	椋山女学園大学 3 1:09:57
74	上杉早有美	実践女子大学 4 1:09:58
75	玉井亜里沙	椋山女学園大学 4 1:10:49
76	中丸祝子	実践女子大学 3 1:10:52
77	海老岡こみち	横浜市立大学 2 1:10:55
78	千葉聡美	宮城学院女子大学 4 1:12:37
79	小谷麻緒	奈良女子大学 3 1:13:23

WUL 続き			
80	久保実穂子	梶山女学園大学 3	1:13:47
81	金山柚佳	京都女子大学 2	1:14:16
82	酒井夕貴	梶山女学園大学 3	1:14:22
83	佐々木菜摘	宮城学院女子大学 4	1:17:13
84	鈴木咲帆	お茶の水女子大学 3	1:18:16
85	小村彩葵	実践女子大学 3	1:19:33
86	山本穂波	梶山女学園大学 2	1:20:53
87	水谷文	梶山女学園大学 2	1:24:58
88	安永悦世	奈良女子大学 2	1:25:32
89	東又みのり	京都女子大学 3	1:27:58
90	藤谷彩夏	十文字学園女子大学 2	1:28:43
91	大野真由莉	奈良女子大学 2	1:33:08
92	佐藤理佳	津田塾大学 2	1:40:55
93	満井唯奈	武蔵野大学 3	1:46:47
	今野夏好	宮城学院女子大学 4	2:07:01
	福山美矩	梶山女学園大学 2	DISQ
	西垣裕希	梶山女学園大学 4	DISQ
	黒木結花	津田塾大学 4	DISQ
	西條志歩	宮城学院女子大学 3	DISQ
	南晴香	千葉大学 2	DISQ
	蔵並祥子	横浜市立大学 3	DISQ
	坂田真帆	京都女子大学 2	DISQ
	竹内美樹	梶山女学園大学 3	DISQ
	石田千佳	梶山女学園大学 2	DISQ
	尾山理子	京都女子大学 2	DISQ

WUS 2.3 km ↑50 m			
順位	氏名	学校・学年	タイム
1	林奈々	相模女子大学 3	0:27:16
2	内海春菜	宮城学院女子大学 4	0:34:25
3	山本美樹	実践女子大学 4	0:36:27
4	森春菜	金沢大学 2	0:43:41
5	門口美加	津田塾大学 3	0:44:22
6	小山柊子	金沢大学 2	0:48:42
7	晝河沙帆	梶山女学園大学 2	0:58:14
8	森優華	梶山女学園大学 2	1:02:27
9	松岡天音	東北大学 2	1:05:22
10	田中美穂	関東学院大学 2	1:07:04
11	上良智子	京都大学 2	1:14:40
	丁小萌	東北大学 2	2:45:22
	新倉康子	日本女子大学 2	DISQ
	亀山美沙紀	岩手大学 2	DISQ

WUF 2.6 km ↑90 m			
順位	氏名	学校・学年	タイム
1	勝山佳恵	茨城大学 1	0:21:30
2	香取菜穂	千葉大学 1	0:22:54
3	山森汐莉	金沢大学 1	0:23:01
4	村田茉奈美	フェリス学院大学 1	0:25:45
5	澤口未来	岩手県立大学 1	0:25:56
6	木村るび子	立教大学 1	0:26:05
7	藤本朱子	宮城学院女子大学 1	0:26:57
8	和田あゆみ	慶應義塾大学 1	0:27:44
9	八木千尋	東京農工大学 1	0:28:20
10	佐野萌子	京都女子大学 1	0:28:24
11	小野花織	梶山女学園大学 1	0:28:28
12	橋本咲良	金沢大学 1	0:28:37
13	横山結女	梶山女学園大学 1	0:28:46
14	金澤めぐみ	奈良女子大学 1	0:28:48
15	森谷風香	千葉大学 1	0:29:24

WUF 続き			
16	金林優美	奈良女子大学 1	0:29:27
17	岡本ひなの	奈良女子大学 1	0:30:05
18	立花和祈	実践女子大学 1	0:30:27
19	高橋ひなの	東北大学 1	0:30:50
20	陶山佳陽	東京農工大学 1	0:30:53
21	一宮菜津美	宮城学院女子大学 1	0:31:00
22	伊佐野はる香	東北大学 1	0:31:41
23	高橋夏菜子	奈良女子大学 1	0:32:02
24	佐藤瑞弥子	静岡大学 1	0:32:17
25	藤原麻結	岩手県立大学 1	0:32:18
26	畑中志乃	岩手大学 1	0:32:41
27	山田千真	宮城学院女子大学 1	0:32:56
28	小林美早紀	岩手大学 1	0:33:02
29	松永莉弥	宮城学院女子大学 1	0:33:05
30	佐久間文香	新潟大学 1	0:33:18
31	武田芽生	岩手県立大学 1	0:34:07
32	岡村花音	お茶の水女子大学 1	0:34:15
33	中島緑里	立教大学 1	0:34:40
34	稲垣秀奈美	千葉大学 1	0:35:16
35	水澤有奈	お茶の水女子大学 1	0:35:40
36	鶴本美樹	大阪大学 1	0:35:48
37	伊藤奈緒	静岡大学 1	0:35:57
38	杉崎晏香	相模女子大学 1	0:36:01
39	高橋友理奈	東北大学 1	0:36:13
40	玉木沙羅々	静岡大学 1	0:36:57
41	田口悠	津田塾大学 1	0:37:24
42	平松夕衣	横浜市立大学 1	0:37:25
43	松山琴美	梶山女学園大学 1	0:38:24
44	鈴木真由	梶山女学園大学 1	0:38:42
45	八木香織	跡見学園女子大学 1	0:39:12
46	戸谷みのり	奈良女子大学 1	0:39:39
47	筒井佑紀	京都女子大学 1	0:39:42
48	伊藤綾香	奈良女子大学 1	0:39:48
49	村山友梨	十文字学園女子大学 1	0:40:38
50	千葉香里	宮城学院女子大学 1	0:40:43
51	内堀百里子	京都女子大学 1	0:41:35
52	景山朝子	奈良女子大学 1	0:42:21
53	臼井沙耶香	東北大学 1	0:42:26
54	朝倉響子	奈良女子大学 1	0:42:40
55	ノーディング 怜奈	相模女子大学 1	0:43:15
56	土江千穂	京都女子大学 1	0:43:29
57	渡邊佳奈	奈良女子大学 1	0:44:34
58	吉澤佳帆	相模女子大学 1	0:44:49
59	小澤真帆	京都女子大学 1	0:45:27
59	野中瑞紀	奈良女子大学 1	0:45:27
61	加藤めぐみ	十文字学園女子大学 1	0:45:38
62	金田満帆	京都女子大学 1	0:45:48
63	浅田侑子	相模女子大学 1	0:46:10
64	増田風見花	実践女子大学 1	0:46:34
65	兵藤瑞穂	実践女子大学 1	0:47:50
66	山森麻未	梶山女学園大学 1	0:48:04
67	野口かりん	相模女子大学 1	0:50:13
68	小島由都	梶山女学園大学 1	0:50:29
69	飯田桃子	梶山女学園大学 1	0:50:31
70	柴田友里亜	奈良女子大学 1	0:50:52
71	浅井千穂	梶山女学園大学 1	0:52:39
72	大月南	京都女子大学 1	0:53:44
73	長谷翠	奈良女子大学 1	0:54:10
74	岩村優里	奈良女子大学 1	0:55:57
75	工藤英理子	京都女子大学 1	0:57:31
76	渡邊琴江	関東学院大学 1	0:57:51

WUF 続き			
77	松尾若奈	岩手県立大学 1	0:58:13
78	太田希美	梶山女学園大学 1	0:58:55
79	川治和奏	奈良女子大学 1	0:59:38
80	石黒桜子	奈良女子大学 1	1:01:32
81	杉浦満美	大阪大学 1	1:02:09
82	荻原沙季	津田塾大学 1	1:03:19
83	門倉美咲	千葉大学 1	1:03:56
84	橋本彩加	京都女子大学 1	1:05:53
85	藤島志帆	実践女子大学 1	1:07:54
86	新海由愛	関東学院大学 1	1:09:12
87	鈴木沙彩	梶山女学園大学 1	1:09:54
88	田中優里	奈良女子大学 1	1:12:01
89	下真理子	横浜市立大学 1	1:12:04
90	田沼美来	京都女子大学 1	1:13:04
91	赤熊由季	京都女子大学 1	1:15:39
92	安藤真輝	梶山女学園大学 1	1:16:18
93	久野桃子	梶山女学園大学 1	1:17:28
94	牛越裕衣子	奈良女子大学 1	1:40:34
	達城侑紀枝	梶山女学園大学 1	DISQ
	金森彩	金沢大学 1	DISQ
	寺島毬菜	梶山女学園大学 1	DISQ
	鈴木静華	梶山女学園大学 1	DISQ
	松澤佳世	梶山女学園大学 1	DISQ
	太田真由	奈良女子大学 1	DISQ

10

大会役員

1 責任者、担当一覧

スプリント実行委員長	齋藤 翔太	ロング実行委員長	石澤 俊崇
スプリント競技責任者	結城 克哉	ロング競技責任者	近藤 康満
副競技責任者	大西 康平	運営責任者	渡邊 彩子
渉外責任者	国沢 五月		
スプリントコース設定者	結城 克哉	ロングコース設定者	尾崎 弘和
広報責任者	石塚 脩之	会計責任者	平野 大輔
人事責任者	齋藤 翔太	資材責任者	山田晋太郎
地図責任者	西村 徳真	モデルイベント担当	平野 大輔
スタートパートチーフ	田村 直登	スタートパートサブチーフ	三谷 洋介
フィニッシュパートチーフ	燧 暁彦	フィニッシュパートサブチーフ	佐藤 大樹
会場パートチーフ	青木 佳世	会場パートサブチーフ	寺岡 倫子
演出パートチーフ	小林 遼		
競技救護パートチーフ	蜂須賀 久晴	競技救護パートサブチーフ	前田 裕太

イベント・アドバイザ 山上 大智

2

大会当日役員配置

<スプリント>

・本部	齋藤 翔太 [一橋 07]	山上 大智 [東京 07]	渡邊 彩子 [早稲田 11]
・会場/受付	結城 克哉 [東京 09] 青木 佳世 [東北 09] 平野 大輔 [名古屋 12] 齋藤 晏里 [東北 09] 山川 克則 [東京 77]	寺岡 倫子 [獨協 07] 谷川 徹 [東北 09] 西村 徳真 [京都 04]	平方 遥子 [東北 09] 石井 亘 [東北 09] 築山 絢 [早稲田 02]
・演出	小林 遼 [東京 07] 近藤 康満 [名古屋 10]	石塚 脩之 [東北 05] 藤村 陸 [早稲田 12]	石澤 俊崇 [早稲田 93]
・スタート	田村 直登 [東北 09]	三谷 洋介 [東京 09]	池田 純也 [一橋 09]
・フィニッシュ	燧 暁彦 [東京 09]	佐藤 大樹 [東京工業 11]	大場 隆夫
・競技	蜂須賀 久晴 [東京 11] 尾崎 弘和 [早稲田 11] 増山 友里子 [津田塾 09] 太田 晶久 [一橋 11] 佐野 まどか [東北 08] 中井 智規 [東北 08] 沢田 慧 [東北 10] 長縄 美春 [十文字 07] 尾崎 高志 [早稲田 01]	前田 裕太 [東京工業 01] 山田 晋太郎 [東京工業 10] 大西 康平 [京都 03] 田村 佳菜子 [岩手県立 09] 山田 宏 [東北 09] 田中 千晶 [お茶の水 10] 堀 滉司 [名古屋 11]	宗形 俊 [新潟 05] 古里 亮太 [東京 08] 細淵 晃平 [一橋 10] 稲垣 湧斗 [東北 11] 鹿志村 美帆 [東北 10] 影山 奨 [東北 07] 海老 成直 [中央 04]
・ビデオ	上林 弘敏		
・写真			

<ロング>

・本部	石澤 俊崇 [早稲田 93] 近藤 康満 [名古屋 10]	山上 大智 [東京 07]	渡邊 彩子 [早稲田 11]
・会場/受付	青木 佳世 [東北 09] 平野 大輔 [名古屋 12] 藤村 陸 [早稲田 12]	寺岡 倫子 [獨協 07] 谷川 徹 [東北 09]	平方 遥子 [東北 09] 石井 亘 [東北 09]
・演出	小林 遼 [東京 07] 結城 克哉 [東京 09]	齋藤 翔太 [一橋 07]	石塚 脩之 [東北 05]
・スタート	田村 直登 [東北 09] 大西 康平 [京都 03] 山田 晋太郎 [東京工業 10] 鹿志村 美帆 [東北 10]	三谷 洋介 [東京 09] 増山 友里子 [津田塾 09] 田村 佳菜子 [岩手県立 09]	池田 純也 [一橋 09] 尾崎 弘和 [早稲田 11] 古里 亮太 [東京 08]
・フィニッシュ	燧 暁彦 [東京 09] 西村 徳真 [京都 04] 佐野 まどか [東北 08]	佐藤 大樹 [東京工業 11] 中井 智規 [東北 08] 齋藤 晏里 [東北 09]	大場 隆夫 沢田 慧 [東北 10] 山田 宏 [東北 09] 影山 奨 [東北 07] 太田 晶久 [一橋 11] 国沢 楽 [桐朋高 2年]
・競技救護	蜂須賀 久晴 [東京 11] 細淵 晃平 [一橋 10] 稲垣 湧斗 [東北 11]	前田 裕太 [東工 01] 田中 千晶 [お茶の水 10] 堀 滉司 [名古屋 11]	
・写真	上林 弘敏		

事前準備協力

菅谷 裕志 [名古屋 08] 細川 知希 [名古屋 10]

地図調査

西村 徳真 石澤 俊崇

イベント・アドバイザー

山上 大智

裁定委員

・スプリント	渡辺 円香	源後 知行	長縄 知晃
・ロング	小暮喜代志	村越 久子	高橋 厚

2015 年度日本学生オリエンテーリング選手権大会
スプリント、ロング・ディスタンス競技部門
報告書

発行日：2016 年 2 月 20 日

発行元：日本学生オリエンテーリング連盟

所在地：〒112-0014 東京都文京区関口 3-18-12 目白台芙蓉ハイツ 104

TEL&FAX：050-2012-4825

Web サイト：<http://www.orienteering.com/~icl2015/>

発行責任者：石澤 俊崇、齋藤 翔太

編集責任者：石塚 脩之